

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	牛尾 奈緒美
1. 授業の概要・到達目標		
本ゼミナールでは、今一番社会に求められていること、必要なことは何なのか、問題発見のきっかけとして重要なキーワードとなるSDGsやESG経営について考えていく。		
SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を期限とする先進国を含む国際社会全体の17の開発目標を指す。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐるさまざまな課題に対し、民間企業をはじめ、すべてのステークホルダー（利害関係者）の取り組みが求められている。温暖化や水不足などの環境問題、人権問題や差別などの社会問題など、人類はさまざまな課題に直面しており、世界中の国々や企業、個人も総力をあげ課題解決に取り組むべき時が来たといっても過言ではない。		
企業の社会的責任に対する注目も年々高まっており、企業が長期的に成長するためには、経営においてESGの3つの観点が必要だという考え方方が世界中で広まりつつある。（ESG：環境（E: Environment）、社会（S: Social）、ガバナンス（G: Governance）の英語の頭文字を合わせた言葉）。		
こうした観点から、本授業では、グループに分かれて特定の社会課題を発見し、その課題を設定するに至った根拠となる事例や具体的な問題点を論理的に説明し口頭での研究発表を行う。適宜、社会課題に関する知識の提供として、ビデオ教材や書籍、論文・記事等の紹介も行い、情報共有を進める。		
授業の到達目標は、自分自身の問題意識を仲間と共有しながら議論し、最終的にはグループとしての研究発表にまとめ上げる能力を養うことにある。情報収集、分析、論理的思考、発表や議論でのコミュニケーション能力の向上も自指していく。		
2. 授業内容		
第一回 イントロダクション 第二回 プレゼンテーション① 第三回 プレゼンテーション② 第四回 プレゼンテーション③ 自己紹介を兼ね各自の考える社会的課題についてのプレゼンテーション 第五回 ビデオ視聴、資料、参考文献、記事・論文、企業のサステナビリティ報告書閲覧① 第六回 ビデオ視聴、資料、参考文献、記事・論文、企業のサステナビリティ報告書閲覧② 第七回 ビデオ視聴、資料、参考文献、記事・論文、企業のサステナビリティ報告書閲覧③ 第八回 ビデオ視聴、資料、参考文献、記事・論文、企業のサステナビリティ報告書閲覧④ 第九回 グループによる研究発表① 第十回 グループによる研究発表② 第十一回 グループによる研究発表③ 第十二回 グループによる研究発表④ 第十三回 グループによる研究発表⑤ 第十四回 総括		
3. 履修上の注意		
毎回、積極的に発言すること。ゼミナールへの参加姿勢により評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、理由を添えて事前に届け出ること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
予習については、前週に指示するので各自準備をして授業に臨むこと。事前に授業に関する資料を配布したり調べるべき課題を指定したりするので、それを読み自分なりの理解と考えを整理すること。		
5. 教科書		
適宜、提示する。		
6. 参考書		
適宜、提示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業内で指示する		
8. 成績評価の方法		
授業への出席率と議論への参加状況で50%、グループ発表や課題提出状況で50%として成績評価を行う。授業の出席は履修の必須条件のため、授業の欠席が多い者は失格となる。		
9. その他		
授業内容は今日的な企業動向や政府方針と直接的に関係するため、履修者は常時、時事問題やニュースに关心を払い、その知識に基づき議論に参加することが求められる。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	江下 雅之
1. 授業の概要・到達目標		
演習の目的は「公開された情報を用いたリサーチ」を実践することである。近年、データサイエンスが注目され、多くの大学・学部でデータサイエンスを軸にした専攻やカリキュラムが編成されている。その背景の一つとして、SNSやサブスクリプションの普及により消費者の行動がビッグデータ化されたことがある。つまり、かつてはアンケート調査やモニタリング調査を実施しなければ把握できなかった消費者の行動が電子的な「足跡」としてインターネット上に蓄積され、その多くが分析可能なオープンソースとなっているのである。また、電子政府の取組により官公庁の膨大な統計データや調査報告書がexcelファイルやpdfファイルで公開されている。つまり、現代社会はリサーチのための材料があふれているのである。その分析手法を修得することは、今後、商品開発や広告宣伝、マーケティング等の業務の遂行に不可欠となりつつある。		
この演習では、1980～90年代のストリート・スタイルを中心とするティーンズ・カルチャに注目し、サブカルチャとメディアの関係を学ぶ。その形成に際しては、それ以前とは異なる若者向け雑誌が大きな役割を果たしたとともに、ポケベルやプリクラなど、新たなメディア環境が若者により社会に浸透した。また、若者のファッショニの動向という点でも、その志向のみならず流行の伝搬経路に大きな変化が生じた。		
この時代のライフスタイルとメディアとの関係を、実際の雑誌資料を分析することを通じて学ぶ。具体的には、必要な前提知識を学ぶための講義をテーマごとにおこない、それにより習得できた知識を用いて、1) 表紙、2) 広告、3) 目次、4) 特集記事など、雑誌の分析実務で調査対象となるポイントの分析を、ワークショップ形式による作業で実践し、雑誌を用いたリサーチ実務の基本を習得することを到達目標とする。		
なお、近年はSNSが若者の主要な情報源になっていることはいうまでもない。ここで展開されるコミュニケーションは、若者の流行を分析うえで重要な情報源になっている。そこで本演習では、必要に応じてSNSの分析を試験的に実施する計画を立てているところである。		
2. 授業内容		
第1回 演習を進めるためのガイダンスおよびデータサイエンスに関する解説 第2回 リサーチのための講義（1）官公庁の統計データと報告書 第3回 ワークショップ（1）主な指定統計と白書 第4回 ワークショップ（1）データの整理と分析 第5回 ワークショップ（1）レポートの作成 第6回 リサーチのための講義（2）ソーシャルメディアの利用状況の分析 第7回 ワークショップ（2）主な分析例 第8回 ワークショップ（2）データの整理と分析 第9回 ワークショップ（2）レポートの作成 第10回 リサーチのための講義（3）ネットワーク分析の実際 第11回 ワークショップ（3）主な分析例 第12回 ワークショップ（3）データの整理と分析 第13回 ワークショップ（3）レポートの作成 第14回 演習のまとめ		
なお、以上はあくまでも予定であり、授業開始までに準備できた資料の内容あるいは受講生の要望により内容の一部とスケジュールを変更する可能性がある。とくにSNSの分析については、必要なデータとツールが利用可能な状態となるか否かによってリサーチの内容が決まるため、具体的な内容は演習開始後に決めざるをえない点をあらかじめ了承すること。		
3. 履修上の注意		
「講義と演習」の内容は、最終的には全体を網羅する予定だが、実際の順序は大幅に変更される場合がある。 データサイエンスでは一般に Python、R 等のプログラミング言語を使用するのが一般的だが、この演習はあくまでも「公開された情報を用いたリサーチ」が目的なので、プログラムの知識を前提とはしない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
演習で取りあげる事柄について、最低限の意味や社会的背景などを可能な範囲で調べておくこと。		
5. 教科書		
指定しない。		
6. 参考書		
リサーチのための講義のなかで紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
原則として3回の課題（グループワーク）を実施するが、課題を発表する回において、すぐれた内容および改善点をコメントする。		
8. 成績評価の方法		
ワークショップの成果で評価する（100%）。ただし、無断欠席が3回に達した時点で不合格とし、以後の出席を認めない。		
9. その他		
データサイエンスやリサーチの実務に興味のある学生を歓迎する。質問がある者はtwitterアカウント@massa27のプロフィールに掲載されたアドレス宛に問い合わせされること。		

		科目ナンバー：(IC)IND212J
問題発見テーマ演習 A		
2 単位	2 年次	小田 光康
<p>1. 授業の概要・到達目標 このゼミのテーマは麻薬撲滅のためのコーヒーのソーシャル・ビジネスに関する「メディア教材開発入門」です。タイ・ミャンマー・ラオスの麻薬密造地帯（ゴールデンライアングル）で、山岳少数民族が生産するコーヒーの生産・流通・販売について、日本国内で啓蒙広報するためのメディア教材の制作を実施します。</p> <p>この問題の背景には教育、言語、民族、政治、格差、貧困、階級、宗教、メディアといった社会問題が複雑に絡み合っています。これらの問題について調査したのちに、動画やアニメ、絵本などを利用してこれらの問題を解決するためのコーヒーのソーシャル・ビジネスによるメディア教材をワークショップ形式で製作します。</p> <p>このゼミでは和泉キャンパスで指定した土曜日にソーシャル・ビジネスとメディア教育に関する基礎知識を習得する集中演習を行います。その後、明治大学のセミナーハウスで2泊3日のワークショップを開き、2~3人のグループごとでメディア教材を完成させることを到達目標とします。この際、その発表・討論会、まとめを実施します。</p> <p>また、ゼミであるため合宿ゼミ中に、履修・学生生活・進路に関する個人面談も実施します。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 ゴールデンライアングルと麻薬の生産と取引に関する基礎知識（和泉） 第2回 ソーシャル・ビジネスに関する基礎知識（和泉） 第3回 メディア教材制作の基礎知識（和泉） 第4回 グループ分けとテーマ設定（和泉） 第5回 ワークショップ：アイスブレーキング（セミナーハウス1日目） 第6回 ワークショップ：テーマ設定と発表（セミナーハウス1日目） 第7回 ワークショップ：課題調査（1）（セミナーハウス2日目） 第8回 ワークショップ：課題調査（2）（セミナーハウス2日目） 第9回 ワークショップ：課題調査（3）（セミナーハウス2日目） 第10回 中間発表（セミナーハウス2日目） 第11回 ワークショップ：アウトプット制作（1）（セミナーハウス3日目） 第12回 ワークショップ：アウトプット制作（2）（セミナーハウス3日目） 第13回 ワークショップ：アウトプット制作（3）（セミナーハウス3日目） 第14回 最終発表、まとめと反省（セミナーハウス3日目）</p>		
<p>3. 履修上の注意 このゼミは4月15日土曜日午前中に和泉キャンパスで1回、明治大学セミナーハウスで5月12日午後から14日午後まで2泊3日の合宿形式で実施します。ワークショップ形式の協働学習なので、すべての授業に出席することを履修要件とします。また、セミナーハウス合宿参加費として約1万5000円が必要です。事前知識は必要ありません。パソコンは各自用意すること。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に東南アジア諸国、特にタイの政治・経済・社会・医療について調査してくること。</p>		
<p>5. 教科書 『公衆衛生』『社会福祉への招待』共に放送大学教材 『タイを知るための72章』綾部真雄編、明石書店 『ズーノシス（人獣共通感染症）ハンドブック』岸本寿夫、山田章雄編、Medical Science</p>		
<p>6. 参考書 『疫病と世界史（上）（下）』ウィリアム・マクニール著、佐々木昭夫訳、中公文庫 『実践フィールドワーク入門』佐藤郁哉著、有斐閣</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 合宿での研究発表について学生からの質疑応答や教員からの補足・助言でフィードバックをします。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 ワークショップへの参加度（50%）とアウトプット内容（50%）で評価する。全授業の出席を最低条件とする。</p>		
<p>9. その他 学生同士で、ある問題について徹底的に考え、議論し、答えを出すアプローチを学んでください。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	川島 高峰
1. 授業の概要・到達目標		
<p>授業の概要 本ゼミナールでは平成の社会文化の30年史を中心に、学ぶことにします。 平成の30年間といっても学生諸君の多くは平成15（2004）年前後の生まれで、平成時代の特徴がある程度、固まつた正に平成のど真ん中に生まれてきた世代になります。ものについてから記憶にある平成時代とは平成21（2009）年前後からでしょう。従って、授業では次のことを説明します。</p> <p>第一は、平成の社会文化の起原をサブカルチャーと脱昭和／ポスト昭和／反昭和に見出すことにし（勿論、これが正解というわけではないが）、これについて解説をします。</p> <p>第二は、平成の社会文化の出来事、事実関係についての確認と解説です。</p> <p>第三は、今日の日本の対外文化政策について学び、これを導入として現代日本のいくつかの文化現象を取り上げ、そのより深い理解のための解説をします。先進諸国は、どの国も成長政策の行き詰まりに直面しており、その打開の一つに文化による成長政策を掲げています。日本ならクール・ジャパンとか、ビット・ジャパンという標語を知っていると思います。それはツーリズム産業やコンテンツ産業の振興政策に現れます。スポーツ等の身体イベントや都市空間の創作（世界の観光地の殆どが都市）、そして、その対になる領域に必ず「里山回帰」、「自然回帰」があります。国連による世界遺産の認証とか、持続可能な観光開発といった指標も、これらの国際社会の動向と密接に関係しています。</p> <p>なお、この講座は担当教員が主担当しているペトナム国家大学・日越大学の科目「Contemporary Culture of Japan」と関連性を持たせて実施する部分がある。ペトナムの学生と何らかの意見交換の機会（同期もしくは非同期）を設定したい。</p>		
到達目標		
本ゼミナールでは平成の社会文化の30年史について、次の三つの問い合わせから学ぶことにします。		
<ol style="list-style-type: none"> 1 平成30年間の社会文化は、一体、あの時代の何を現わしていたのか？／象徴していたのか？ 2 それは今日の日本の社会文化、政治経済に何をもたらしているのか？ 3 そして、私たちはどんな未来の社会文化を創造していくのか？ <p>この三つの問い合わせで学生が学び、考え、議論し、将来、その実践に資するものを養うことを目標としています。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 ガイダンス 文化とは？ 元号と文化、世代と文化、文化と文明、アイデンティティと表現とメディアと</p> <p>第2回 文化的諸概念</p> <p>第一部 文化とは秩序への抵抗である サブカル、こうして始まった</p> <p>第3回 サブカル・グローバル編1</p> <p>第4回 サブカル・グローバル編2</p> <p>第5回 サブカル・ジャパン編1</p> <p>第6回 サブカル・ジャパン編2</p> <p>第二部 平成の社会文化史</p> <p>第7回 平成の社会文化史1 昭和終焉の時代（1989～1994年）</p> <p>第8回 平成の社会文化史2 溶けていく戦後日本 阪神淡路大震災／オウム（～2000年）</p> <p>第9回 平成の社会文化史3 内「遊」外患の2000年代</p> <p>第10回 平成の社会文化史4 「無縁社会」の拡大と3.11以降</p> <p>第三部 クール・ジャパンとその周辺</p> <p>第11回 クール・ジャパン1 そもそも、何ですか？</p> <p>第12回 クール・ジャパン2 旅の思想、世界遺産、日本紀行・新日本紀行・ふたたび</p> <p>第13回 クール・ジャパン3 身体イベント 「よさこい」からヨサコイへ、そして、YOSAKOIへ</p> <p>第14回 クール・ジャパン4 東京2020 & クールジャパン機構,etc その余りにも日本の栄光と挫折</p> <p>※ 順番が入れ替わることがあります。また情勢の変化により内容に追加や変更が生じる場合があります。</p>		
3. 履修上の注意		
必須ではありませんが、本ゼミの理解と学生間の親睦を深めるためにできるだけ講義科目「政治学」の履修することをおすすめします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
平成の自分史をワードなどで年譜風にまとめておきましょう。自身と日本と世界の政治・社会・経済・文化の出来事についての年表のようなものです。		
5. 教科書		
特定の教科書というものはありません。そもそも、教科書のない問題ばかりですが、「キーワードで見る 平成カルチャー30年史」三栄書房は、カタログ的に整理されていて便利です。内容がとても軽いので気楽に読めて良いでしょう。		
6. 参考書		
宮沢章夫『ニッポン戦後サブカルチャー史』NHK出版、面白いが、昭和世代による昭和世代のための回顧の鍵があり、平成世代には共感がしにくい語りかもしれない。しかし、日本のサブカルの歴史を戦後から2013年まで俯瞰するにはよいですよ。古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』講談社、指摘していることはとても正しい。作者の人柄の好悪はともかくとして。昭和と平成の世代的な交錯と断絶を考えるのにとっても良い。		
吉見俊也『都市のドラマトゥルギー』河出文庫、日本の社会文化論の古典です。但し明治大正まで廻って始まります。		
ダニエル・ペル『資本主義の文化的矛盾 上・中・下』講談社学術文庫。1950～70年代の米国の文脈なので必ずしも現代日本の理解に必要ではない。原論的考察としては重要なので紹介のみします。		
毎日新聞社『平成史全記録』（2019）辞書のように使って便利。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
レポートとして実施する学生の講義に対するコメントは、原則としてクラスでシェアして、その都度、講評を行う。		
8. 成績評価の方法		
講義に対するコメントで成績評価を行う。10回程度、実施予定であり、提出回数と内容で評価する。		
9. その他		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	熊田 聖
1. 授業の概要・到達目標		
このゼミのねらいは、調査、発表、レポート作成を行うことが出来るようになります。つまり、ある分野について学習したことを使う伝えていくことをトレーニングしていきます。対人的well-beingともいえます。そのため、選んだテーマに対し、調査・準備をし、授業は自由に皆さんの考えをのべてもらいう場となります。その上で、仲間の意見も知つてもらうよう、ディベートも行う予定です。また「思索トレーニング」では、学生の提案したテーマについて自分の考えをとめて提出します。		
思索トレーニングの内容：AかBの選択肢があるものを議論し、どちらが自分は良いと思うかをレポートにまとめる		
過去のテーマ例		
<ul style="list-style-type: none"> ・USJかディズニーランドか ・仕事はやりがいいか給料か ・自転車は乗れるようになっておくべきか ・ファンデーションはカバーフィルタクスチャーカ 		
SHOW (A)：理科の実験を小学生に伝えるつもりで分かりやすく発表しよう。		
SHOW (B)：質疑応答の形式で発表しよう。		
SHOW (C)：自由に発表しよう。		
なぜSHOWをするのか、なぜ理科実験の形式なのか、半期を通して考えてみましょう。		
エンターテイメントを意識した小学生レベルの理科の実験や絵本などを題材として表現の仕方を自分で考え発表します。発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれる様に心がけてください。その週の担当者が自分の考えてきた発表をします。		
その後、各自で関心のある問題を選択し、ディベートを行います。すなわち1回1回のゼミは皆さんを作りあげていく、比較的自由度の高いゼミです。		
SHOWはパワーポイント、口頭、その他やりやすい方法で自由に発表可能です。		
【到達目標】		
自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。		
2. 授業内容		
<p>第1回 発表スケジュール決定、名札作成</p> <p>第2回 SHOW (A)：思索トレーニング</p> <p>第3回 SHOW (A)、思索トレーニング</p> <p>第4回 SHOW (A)、思索トレーニング</p> <p>第5回 思索トレーニングディベート</p> <p>第6回 SHOW (B)、ディベートのテーマに関する感想提出、思索トレーニング</p> <p>第7回 SHOW (B)、思索トレーニング</p> <p>第8回 SHOW (B)、思索トレーニング</p> <p>第9回 SHOW (C)、思索トレーニング</p> <p>第10回 SHOW (C)、思索トレーニング</p> <p>第11回 SHOW (C)、思索トレーニング</p> <p>第12回 商品開発ゲーム</p> <p>第13回 仕掛け学に基づくアクティビティ (1)</p> <p>第14回 仕掛け学に基づくアクティビティ (2)</p>		
3. 履修上の注意		
このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に关心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。使用的する教科書の実践編がゼミです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
あえて理想的なShowを紹介することはしません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じたが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかつた情報は何か。あるいは反対に、自分は必要と感じなかつたが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。このような一連のプロセスを分析・改善し、次回のShowの準備のために新たな試行錯誤を経験する、という流れの全てを学びの機会と捉えてください。		
5. 教科書		
熊田聖『意思決定論理』泉文堂等、詳しく述べ授業内で連絡します。		
6. 参考書		
授業内で連絡します。また、必要な書籍はゼミ費で購入し配布します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
前回までの学生からのコメントに鑑み、授業の中で適宜解説していきます。課題に関しては、締め切り当日あるいは次回の対面授業、あるいは個人にてコメントします。		
8. 成績評価の方法		
評価は、		
<ol style="list-style-type: none"> 1) レジュメと発表内容 30% 2) 発表者へのアドバイス 30% 3) ディベートへの参加 20% 4) 思索トレーニングへの参加 20% <p>以上4点で行います。</p>		
9. その他		
男女比約1：1で楽しく仲良く活動しています。		
教科書はゼミ費より支給します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	後藤 晶
1. 授業の概要・到達目標		
テーマ： 「社会科学・行動科学のためのデータサイエンス入門」 授業の概要： 我々の生活は、常にデータに付きまとわれている。例えば、メールやGPSによる位置情報やECサイトによる購入情報などの大規模な行動データやSNSでのやりとりなどはその典型例である。これらのデータは大量に存在しており、様々な人間行動を反映している。これらの時代には、「データ」に対する理解は必要不可欠となるであろう。		
昨今では、「計算社会科学」という学術領域が確立されつつある。これはビッグデータや集合知などに関するモデリングや、SNS解析、インターネットを用いた調査法、オンライン実験などの手法を用いて、定量的に社会科学的な課題にアプローチする研究領域である。計算社会科学はコンピュータ技術の発展に支えられており、その技術発展によって社会科学研究の新たなフロンティアが創出され、社会科学研究の潮流に大きな影響を与えつつあるが、いずれの研究においてもビッグデータと呼ばれる「大量のデータ」を適切に分析し、うまく「付き合う」能力が必要となる。		
本演習では、このような「ビッグデータ」の時代を乗り越えるために、社会科学・行動科学で活用するためのデータサイエンスの基礎を学ぶ。具体的には、フリーの統計ソフトであるRを用いてデータ分析の基礎を学ぶ。この中でも、記述統計量の算出とデータの整理と可視化、およびR Markdownを用いたレポートティング（報告資料の作成）について学ぶ。		
なお、本演習ではデータサイエンスに関わるプログラミング要素も学ぶが、過去のプログラミング経験は問わない。過去にプログラミングを学んだことがない学生も臆せず参加してほしい。		
到達目標：		
1. データサイエンスの重要性を説明できる。 2. 記述統計量の意義を理解できる。 3. 必要に応じたデータの整理と可視化ができる。 4. R Markdownを用いた報告資料の作成ができる。		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション 第2回 記述統計量の算出（1） 第3回 記述統計量の算出（2） 第4回 記述統計量の算出（3） 第5回 データの整理（1） 第6回 データの整理（2） 第7回 データの整理（3） 第8回 報告資料の作成（1） 第9回 報告資料の作成（2） 第10回 報告資料の作成（3） 第11回 データの可視化（1） 第12回 データの可視化（2） 第13回 データの可視化（3） 第14回 総括		
3. 履修上の注意		
・演習形式の授業するために、出席を重要視する。また、発表担当者になった場合は必ず発表資料を用意して出席すること。 ・この授業ではRおよびRStudioを用いる。授業でも紹介するが、自宅のPCにもRおよびRStudioをインストールすること。 ・可能であればPCを持参して演習に参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
小課題の提出・発表の準備等が必要となる。		
5. 教科書		
『改訂2版 RユーザのためのRStudio【実践】入門』、松村優哉、湯谷啓明、紀ノ定保礼、前田和寛、技術評論社		
6. 参考書		
必要に応じて紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
毎回の授業でリアクションペーパーに対するコメントをする。		
8. 成績評価の方法		
毎回の授業への参加状況30%、課題の評価40%、レポート30% ・毎回の授業への参加状況：リアクションペーパー等を含めた授業への参加状況を評価する。 ・課題の評価：発表資料を評価する。 ・レポート：学期末にレポートを課す。		
9. その他		
演習形式としているが、授業内ではグループワークを重視する。担当教員が開講する「問題発見テーマ演習A」と「問題発見テーマ演習B」は異なるテーマを中心とするために連続して受講することを勧める。しかし、必ずしも連続した受講を前提としない。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	小林 秀行
1. 授業の概要・到達目標		
この講義の趣旨は、学習を通して、課題の発見・情報の入手・情報の整理・プレゼンテーション・レポート作成など、大学における学びの技法についての習得と実践を図ることにあります。講義の到達目標は、「正解のない問い合わせ合い方を獲得すること」「自ら問題設定ができる能力を獲得すること」「自然災害に関する基礎的知識を得ること」の3点とします。気候変動の影響を受けて世界的に増加傾向にある自然災害だけでなく、戦争や迫害、感染症、公害など、人類の歴史は「災禍（catastrophe）」と向き合い続けてきた歴史だともいっていきます。このような災禍はわれわれの生活を脅かし、時にはそのあり方を大きく変化させるため、様々な形のつながりを通し、その変化に対応しようとしてきたことは、現代社会の姿をみても理解できるところかと思います。この際、われわれは言語や絵画、音楽、映像、舞踊やモニュメントなど、多様な形のコミュニケーションを通して、災禍と向き合い、そして災禍の経験を継承しようと試みてきました。現代社会でコミュニケーションといえば、マスマディアやSNSがすぐに思い浮かんでくるかもしれません、このように社会の中で行われるコミュニケーションはきわめて多様であり、とりわけ人命がかかわる災禍をめぐっては、その1つ1つが試行錯誤のなかで紡ぎだされてきました。本講義では、このような事実を背景として「災害の記憶を発見する」をテーマに設定し、社会が災禍、とともに自然災害をどのように記憶し、継承しようとしてきたのかについて、「演習形式」で講義を開展します。つまり、受講生は上記のテーマに則して、自ら問い合わせを見出し、それに応えるという経験を段階的に進めていくことになり、担当教員は基礎的知識の講義や映像資料の提供のほか、その進捗に応じて指導を行います。講義内ではグループ・ディスカッションや質疑応答の時間も設け、受講生間での意見交換を図ることができる「ゼミナール形式」の機会を確保してはいますが、作業自体は基本的には各自の個別作業となります。講義内容の詳細については、「授業内容」を確認してください。なお、述べたように本講義では災禍、とともに自然災害を対象としています。災禍の議論は、常に、それによって苦しむ人々の存在と向き合うことになり、決して明るい話題とは言えません。しかし、誰かがそうした問題を議論し、解決のための道筋を考えなければ、社会には苦しむ人々が残されたままとなります。本講義は、大学における学びの技法についての習得と実践を図ることを主たる目的としており、どのような学生の受講も妨げるものではありませんが、上記の趣旨に賛同し、こうした問題について学んでみたいという学生を特に歓迎します。		
2. 授業内容		
第01回 イントロダクション：災害の記憶を“発見”する 第02回 講義①：災害をめぐる記憶と継承の現在 第03回 講義②：災害をめぐる記憶と継承のポリティクス 第04回 映像視聴① 第05回 映像視聴② 第06回 グループディスカッション① 第07回 映像視聴③ 第08回 映像視聴④ 第09回 グループディスカッション② 第10回 演習①：社会は災害をどのように記憶しているのか 第11回 演習②：社会は災害をどのように記憶しているのか 第12回 演習③：社会は災害をどのように記憶しているのか 第13回 演習④：社会は災害をどのように記憶しているのか 第14回 演習⑤：社会は災害をどのように記憶しているのか		
(担当教員の判断により、適宜変更することがあります。)		
3. 履修上の注意		
○本講義は主として演習形式となり、講義外の時間での作業など、受講生の主体的な関わりなしには成立しません。こうした関わりが不十分な場合、履修の意志がないものとみなし、単位認定を行わないことがありますので注意してください。 ○環境への配慮、感染症に対する感染防御の観点から、配布物やリアクション・ペーパー等はすべてoh-meijiを通して行います。そのため、講義中にPC等で資料を閲覧することを認めます。紙媒体で資料を用意するよう指示があった場合や、必要を感じた場合は各自で印刷をお願いします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
予習：自身の問い合わせについて、計画的に作業を進めておくこと。 復習：各回における資料や議論を整理し、発見した点や疑問点を明確にしておくこと。		
5. 教科書		
特になし。適宜資料を配布します。		
6. 参考書		
特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
フィードバックについては、主としてoh-meijiを通じて全体向けに行う。		
8. 成績評価の方法		
講義への主体的な参加（30%）、期末レポート（4,000字以上）（70%） なお、4回以上欠席した場合、単位認定を行わないで注意すること。		
9. その他		
自然災害は社会の実像を映し出す鏡ともいわれます。決して明るいテーマとは言えませんが、自然災害を正面から見据えることで、当たり前と思っていた現代社会にも、多くの疑問が浮かんできます。3年次以降、自分なりの問い、専門分野をもちたいと考えつつも、未だ見つかっていないという学生には、それを発見する一助になるかと思います。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	坂本 祐太
1. 授業の概要・到達目標		
<授業の概要> 「勝手に部屋の掃除をしてくれるロボットがあればいいのに」 「勝手に料理を作ってくれるロボットがあればいいのに」 「勝手に荷物を運んでくれるロボットがあればいいのに」 といった我々人間の多くの願い（欲望）は、これまで人工知能によって叶えられてきました。近年の人工知能の発達は目覚ましく、将棋・囲碁・チェスの世界では一流のプロをも打ち負かし、我々人間の知能を分野によっては遙かに凌駕しているのが現実です。皆さんも「人工知能の発達によって、我々人間の仕事が将来無くなるのではないか...」という議論を一度は耳にしたことがあるかもしれません。		
本ゼミナールでは、人工知能に関する物語を読み進める中で、「人工知能と我々人間は何が違うのか」という問い合わせに「ことば」の観点から迫ることとします。春学期の問題発見テーマ演習Aで教科書として扱う物語の中では、働くことに嫌気が差しているイタチたちが「して欲しいことを言うだけで、勝手にやってくれるすごいロボットの計画」を立て、その制作に向けて奮闘していく姿が描かれています。イタチたちが望むロボットは当然ことばを理解しなければいけませんが、我々人間と同じレベルでロボットがことばを理解することは可能なのでしょうか。そして、そもそもことばを理解することはどういうことなのでしょうか。このような問い合わせに取り組む中で、「人工知能の仕組み」だけではなく、我々人間が日常的に他者とコミュニケーションをとる際に行っている「ことばの理解」の仕組みについて考えてていきます。		
また、ゼミナール後半では、まとめとして教科書で学んだことをベースに人工知能に関するトピックをグループ単位で自由に設定し、調査を行い、その結果を発表していただきます。		
<授業の到達目標>		
・文献の要点を簡潔にまとめ、他者に分かりやすく伝える力を身につける ・人工知能と人間の違いについて自分のことばで他者に伝える力を身につける		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション 第2回 「言葉が聞き取れること」 第3回 「おしゃべりができること」 第4回 「質問に正しく答えること」 第5回 「言葉と外の世界を関係づけられること」 第6回 「文と文の論理的な関係が分かること（1）」 第7回 「文と文の論理的な関係が分かること（2）」 第8回 「単語の意味についての知識を持っていること」 第9回 「話し手の意図を推測すること」 第10回 グループワーク① 第11回 調査計画の発表 第12回 グループワーク② 第13回 グループワーク③ 第14回 調査報告及び春学期のまとめ		
3. 履修上の注意		
プレゼンテーションやディスカッションを多く取り入れるため、積極的な姿勢を持って参加することが望ましい。また、プレゼンテーションの担当になった場合は、責任をもって準備を行うこと。履修上、人工知能に関する知識は一切必要ありません。		
また受講者の興味関心により使用するテキストや内容を変更することができますので、教科書の購入はゼミが始まってからにしてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
<予習>物語の精読・発表の準備 <復習>授業内で学んだこと及び疑問に思ったことの整理		
5. 教科書		
『働きたくないイタチと言葉がわかるロボット』川添愛（朝日出版社）		
6. 参考書		
特になし		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
ゼミナール科目なので、メール等で個別に行う。		
8. 成績評価の方法		
授業への貢献度60%、プレゼンテーション40%		
9. その他		
教員が担当している「言語学」の授業及び文学部開講の「英語学概論」「統語論」「音声学」の授業などを併せて履修すると、問題発見テーマ演習Aでの活動に有益かと思います。春学期・秋学期共に人工知能（AI）をテーマに扱いますが、物語はそれぞれ独立したものを用いるため、問題発見テーマ演習Aのみの履修も歓迎します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	施 利平
1. 授業の概要・到達目標		
演習テーマ 「問題発見テーマ演習A（家族社会学入門A）」 愛情と家事		
授業の到達目標		
家族を演習のテーマとする。演習の到達目標は二つある。第一の目標は、家族生活の仕組みを知り、家族と社会の関係性を考えることである。第二の目標は、各受講生の生き方やライフスタイルを考えるきっかけを作り、それらを明確にすることである。		
2. 授業内容		
演習Aでは、白河桃子・是枝俊悟『「逃げ恥」にみる結婚の経済学』を購読し、「逃げ恥」が明らかにした家事労働の経済価値」「「逃げ恥」が象徴する現代日本の結婚事情」「育児の対価はいくら？」「雇用型」から「共同事業型」へ」「生存戦略としての結婚2.0は「共同経営責任者」「二人の将来像シミュレーション」を勉強する予定である。		
受講生でテキストを輪読し、各自担当部分を発表し、全員でディスカッションを行なう。このプロセスの中で、レジメの作成、人前で自分自身の意見を表現することを学習するとともに、輪読とディスカッションを通して、家族生活と社会構造、個々人の生き方の変容を把握した上で、各個人の理想とする生き方やライフスタイルを明確にする。		
3. 履修上の注意		
重視項目 文章購読、ディスカッション、プレゼンテーション		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
発表担当者は発表レジメを用意し、その他の学生は事前に授業内容に関連する質問を2～3問用意してくること		
5. 教科書		
『「逃げ恥」にみる結婚の経済学』白河桃子・是枝俊悟（2017）毎日新聞出版		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業中にフィードバックする		
8. 成績評価の方法		
成績評価の方法 授業参加、発表とレポートで総合的に評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	島田 剛
1. 授業の概要・到達目標		
<p>コーヒーとチョコレートはどんな人が生産し、どのようにして私たちの元に届くのでしょうか？そして生産者の人たちはどんな暮らしをして、何を考え、感じているのでしょうか？</p> <p>グローバリゼーションが進み世界が一体化するとともに、国内でも世界でも経済格差が拡大しています。このゼミでは国内と途上国の貧困を同時に考えます。</p> <p>このゼミではグループでのディスカッションとプレゼンテーションを中心です。コーヒー（あるいはチョコレート）を題材として取り上げ、国内外の貧困問題を皆で議論をします（数週間に1度は発表）。最終的にはグループでテーマを決めて、どのようにすれば貧困問題を解決できるのかについて発表を行います。</p> <p>（到達目標）ゼミ生はコーヒーという財を通じて、世界経済と国際協力のあり方について理解を深め国際経済を見る視点を身につける</p>		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション 第2回 研究のノウハウの復習 第3回 コーヒーからみるグローバリゼーション 第4回 国内の貧困問題の現状分析① 第5回 国内の貧困問題の現状分析② 第6回 途上国の現状分析① 第7回 途上国の現状分析② 第8回 国内の貧困問題と途上国の貧困問題に共通するものは何か、違いは何か 第9回 街づくりを考える 第10回 国内外の格差と地方 第11回 グループ発表準備① データー収集・分析 第12回 グループ発表準備② 論点の確認 第13回 グループ発表① 第14回 グループ発表② 第15回 まとめ		
3. 履修上の注意		
<p>3-4年の島田ゼミのHPを見るとゼミの内容がイメージしやすくなるのでぜひ見ることをおすすめします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神保町コーヒープロジェクト (https://jimbocho-coffee.com/) ・3分の1のパン屋さん (https://meijinow.jp/meidainews/news/65614) ・スティグリツ教授（ノーベル経済学賞）との対話 (https://youtu.be/VjmxTheLvv8) <p>講師が別に開講しているミクロ経済学、マクロ経済学の授業を受講することが望ましい。</p>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
プレゼンテーションの準備が必要。		
5. 教科書		
なし		
6. 参考書		
島田剛（2023）「ミクロ経済学への招待」（新世社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
ゼミにおける発表に対しコメントをすることによりフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法		
発表（60%）、ディスカッションへの貢献度（40%） 欠席・遅刻が多い場合は不可とします。無断欠席5回で以後の参加を認めません。		
9. その他		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	清水 晶紀
1. 授業の概要・到達目標		
<p>【授業概要】お酒の法律学（法解釈編） 20歳になる（なった）みなさんにとって一番劇的かつ身近な変化は、お酒が「解禁」になることでしょう。これは、法律が20歳未満の飲酒を禁止しているからです。実は、お酒をめぐっては、製造・流通・販売・消費・廃棄の各段階で、様々な法律が関係しています。そこで、本演習では、私たちに身近な「お酒」を素材に、法律学の基礎的な思考方法を身につけてもらいたいと考えています。</p> <p>法律学は、大きく分けて法解釈学と法政策学に分かれますが、Aでは、現存する紛争解決にむけ、法律の適切な解釈を探る法解釈学を取り上げます。</p> <p>具体的には、「お酒」に関わる憲法・民法・刑法の各分野の裁判例を検討することによって、各法分野の特徴や発想を把握してもらうとともに、「お酒」の世界を通じて、法解釈学が私たちの社会生活の基礎を形成する身近な学問だということを実感してもらいたいと思っています。</p> <p>これから的人生において、お酒を嗜む（予定の）みなさんは勿論、そうでないみなさんも、社会生活上の色々な場面でお酒の問題と接点を持つことになるでしょう。お酒の世界を通じて、法解釈学の世界と一緒に覗いてみませんか。</p>		
【到達目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・法律学の全体像を大まかに把握できていること ・法的な発想に基づいて演習中の議論を行えていること ・基本的な法律用語を独力で使いこなせていること 		
2. 授業内容		
1. イントロダクション（自己紹介・演習の進め方） 2. 図書館ガイド 3. 報告・ディベートの作法 4. 法学入門①〈刑法〉 5. ディベート準備①〈刑法〉 6. ディベート①〈刑法〉 7. 映画視聴 8. 法学入門②〈民法〉 9. ディベート準備②〈民法〉 10. ディベート②〈民法〉 11. 施設見学 12. 法学入門③〈憲法〉 13. ディベート準備③〈憲法〉 14. ディベート③〈憲法〉		
※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。		
3. 履修上の注意		
参加者のみなさんの希望によっては、施設見学（ビール工場、ウィスキー工場、酒蔵、ワイナリー等）の実施を検討します。その際には、演習時間外に実施する可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
報告・ディベート等の準備は、演習時間外に行うことになります。また、担当教員としては、演習で企画する各種イベントへの参加も、広い意味で「学習」の一環と考えています。		
5. 教科書		
特に指定しません。		
6. 参考書		
適宜指示しますが、「お酒の法律学」に関わる入門書として、松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫『はじめての法律学〔第6版〕』（有斐閣・2020）を挙げておきます。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
ゼミナール形式のため、学生による報告や議論については、そのタイミングで適宜フィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法		
演習は学生主体のクラスのため、出席は当然の前提です。その上で、演習での報告内容（50%）、議論への参加状況（30%）、レポート内容（20%）を総合的に評価します。		
9. その他		
「演習の主役」は学生であり、この演習を楽しくするのも、つまらなくなるのも、みなさん次第です。「よく学び、よく議論し、よく遊ぶ」みんなの履修を歓迎します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	鈴木 健人
1. 授業の概要・到達目標		
<p>【授業の概要】国際社会における対立と協調の両面から、国際関係論を学び、「問題分析ゼミナール」で自らの研究課題を設定し学習するための準備をする。国際政治における戦争と平和の問題に焦点をあて、現実主義の理論と、カントに代表される平和思想について学ぶ。国家のアイデンティティについて考え、構成主義の国際政治理論について入門する。国際社会の情報のあり方やコミュニケーションの構造について考える。</p> <p>ゼミでは毎回、一人が設定されたテーマや教科書の割り当て部分について研究報告をしてもらい、問題点を全員で議論する。ある程度専門的な知識に基づいて議論できるようになつたら、自分の興味ある研究テーマについてレポートを提出してもらい文章の表現力を養う。</p> <p>【到達目標】3年次以降の専門性の高い授業に対応できるような能力を身に付ける。理論や歴史を駆使して現代の国際社会で起こっている様々な問題を理解できるようにする。</p>		
2. 授業内容		
第1回 導入と報告者の割り当て 第2回 国際関係の理論（1）現実主義 第3回 国際関係の理論（2）自由主義 第4回 国際関係の理論（3）構成主義 第5回 戦争違法化の歴史と発展 第6回 20世紀の戦争（1）第一次世界大戦 第7回 20世紀の戦争（2）第二次世界大戦 第8回 20世紀の戦争（3）冷戦 第9回 核兵器の誕生とその意味 第10回 民主的平和論の展開と問題点 第11回 新しい戦争か？テロと対テロ戦争 第12回 日米安保体制の諸問題 第13回 変わる日本外交 第14回 展望：21世紀の世界		
3. 履修上の注意		
専門的な著作や論文をかなり大量に読む予定なので、しっかりと読書し内容を批判的に考察し、自分の意見をまとめられるようにすること。専門用語についても臆せず学ぶ意欲を持つこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
平素から国際問題に关心を持ち、新聞、テレビ、インターネットなどで広く知識を求めるこ		
5. 教科書		
入江昭『二十世紀の戦争と平和』（増補版）（東京大学出版会（UP選書）、2000年） カント『永遠平和のために／啓蒙とは何か他3篇』（中山元訳）（光文社古典新訳文庫、2006年） その他、適宜資料を配付する。		
6. 参考書		
無し		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業中に行ったり、授業終了後にOh-oMeiji!で講評を連絡する。		
8. 成績評価の方法		
発表の内容30%、クラスでの参加度40%、レポート30%として全体的な評価をする。		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	鈴木 雅博
1. 授業の概要・到達目標		
従来の研究では、まず研究者が対象に関わる概念を定義づけ、それを起点にデータを収集・分析し、一般化可能な知見を導き出す、といったことが試みられてきました。これは自然科学に範をとったものですが、社会（科）学が対象とする、当事者たちは、研究者が外挿する定義とは関係なく、自分たちなりに何らかの概念を参照して日常生活を送っています。しかもそれは、参照されることはあっても、されないこともあります、そうであらんがらも当のその人たちは意識するまでもなく十分にそれを使いこなしているという代物です。		
例えは、「授業」について研究者が定義を与えたとしても、人びとはそれに従って「授業」をしているわけではないでしょう。むしろ「授業」はその場の人びとの具体的なやりとりのなかで、それとして達成されているのです。一つの例を考えてみましょう。教師が「今、授業中ですよ」と発言する時、私たちはそれを単なる事実の報告ではなく、不真面目な生徒への「注意」として聞いています。「生徒」には「授業を真面目に受ける」ことが、「教師」には「授業中に不真面目な生徒を注意する」という活動がそれぞれ規範的に結びついており、こうした概念間の結びつきが先の発言を「注意」として成立させています。		
しかし、人びとはこうした規範を内面化し、それに従って生きているわけではありません。生徒のなかには教師の注意に対し、「は？ うぜーんだよ、おっさん」と答える者もいるでしょう。確かにその教師は「おっさん」であり、そのこと自体は「正しい」のですが、おそらく教師は「そうです、私がおっさんです」とは応じないでしょう。彼が「教師である」ことを達成できるか否か、すなわち「教師／おっさん」のどちらがその場において有効な枠組みとなるかは、外から与えられる定義や制度ではなく、その場のやりとりにかかるでいるのです。		
このような、その場のやりとりをそれとして理解可能なものとしている人びとの方法の論理、ならびにそれを明らかにする研究をエスノメソドロジーと呼びます。これは「今、授業中ですよ」といった教師の「注意」を数えたり、発言をめぐる教師や生徒の心理を聴きだすことで「授業」に関する何らかの仮説を生成／検証しようといったプログラムではありません。そうではなく、エスノメソドロジーは、私たちがその発言を「注意」として理解する／してしまうことをめぐる「授業／教師／生徒」といった概念間の布置やその達成を人びとの実践に即して明らかにすることを目指します。		
本演習の到達目標は、エスノメソドロジーの基礎を理解することです。授業は教科書・文献の読解と討論によって進められます。人びとの実践を明らかにすることはいかなることなのか、一緒に学んでいきましょう。		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション 第2回 エスノメソドロジーとは何か① 第3回 エスノメソドロジーとは何か② 第4回 エスノメソドロジーと自己省察 第5回 家族生活と日常会話 第6回 公共の場所に出かける 第7回 助けてもらうためにトーキーを使う 第8回 教育を観察する 第9回 医者にかかる 第10回 組織のなかで働く 第11回 科学を観察する 第12回 「日本人である」ことすること 第13回 成員カラゴリーの管理：「ホットロッダー」 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意		
問題発見テーマ演習B（学校社会学入門）でもエスノメソドロジーに関連する文献を検討をするので、あわせて受講することをお勧めします。 欠席5回で評価対象外となります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
発表担当でない時も、必ず文献を精読し、自分なりの論点をもってゼミに臨んでください。		
5. 教科書		
『エスノメソドロジーへの招待』 フランシス／ヘスター著、中河伸俊・岡田光弘・是文論・小宮友根訳、ナカニシヤ出版、2013。		
6. 参考書		
『ワードマップ エスノメソドロジー』 前田泰樹・水川喜文・岡田光弘編、新曜社、2007. 『相互行為分析という視点』 西阪仰、金子書房、1997.		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業中に行います。		
8. 成績評価の方法		
議論への参加態度（20%）、レポーターとしての発表（80%）。		
9. その他		
ゼミで聞いたこと／言ったこと／言えなかったことを反芻することが思考を深化させます。心がけましょう。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	関口 裕昭
1. 授業の概要・到達目標 「メルヘン研究」 グリム童話を中心にしたメルヘンを様々な角度から考察します。 まず、グリム童話「白雪姫」の原テクスト（最終版＝第7版、1857年版）を日本語訳で読み、それが初版(1812年版)から版を重ねるにつれてどのように書き換えられてきたのか、また変更された理由を考えます。また原テクストとさまざまな絵本との比較を通して、時代や対象年齢などに応じてどのように書き換えられているのか、またその理由も考えます。さらに「いばら姫」「ラブンツェル」、「灰かぶり（シンデレラ）」などのプリントセスのものを、ディズニーをはじめとするさまざまな映画と比較検討し、時代に応じて道徳観や女性のイメージがどのように変化し、受容されたかを考察します。 次に「ヘンゼルとグレーテル」を題材にして、絵本の比較のみならず、その作品が日本でどのように読まれ、別の文学作品に書き換えられていったのかを多和田葉子らの作品をもとに考えます。 最後に、日本をはじめ世界各地のメルヘンと比較して、共通点と相違点を探ります。 テクストを精読し、テーマを決めて分析する基礎的な手法を身につけます。また文学と映画、アニメなど様々なジャンルを比較考察する手法を学びます。（ただしコロナウイルス感染拡大により、対面授業が不可能となった場合は、他の教材に差し替えることがあります）		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション——メルヘンとは何か？ 第2回 グリム童話「白雪姫」の原典(第7版)精読 第3回 「白雪姫」の様々な絵本の比較 第4回 「白雪姫」の初版と最終版の比較 第5回 「白雪姫」の分析—類話、話型、モチーフ、アダプテーションなどの視点から 第6回 グループごとのミニ・プレゼンテーション 第7回 グリム童話におけるプリントセスものを読む①—「いばら姫」 第8回 グリム童話におけるプリントセスものを読む②—「ラブンツェル」 第9回 グリム童話におけるプリントセスものを読む③—「灰かぶり(シンデレラ)」 第10回 グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」精読 第11回 「ヘンゼルとグレーテル」のさまざまな絵本の比較 第12回 「ヘンゼルとグレーテル」の日本における受容 第13回 学期末プレゼンテーション① 第14回 学期末プレゼンテーション②+まとめ (以上はおおよそのスケジュールで、受講生の希望も聞きながら変更することがあります)		
3. 履修上の注意 ・10回以上出席しないと単位は取得できません。 ・授業中の飲食、スマート利用を禁止します。大学の勉強ではノートの取り方も重要なことで、このゼミでは自分の手で要点をまとめていくことも学んでもらいます。プレゼンの際には1枚のレジュメ(紙媒体)を作って、参加者に配布することを求めます。したがって、授業の際もいつもスマートを見きみ込む癖の抜けない人の受講は薦められません。 毎年思うのですが、大学での学習で一番重要なのは「積み重ね」であり、あるテーマを深く掘り下げることです。広い視野を持つことは大切ですが、だからといってむやみに広く浅く学ぶだけでは本当の学問は身につきません。このゼミナールは「問題発見」と銘打たれているように、3年生、4年生の「問題分析ゼミ」「問題解決ゼミ」でさらに学習を深めていくための準備段階と私は位置づけています。もちろん強調しておかななければなりませんが、このゼミを履修したからと言って、3年生の本ゼミで私のゼミを選ぶ義務はまったくありません。履修した後に、興味が変わったり、ゼミの内容が思ったのとは違ったり、不満を感じることもあるでしょう。しかし「ちょっと面白そうだから」「メルヘンってかっこよさそうだから」「ディズニー・プリントセスが好きだから」などという極めて表面的な理由で(実際、このゼミはこの数年間そうした学生で満杯の状態です)、はなから2年生の前期限定で、「雑学」を身に着けることが目当で受講しようとしている学生はどうかご遠慮下さい。メルヘンのことは「外国文學」や「比較文化・比較文學」でも扱っておりますので、そちらを聴講して下さい。 大学での専門的な学問に入る前に、なるべく親しみやすいテーマを選び、多くの人に門戸を開けることは重要で、そうした意味からこのゼミでも「メルヘン」を扱っています。しかし私が皆さんに本当に伝えたいのは、そうした背後にいる本物の文学の豊かな世界と奥深さであり、文学はこの複雑で理解不可能な現代の情報社会を生き抜くためにもきわめて有効な手段なのです。ところが、本当に伝えたい深い内容に移行する前に、その前座にある仮の像をかじるだけで、ほとんどの学生が目の前から去ってしまうのは誠に残念な話ではありませんか！こうしたことをご理解の上、履修するかどうかを決めてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業開始までにグリム童話の文庫本を1冊以上購入し、10以上の話を読んでおくこと。		
5. 教科書 随時プリントを配布します。オンライン授業の場合は、パワーポイント資料を提示します。		
6. 参考書 各自、グリム童話を文庫で購入して、読んでおくこと。訳は特に指定しません。参考書は授業中に紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で適宜指示します。		
8. 成績評価の方法 平常点50%（出席+発言+グループ発表）学期末のレポート（またはプレゼン）50%		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	竹中 克久
1. 授業の概要・到達目標 私たちは多様な価値観に基づく社会に生きています。 そこでは、「常識」と呼ばれるものが存在していますが、その根拠についてはあまり詳しく論じられることはありません。私たちは、恋愛や家族といった身近な社会から、階層や国家という大きな社会まで、ふだんの生活を送るなかで「当たり前」となったモノの見方にとらわれていることが少なくありません。 しかし、物事を常識的に考えるだけでは、社会で起こっている様々な問題——モンスターペアレン特、格差問題、環境問題などを解決することは不可能なことはもちろん、何が問題になっているのかを考えることすらできません。常識を疑い、自分なりの論理で説明し直すためには、まず自分なりの「モノの見方」を身につけることが重要です。 本ゼミナールでは、主として常識にとらわれない見方の一つとして社会学的な「モノの見方」を学びます。 ゼミナールでは、教科書に沿って、ディスカッションを行っていきます。また、その際、各章の担当者はグループ・ディスカッションを行うテーマを設定することが求められます。 3年次以降の卒業論文作成のためのテーマを見つけることを到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション——社会学とは何か 第2回 社会学とはどういう学問か一個人と社会 第3回 日常生活と社会—相互行為の社会学 第4回 社会の時間と個人の時間—時間の社会学 第5回 ファッションがつなぐ社会と私—身体の社会学 第6回 現代的な生きづらさ—マイノリティの社会学 第7回 性／性別の「あたりまえ」を問い直す—ジェンダーとセクシュアリティの社会学 第8回 社会のなかの医療—健康と病の社会学 第9回 マンガが生み出す読者たちの共同体—メディア受容の社会学 第10回 観光現象から考える「社会」と「私たち」のすがた—観光の社会学 第11回 日常の中の非日常—消費の社会学 第12回 秩序が束縛か—組織の社会学 第13回 現代社会の諸問題 I 第14回 現代社会の諸問題 II ※シラバスは変更になることもある。		
3. 履修上の注意 事前準備ならびにディスカッションへ積極的な取り組みが必要となる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必ず事前に教科書を熟読し、与えられた課題について自らの考えを用意して臨むこと。 ※教科書は一括で購入するため、事前に購入する必要はない。		
5. 教科書 「社会学（3STEPシリーズ）」油井清光、白鳥義彦、梅村麦生（編）、昭和堂 ※教科書は一括で購入するため、事前に購入する必要はない。		
6. 参考書 必要に応じて指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回のディスカッションにおいてフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、ディスカッション25%、レポート25%		
9. その他 物事について深く考えるのが好きな学生、物事を疑ってかかる学生を歓迎する。1、2年次に「組織論」を受講していると理解がしやすい。		

科目ナンバー：(IC)IND212J																														
問題発見テーマ演習 A																														
2単位	2年次	塚原 康博																												
1. 授業の概要・到達目標																														
<p>この授業では、日本人と日本社会について学ぶ。授業の進め方は、各回の授業のテーマに沿った発表をゼミ生がパワーポイントを使って行い、その後、質疑応答に入る。さらに、その後、教員が補足説明をして、質疑応答に入る。必要に応じて、教員が現実の事象を取り上げ、それについて解説し、それについても質疑応答を行う。授業の最後の回では、この授業で扱った内容に関係したテーマもしくはゼミ生自身が関心を持ったテーマについて、順番に発表してもらう。</p> <p>この授業を通じて、ゼミ生に社会を論理的かつ有機的に考える思考を身につけてもらうこと、国民性の違いなど現実の社会についての知識を深めてもらうこと、人の話を聞き、自分の話を正確かつわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション能力を身につけてもらうことを目標とする。</p>																														
2. 授業内容																														
<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>イントロダクション</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>河合隼雄の「中空構造」、丸山真男の「無限包容性」と「無自覚的雑居性」、大野晋・森本哲郎・鈴木孝夫の「日本論」、前野隆司の「日本論」、新渡戸稟造の「武士道」</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>ルース・ベネディクトの「階層社会」、中根千枝の「タテ社会」、マックス・ヴェーバーの「近代資本主義の精神」、ジェームズ・アベグレンの「日本の経営」、ジェームズ・アベグレンの「日本の経営・再考」</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>馬場宏二の「会社主義」、鯖田豊之の「自然条件」、和辻哲郎の「風土論」、梅棹忠夫の「文明の生態史観」、山本七平の「日本の資本主義」、寺西重郎の「仏教と経済発展」</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>「世界価値観調査」、幸福度、生活満足度、人生の自由度、リスク回避、誇り、性別役割分業</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>宗教、労働、技術の発展、権力、市場経済と政府の責任</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>日本社会の現状と将来、要求や抗議のための集団行動、環境保護と経済成長・雇用、治安と犯罪、失業と戦争</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>自由、平等、安全、移民、信用、公的規範と私的規範、若年の上司と高齢の上司</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>マスメディア、政治に関する重要性、関心、信頼、政治体制、戦争、社会に対する考え方</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>日本における家族</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>日本における企業</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>日本における政府、政治、公共政策</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>日本人の経済行動と日本経済、日本人と日本社会</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>プレゼンテーション</td></tr> </table>			第1回	イントロダクション	第2回	河合隼雄の「中空構造」、丸山真男の「無限包容性」と「無自覚的雑居性」、大野晋・森本哲郎・鈴木孝夫の「日本論」、前野隆司の「日本論」、新渡戸稟造の「武士道」	第3回	ルース・ベネディクトの「階層社会」、中根千枝の「タテ社会」、マックス・ヴェーバーの「近代資本主義の精神」、ジェームズ・アベグレンの「日本の経営」、ジェームズ・アベグレンの「日本の経営・再考」	第4回	馬場宏二の「会社主義」、鯖田豊之の「自然条件」、和辻哲郎の「風土論」、梅棹忠夫の「文明の生態史観」、山本七平の「日本の資本主義」、寺西重郎の「仏教と経済発展」	第5回	「世界価値観調査」、幸福度、生活満足度、人生の自由度、リスク回避、誇り、性別役割分業	第6回	宗教、労働、技術の発展、権力、市場経済と政府の責任	第7回	日本社会の現状と将来、要求や抗議のための集団行動、環境保護と経済成長・雇用、治安と犯罪、失業と戦争	第8回	自由、平等、安全、移民、信用、公的規範と私的規範、若年の上司と高齢の上司	第9回	マスメディア、政治に関する重要性、関心、信頼、政治体制、戦争、社会に対する考え方	第10回	日本における家族	第11回	日本における企業	第12回	日本における政府、政治、公共政策	第13回	日本人の経済行動と日本経済、日本人と日本社会	第14回	プレゼンテーション
第1回	イントロダクション																													
第2回	河合隼雄の「中空構造」、丸山真男の「無限包容性」と「無自覚的雑居性」、大野晋・森本哲郎・鈴木孝夫の「日本論」、前野隆司の「日本論」、新渡戸稟造の「武士道」																													
第3回	ルース・ベネディクトの「階層社会」、中根千枝の「タテ社会」、マックス・ヴェーバーの「近代資本主義の精神」、ジェームズ・アベグレンの「日本の経営」、ジェームズ・アベグレンの「日本の経営・再考」																													
第4回	馬場宏二の「会社主義」、鯖田豊之の「自然条件」、和辻哲郎の「風土論」、梅棹忠夫の「文明の生態史観」、山本七平の「日本の資本主義」、寺西重郎の「仏教と経済発展」																													
第5回	「世界価値観調査」、幸福度、生活満足度、人生の自由度、リスク回避、誇り、性別役割分業																													
第6回	宗教、労働、技術の発展、権力、市場経済と政府の責任																													
第7回	日本社会の現状と将来、要求や抗議のための集団行動、環境保護と経済成長・雇用、治安と犯罪、失業と戦争																													
第8回	自由、平等、安全、移民、信用、公的規範と私的規範、若年の上司と高齢の上司																													
第9回	マスメディア、政治に関する重要性、関心、信頼、政治体制、戦争、社会に対する考え方																													
第10回	日本における家族																													
第11回	日本における企業																													
第12回	日本における政府、政治、公共政策																													
第13回	日本人の経済行動と日本経済、日本人と日本社会																													
第14回	プレゼンテーション																													
3. 履修上の注意																														
現在の社会について関心を持ち、授業では、質疑応答に積極的に参加し、発表の際には十分な準備をしておくことが求められる。																														
4. 準備学習（予習・復習等）の内容																														
次回の授業で取り上げる教科書の部分をあらかじめ熟読しておき、わからない点については、教員に質問をすることが必要である。																														
5. 教科書																														
『日本人と日本社会－社会規範からのアプローチ』塚原康博（文眞堂）2022年																														
6. 参考書																														
使用しない。																														
7. 課題に対するフィードバックの方法																														
各回の授業のテーマを各ゼミ生に割り当て、それについてのパワーポイントを作成し、授業内で発表することがゼミ生にとっての課題となる。それについてのフィードバックは、発表時の授業内で行う。																														
8. 成績評価の方法																														
発表70%、質疑応答30%で評価する。																														
9. その他																														
このゼミナールは英語で行います。英語の能力だけでなく、学生のアカデミック英語を学びたい気持ちを大切にします。																														

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	内藤 真理子
1. 授業の概要・到達目標		
<p>【授業の概要】 小説や映画、演劇、漫画やアニメ、絵画等、私達の周囲にはさまざまな表象作品が生み出され、流通しています。本ゼミナールでは、そうした作品を学術的に捉える手法を学習します。具体的には、「批評理論」と呼ばれる、表象作品を読み解くための理論のいくつかを学び、それらを用いて作品を分析します。また、本ゼミナールでは、論述文の書き方も合わせて学習する。大学生活において論述文を書く機会としてすぐに思いつくのは、レポートや卒業論文の執筆でしょう。しかし、論述文を書くのは大学時代だけではありません。社会に出てからも、私たちは論述文を書き続けることになるのです。なぜなら、私たちは日々自分とは異なる考え方や経験、背景を持つさまざまな人々に出会っており、論述文とは、そうした人々に自分の考え方を正確に、わかりやすく伝えるための文章の形だからです。そこで、本ゼミナールでは、レポートを実践例とし、どのように自分の思考を組み立て、文章にすればよいのかを学びます。</p> <p>【授業の到達目標】 授業を通して学習した批評理論に関する専門的な知識と技術を以て、自ら対象を選んで分析を行い、分析結果に基づく考察を学期末レポートにまとめます。</p>		
2. 授業内容		
第1回：オリエンテーション 第2回：批評理論の学習1：批評理論とは何か 第3回：批評理論の学習2：ウラジーミル・プロップ「物語の31の機能」 第4回：論述文の書き方の学習1：論述文とは何か 第5回：批評理論の学習3：ジェラール・ジュネット「語りの構造」 第6回：レポート構想発表 第7回：論述文の書き方の学習2：論文の構成要素 第8回：批評理論の学習4：ジャック・デリダ「脱構築」 第9回：論述文の書き方の学習3：アウトラインの作成 第10回：批評理論の学習5：ジュディス・バトラー「ジェンダー・クイア批評」 第11回：論述文の書き方の学習3：パラグラフ・ライティングの学習 第12回：論述文の書き方の学習4：引用方法の学習 第13回：論述文の書き方の学習5：わかりやすい文章の書き方の学習 第14回：研究成果発表会		
3. 履修上の注意		
<ul style="list-style-type: none"> ほぼ毎回課題の提出を求める。課題は成績評価の対象となる。 グループに分かれて課題に取り組む場合がある。 欠席をした場合は、次週までにクラスウェブの「授業内容・資料」から授業内容を確認し、授業プリントをダウンロードしておくこと。 		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
<ul style="list-style-type: none"> ほぼ毎週、宿題が課される。宿題の内容は、作品の読みもしくは視聴、参考資料の読解等である。 		
5. 教科書		
<ul style="list-style-type: none"> 指定しない。 毎週、授業プリントを配布する。 		
6. 参考書		
<ul style="list-style-type: none"> 遠藤英樹『現代文化論—社会理論で読み解くポップカルチャー』（ミネルヴァ書房、2011年） テリー・イーグルトン『文学とは何か—現代批評理論への招待』（岩波書店、1997年） 大橋洋一『新文学入門—T・イーグルトン『文学とは何か』を読む』（岩波セミナーブックス、1995年） 筒井康隆『文学部唯野教授』（岩波書店、2000年） 橋本陽介『ナラトロジー入門—プロップからジュネットまでの物語論』（水声社、2014年） 石原千秋・小森陽一他『読むための理論』（世織書房、1998年） 		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
リアクション・ペーパー、メール、個別面談		
8. 成績評価の方法		
<ul style="list-style-type: none"> 授業内課題 20% 授業内発表 30% 学期末レポート50% 		
9. その他		
<p>本ゼミナールでは、受講生にグループ単位でNPOにかんする文献調査やオンラインを活用したインタビュー調査を行ってもらう予定です。そのため、他の受講生と協働しつつ社会調査に積極的かつ主体的に取り組む意欲のある学生の参加を期待します。このようなゼミでの活動を通して、NPOに関する知識の習得はもちろんのこと、社会調査の手法、コミュニケーション能力、パワーポイント等を用いたプレゼンテーションスキルの向上を目指しましょう。</p>		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	中里 裕美
1. 授業の概要・到達目標		
<p>本ゼミナールでは、近年、地域社会で生じる諸問題を解決する担い手として期待される非営利組織、いわゆる「NPO」をテーマとします。受講生には、NPOの定義や規模、法・税制度などNPOを巡る現状にかんする基礎知識を習得してもらい、そのうえでその事業運営の実態や課題を探るとともに、その発展の方向性について考察してもらうことをねらいとします。</p> <p>本ゼミナールは、以下のスケジュールで進める予定です。</p> <p>まず、テキストを輪読し、NPOの定義とそれが注目されるようになった経緯などNPOの基礎的な事柄について学びます。またその過程で、具体的なNPOの事例を随時紹介するので、それらを参考しながら各自が関心のある／研究してみたい分野のNPO（福祉、環境、教育、まちづくり、文化・スポーツなど）を決めてもらいます。そして、NPOのマネジメントにかんする知識を深めてもらうとともに、受講生は関心領域別のグループに分かれて、当該分野のNPOの実態や課題、その発展の方向性について、文献調査やオンラインを活用したインタビュー調査を通して検討し、授業内にてその報告と議論を行ってもらいます。また、その成果を「最終レポート」としてまとめてもらいます。</p>		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション（文献担当決め等） 第2回 NPOとは何か（テキスト第1章） 第3回 非営利組織の活動から（テキスト第2章） 第4回 社会の中のNPO（テキスト第3章） 第5回 NPOのマネジメント・過去から未来へ（テキスト第4・5章） 第6回 調査NPOの分野決め、調査計画の立て方、論文検索のしかた 第7回 先行研究の整理、調査設計とインタビュー調査の実施（1） 第8回 先行研究の整理、調査設計とインタビュー調査の実施（2） 第9回 先行研究の整理、調査設計とインタビュー調査の実施（3） 第10回 中間報告会 第11回 調査データの分析とまとめ（1） 第12回 調査データの分析とまとめ（2） 第13回 成果報告会（1） 第14回 成果報告会（2） 履修者数などにより、授業内容の配分を変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
ゼミ形式のため、出席や平常点を重視します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
予習として、テキストの該当部分を事前に読んでおくこと。		
5. 教科書		
『テキストブックNPO：非営利組織の制度・活動・マネジメント [第3版]』、雨森孝悦著（東洋経済新報社）2020年		
※初回の授業で、教科書の購入のし方について説明します。		
6. 参考書		
『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』大谷信介・木下栄二・後藤範章他編著（ミネルヴァ書房）2013年		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
各報告に対するフィードバックは、授業内等にて行います。		
8. 成績評価の方法		
平常点50%、最終レポート50%		
9. その他		
<p>本ゼミナールでは、受講生にグループ単位でNPOにかんする文献調査やオンラインを活用したインタビュー調査を行ってもらう予定です。そのため、他の受講生と協働しつつ社会調査に積極的かつ主体的に取り組む意欲のある学生の参加を期待します。このようなゼミでの活動を通して、NPOに関する知識の習得はもちろんのこと、社会調査の手法、コミュニケーション能力、パワーポイント等を用いたプレゼンテーションスキルの向上を目指しましょう。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	中臺 希実
1. 授業の概要・到達目標		
<p>【授業の概要】 受験勉強における「歴史」と大学で学ぶ「歴史」に何の違いがあるのか、さらに現代において「歴史」を学ぶことにどんな意味があるのかを念頭におきながら、江戸時代のメディアを中心に、家族、弱者、ジェンダーに関する認識の形成と変遷を知り、「伝統」や「〇〇らしさ」などが意図的に作られたものであること理解し、なぜそのような認識が再生産されるのか、私達と社会の関係性を考える。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確に文献を読み、必要な参考文献を収集する力の習得 ・自分の意見を論理的に他者に伝えることが出来る ・他者の報告に対し、建設的な意見を述べることが可能となる。 		
2. 授業内容		
第1回：イントロダクション＜春学期＞ 第2回：レジュメ・レポートの作成方法について① 第3回：歴史と歴史学の違いを考える 第4回：江戸時代のメディア：人々の娯楽と情報ネットワーク 第5回：報告・ディスカッション① 第6回：報告・ディスカッション② 第7回：史料を読む＜江戸時代における「家」とジェンダー＞ 第8回：史料を読む＜江戸時代における教育とジェンダー＞ 第9回：報告・ディスカッション③ 第10回：報告・ディスカッション④ 第11回：史料を読む＜江戸時代における「家族」のつながりと暴力＞ 第12回：史料を読む＜江戸時代、娯楽のなかで再生産されるジェンダーグラフ差＞ 第13回：報告・ディスカッション⑤ 第14回：報告・ディスカッション⑥		
*授業内容に関しては、変更する可能性があります		
3. 履修上の注意		
予備知識などは必要ありませんが、考えること、議論することに対し、真摯な態度で講義に望んでください。 無断欠席はしないこと。自身の報告回に、無断欠席した場合は不可となります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
当番制でレジュメを作成し、報告してもらいます。担当となった人は、報告テーマに関して、事前に十分な準備をしてください。また、自分以外の人が担当する報告についても、提示された参考文献などに目を通すようにしてください。		
5. 教科書		
特に定めない。		
6. 参考書		
『歴史／修正主義』高橋哲哉（岩波書店）、『歴史修正主義』武井彩佳（中央公論新社） 『性差の日本史』編国立歴史民俗博物館（岩波書店） 『現代を生きる日本史』須田努／清水克行（岩波書店）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
ゼミ内にて、解説を行う。		
8. 成績評価の方法		
出席、ゼミ報告での発表50%、報告レジュメ50%		
9. その他		
歴史を通じ、現代社会における諸問題を考えることを望む学生を歓迎します。		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	南後 由和
1. 授業の概要・到達目標		
近年、東京に代表される日本の都市では、ひとりカラオ、半個室型ラーメン店、デザイン・カプセルホテルなどの〈ひとり空間〉が増殖するようになった。コロナ禍では、飲食店の座席に間仕切りが導入され、住宅にはリモートワーク用の〈ひとり空間〉が設けられるなど、〈ひとり空間〉のあり方がさらに変化している。 〈ひとり空間〉には、どのような空間的特徴、人びとの振舞い、コミュニケーションが見られるだろうか。〈ひとり空間〉が、ソーシャルメディア隆盛の現代都市において増殖するようになったのはなぜだろうか。コロナ禍において、〈ひとり空間〉のあり方は、どのように変化しつつあるだろうか。		
本演習では、第一に、都市論やメディア論の先行研究である文献や関連資料を読み、〈ひとり空間〉についての理解を深める。第二に、東京の〈ひとり空間〉を実際にフィールドワークし、現代都市における〈ひとり空間〉の実態を明らかにする。第三に、ソーシャルメディアに媒介された〈ひとり空間〉の空間的特徴、人びとの振舞い、コミュニケーションのあり方について考察する。		
到達目標は、(1) 新聞、雑誌、テレビ、ウェブサイト、ソーシャルメディアなどにおける〈ひとり空間〉の表象の分析を通じて、データベース検索や資料収集などのアカデミック・スキルを身につけること。(2) 物理空間と情報空間が交差する事象を題材として、都市論とメディア論を横断しながら考察するモノの見方を養うこと。(3) 調査の計画、先行研究・関連資料の検討、フィールドワークの実施、調査内容の分析、調査報告書の作成という社会調査の技法を体得することである。		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション 第2回 講義（1）：〈ひとり空間〉とは何か 第3回 講義（2）：質的調査の技法、資料の収集方法、調査計画書の書き方 第4回 班分け、調査テーマの検討 第5回 グループワーク（1） 第6回 調査計画書、先行研究・関連資料（1） 第7回 調査計画書、先行研究・関連資料（2） 第8回 グループワーク（2） 第9回 メディアにおける〈ひとり空間〉の表象（1） 第10回 メディアにおける〈ひとり空間〉の表象（2） 第11回 フィールドワークの報告（1） 第12回 フィールドワークの報告（2） 第13回 調査報告書のプレゼンテーション（1） 第14回 調査報告書のプレゼンテーション（2）		
授業内容の配分・順番は、多少変更の可能性があります。		
3. 履修上の注意		
グループワークによるプレゼンテーションやフィールドワークなどを行います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
グループワークによる先行研究・関連資料の考察、メディアにおける表象分析、フィールドワークの実施、プレゼンテーションの準備など。		
5. 教科書		
なし。		
6. 参考書		
『ひとり空間の都市論』、南後由和、ちくま新書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業中にコメントやアドバイスをする。		
8. 成績評価の方法		
平常点50%、調査報告書50%		
9. その他		
グループ課題やプレゼンテーションの回数が多い授業のため、モチベーションの高い学生の履修を歓迎します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	日置 貴之
1. 授業の概要・到達目標		
【授業概要】 2023年は、1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災から100年となる年である。関東大震災は日本の政治・経済等にも大きな影響を及ぼしたが、芸術や文化に与えた影響も小さくない。この授業ではいくつかのテーマを設定し、当時の新聞・雑誌等や諸先行研究の調査、フィールドワークなどを通して、関東大震災と芸術・文化の関係について考える。また、適宜、より私たちに身近である、東日本大震災後の芸術・文化との比較をもおこないたい。 【到達目標】 過去の文化現象や芸術作品および芸術・文化と社会との関係について、文献等の資料に基づいて調査をおこない、自身の考えを持つことができる。また、その考えを適切な方法で他者に伝えることができる。		
2. 授業内容		
第1回：イントロダクション～関東大震災と芸術・文化 第2回：各種データベース・先行研究等の利用法について 第3回：グループワーク（1）～関東大震災と文学 第4回：グループワーク（2）～関東大震災と演劇 第5回：グループワーク（3）～関東大震災と絵画 第6回：グループワーク（4）～関東大震災と音楽 第7回：グループワーク（5）～関東大震災と建築 第8回：グループワーク（6）～朝鮮人虐殺事件と文化・芸術 第9回：フィールドワーク 第10回：グループ発表（1） 第11回：グループ発表（2） 第12回：グループ発表（3） 第13回：グループ発表（4） 第14回：グループ発表（5）／まとめ		
3. 履修上の注意		
受講者に主体的に調査・報告をしてもらうので、積極的に授業参加をすることを望む。授業時間外でも、各自でのフィールドワークなど、かなりの時間の作業をおこなってもらうことになるので、その旨を理解した上で受講すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
初回の授業時に、より詳細な授業計画および参考文献一覧を配布するので、それを参考にして各回の授業前に予習を行った上で授業に参加すること。 受講者は数人のグループを組み、8回目の授業までは設定されたテーマに沿って授業前に調査をおこない、授業時にディスカッション等をおこなう。その内容を踏まえて、調査・考察を深め、10回目以降の授業ではグループごとに発表をおこなう。		
5. 教科書		
使用しない。		
6. 参考書		
各回のテーマに応じて適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
各回授業についての質問・コメントをクラスウェブから提出してもらいう。次の回以降の授業内およびクラスウェブ上でフィードバックをおこなう。		
8. 成績評価の方法		
発表内容50%、ディスカッションにおける発言、参加度50%。 発表は適切に資料を用いて、作品について調査し、考察できているか、またその内容をわかりやすく発表できているかによって判断する。		
9. その他		
心身の条件等により、受講に際して特別の配慮が必要となる場合は、履修を検討している際にでも、また履修登録後にでも、hioki@meiji.ac.jpへ相談してください。授業資料や板書等について、文字の大きさや字体、色などに配慮したりすることは可能ですし、その他にも可能な範囲で対応を考えます。		

科目ナンバー：(IC)IND212J
問題発見テーマ演習A
2単位
2年次
蛭川 立
1. 授業の概要・到達目標
問題発見テーマ演習Aでは、人類学と意識科学の基礎を学ぶ。拙著『彼岸の時間—〈意識〉の人類学—』を輪読しながらディスカッションを行う。具体的な内容については「授業内容」に各章の題名を列挙しているので、参照のこと。 二十年前に書かれた本なので、内容が古いところもあるが、研究の進展によって改められるべき部分については補いながら進めたい。
2. 授業内容
第1回：全体の展望 第2回：「他界への旅：アマゾンのシャーマニズムと臨死体験」 第3回：「象徴としての世界：パリ島民の儀礼と世界観」 第4回：「穢れた女の聖なる力：インド世界とタントリズムの思考」 第5回：「巫女という対抗文化：沖縄の民間信仰をめぐる権力構造」 第6回：「ルサンチマンと権力：タイの仏教とシャーマニズム」 第7回：「〈自我〉という虚構：インド・チベットの瞑想哲学」 第8回：「転生するのは誰か：『靈魂の死後存続』をめぐる論争」 第9回：「非局所的な宇宙：旧ソ連圏における認識論的政治学」 第10回：「理性と逸脱：ミクロネシアのドラッグカルチャー」 第11回：「聖なる狂気：沖縄シャーマンの巫病は『精神病』か？」 第12回：「原始的復権：色好み日本人とネオ・シャーマニズム」 第13回：「労働・貨幣・欲望：グローバル化する資本主義と〈南〉の社会」 第14回：「回帰でも超越でもなく：アマゾン的未来の可能性・日本の未来の可能性」
3. 履修上の注意
4. 準備学習（予習・復習等）の内容
教科書に書かれていることだけでなく、随時、関連する知識を学ぶことが望ましい。
5. 教科書
蛭川立（2002）『彼岸の時間—〈意識〉の人類学—』春秋社。（新装版は2009年）
6. 参考書
7. 課題に対するフィードバックの方法
演習形式の授業なので、授業中のディスカッションの中でフィードバックを行う。また、授業に連動したWEBサイトでも授業内容についてのコメントを随時更新していく。
8. 成績評価の方法
演習に出席して発表しディスカッションを行うこと（100%）
9. その他

科目ナンバー：(IC)IND212J																														
問題発見テーマ演習 A																														
2単位	2年次	堀口 悅子																												
1. 授業の概要・到達目標																														
<p>【授業の概要】 本ゼミナールでは、四学年を通じて今日津酢の目標をを立てている。それが、「日本のエンタメにジェンダー視点を！」である。エンタメの現場には、「セクハラ」などの性暴力が起こりやすい環境がある。まずは「セクハラ」を知ることである。世界的に日本だけは、「#Me Too」運動があまり盛り上がらなかった。しかし、2022年3月から、芸能界でのセクハラが日本でも明らかにされるようになつた。「その名を暴け」という本を教科書に、調査報道から「セクハラ」問題を考えてみよう。</p> <p>【到達目標】 到達目標は、テキストを読むことで、リーガル・リテラシー（法識字）を身に付けることであり、ジェンダーを含めた、多様な考え方を知ることである。また、実践として、調査や外部でのワークショップなどを行い、積極的にプレゼンテーションができるようにすることである。隨時、感想文など、書く力につける課題も用意しているので、提出物は忘れないこと。</p> <p>【合宿】 夏休みに、埼玉県の国立女性教育会館（東武東上線武蔵嵐山駅下車）で、2泊3日で合宿を行う。この合宿は、国立女性教育会館のフォーラムに参加するためである。ゼミ生参加のワークショップも行う。宿泊費は、1泊1,200円（食費別）、1日目の夜の懇親会費4,000円、その他交通費である。費用は予定である。合宿は、必修であり、夏休み中の短期留学などのやむを得ない事情がある場合以外は、必ず参加すること。ただし、合宿は新型コロナの影響で変更があり得る。</p> <p>【外部活動】 オンライン等で、隨時参加予定である。</p> <p>以上のようなワークショップにより、ゼミ活動を外部に発信する。国立女性教育会館は、国の施設であり、アーカイブなど、ジェンダーリサーチに必要な資料がそろっているので、ぜひ、活用してほしい。東京ウインズプラザは、都内にあり、行政関係の資料などがそろっているので、こちらもぜひ、活用してほしい。</p> <p>*全体的に、新型コロナの状況により変更がある。</p> <p>【要望】 学ぶことは、効率の悪いことである。学問に王道なし。ショートカットでよいのだろうか。無駄だと思っても、いろいろなことに挑戦してほしい。積極的で、やる気がある学生を求める。積極的でなくとも、やる気がなくても、本ゼミに入れば、心持ちに変化が生じることを願う。</p>																														
2. 授業内容																														
<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>イントロダクション</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>『その名を暴け』の報告と討論(1)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>『その名を暴け』の報告と討論(2)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>『その名を暴け』の報告と討論(3)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>『その名を暴け』の報告と討論(4)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>『その名を暴け』の報告と討論(5)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>『その名を暴け』の報告と討論(6)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>『その名を暴け』の報告と討論(7)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>『その名を暴け』の方向と討論(8)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>『その名を暴け』の報告と討論(9)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>夏合宿等の事前学習(1)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>夏合宿等の事前学習(2)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>夏合宿等の事前学習(3)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>夏合宿等の事前学習(2)</td></tr> </table>			第1回	イントロダクション	第2回	『その名を暴け』の報告と討論(1)	第3回	『その名を暴け』の報告と討論(2)	第4回	『その名を暴け』の報告と討論(3)	第5回	『その名を暴け』の報告と討論(4)	第6回	『その名を暴け』の報告と討論(5)	第7回	『その名を暴け』の報告と討論(6)	第8回	『その名を暴け』の報告と討論(7)	第9回	『その名を暴け』の方向と討論(8)	第10回	『その名を暴け』の報告と討論(9)	第11回	夏合宿等の事前学習(1)	第12回	夏合宿等の事前学習(2)	第13回	夏合宿等の事前学習(3)	第14回	夏合宿等の事前学習(2)
第1回	イントロダクション																													
第2回	『その名を暴け』の報告と討論(1)																													
第3回	『その名を暴け』の報告と討論(2)																													
第4回	『その名を暴け』の報告と討論(3)																													
第5回	『その名を暴け』の報告と討論(4)																													
第6回	『その名を暴け』の報告と討論(5)																													
第7回	『その名を暴け』の報告と討論(6)																													
第8回	『その名を暴け』の報告と討論(7)																													
第9回	『その名を暴け』の方向と討論(8)																													
第10回	『その名を暴け』の報告と討論(9)																													
第11回	夏合宿等の事前学習(1)																													
第12回	夏合宿等の事前学習(2)																													
第13回	夏合宿等の事前学習(3)																													
第14回	夏合宿等の事前学習(2)																													
3. 履修上の注意																														
毎日の生活を、好奇心を持って生活してほしい。ニュースに关心を持つとう。																														
4. 準備学習（予習・復習等）の内容																														
太宰治『人間失格』を読んでおいてください。																														
5. 教科書																														
『その名を暴け #Me Tooに火をつけたジャーbなリストたちの闘い』ジョディ・カンター、ミーガン・トゥーイー、古屋美登里訳、新潮社 この書籍が映画化された「シーセッド その名を暴け」も観てほしい。																														
6. 参考書																														
『私たちは言葉が必要だ—フェミニストは黙らない』イ・ミンギョン タバ・ブックス																														
7. 課題に対するフィードバックの方法																														
できるだけ毎回のゼミで、課題へのフィードバックを行う。最終回のゼミで、全体の課題へのフィードバックを行う。																														
8. 成績評価の方法																														
毎回のゼミへの参加姿勢30%、課外活動等への参加50%、提出物20%																														
9. その他																														
小説を読んだり、学割の使える映画や美術展などを、貪欲に見に行ったり、してほしい。																														
科目ナンバー：(IC)IND212J																														
問題発見テーマ演習 A																														
2単位	2年次	宮本 真也																												
1. 授業の概要・到達目標																														
<p>問題発見テーマ演習 A では私は、一言で言えば「権威主義」について考えてみたい。私たちの社会においてはさまざまな社会問題が残されている。それは家族の中にも、パート先でも、友人関係でも、就職先でも、大学でも、世間という曖昧な空間においても、トラブルがあり、それらは例えば、差別や排除、いろんなことについてマウントを取りがちな傾向（学歴、収入、家柄、性別）や肥大化した承認欲求、ジェンダー的な見下しや軽視というようななかたちをとって、私たちを悲しませたり、怒らせる。では、その根っこににあるのかということを考えると、一つの観点として、ここで私は「権威主義」という社会における態度を挙げ、考えてみたい。「権威」はそもそもある人の能力や属性について正しく評価して現れる。しかし、「権威主義」は必ずしもそうではない。最近では、SNSの評判や口コミ、あるいは自己申告の自己アピールにしたがって、誰かに盲目的にしたがったり、信じて疑わない、ある意味で面倒くさい態度である。例えば大学名や、会社名だけで、人の評価が決まったり、場合によってはその関係者（「A大学に通う人の恋人」とか、「大物政治家の息子」とか、「上場企業の関係者」）だからといって、尊重することを要求されたり、ついで大事にしてしまおうとする態度の不毛さを思い起こしてもらえばよい。社会学や政治学や心理学の議論のなかでは、こうした「権威主義」は評判が悪く、民主主義や社会の風通しの良さを阻害してしまう原因として議論されてきた伝統がある。独裁国家の代表とも言えるナチスドイツを可能としてしまった理由として、この「権威主義」が論じられてきたことも重要である。この古いが、現代でも無視できない私たちの社会的態度について、ここでは光を当ててみたい。</p> <p>この授業では、以下で挙げた書籍リストからいくつかを参加者と選び、それぞれ部分的に報告を分担し、自由に議論することで、テキストについてのお互いの理解を確かめ合いたい。ここでは、扱ったテキストの内容を歴史的現象、具体的な社会問題、身の周りの出来事を例として検討することをおこなう。このようにして、まずは社会学や哲学における「権威主義」についての説明のあり方を、応用して考えることができるよう訓練したい。学生が今まで漠然と見ていた日常的な事柄を、社会学的に、個々の出来事における個人、社会、文化の絡まり合いに注意して観察するための知識や考え方を身につけることがこの演習の目的である。</p>																														
2. 授業内容																														
<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>導入</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>文献講読1-1</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>文献講読1-2</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>文献講読1-3</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>文献講読1-4</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>まとめと議論</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>文献講読</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>文献講読2-1</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>文献講読2-2</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>文献講読2-3</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>文献講読2-4</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>まとめと議論</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>文献紹介と議論</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>映像作品から現代社会を考える</td></tr> </table>			第1回	導入	第2回	文献講読1-1	第3回	文献講読1-2	第4回	文献講読1-3	第5回	文献講読1-4	第6回	まとめと議論	第7回	文献講読	第8回	文献講読2-1	第9回	文献講読2-2	第10回	文献講読2-3	第11回	文献講読2-4	第12回	まとめと議論	第13回	文献紹介と議論	第14回	映像作品から現代社会を考える
第1回	導入																													
第2回	文献講読1-1																													
第3回	文献講読1-2																													
第4回	文献講読1-3																													
第5回	文献講読1-4																													
第6回	まとめと議論																													
第7回	文献講読																													
第8回	文献講読2-1																													
第9回	文献講読2-2																													
第10回	文献講読2-3																													
第11回	文献講読2-4																													
第12回	まとめと議論																													
第13回	文献紹介と議論																													
第14回	映像作品から現代社会を考える																													
3. 履修上の注意																														
自分の報告の日でなくとも、テキストは読んでくること。積極的な発言は高く評価するので、話す機会を利用すること。																														
4. 準備学習（予習・復習等）の内容																														
報告者は、前日までに、他の報告者と打ち合わせし、理解を確認しておくこと。また、当日報告者以外の参加者も、テキストは読んで望むこと。復習としては、ゼミでの不明点をまとめておき、次回に質問できるようにしておくことが重要である。																														
5. 教科書																														
文献については最初の授業で提案するが、以下のものを候補にしている。																														
一次元的人間、H. マルクーゼ、河出書房新社 権威主義の国家、M. ホルクハイマー、紀伊國屋書店 権威主義的パーソナリティ、Th. W. アドルノ、青木書店 アフター・リベラル 怒りと憎悪の政治、吉田徹、講談社新書 (すべて扱うわけではなく、相談する)																														
6. 参考書																														
7. 課題に対するフィードバックの方法																														
メールや事後的に授業内でコメントを返すこととする。																														
8. 成績評価の方法																														
発表50%、レポート50%。ただし出席状況が悪い場合は評価しない。																														
9. その他																														

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	山内 勇
1. 授業の概要・到達目標		
<p>このゼミでは、イノベーション・プロセスに関する経営学的・経済学的な考え方を学習します。そもそも企業はなぜイノベーションを起こすのか、付加価値はどういうように生み出していくべきなのか、といった観点から検討を行っていきます。特に、製品・サービスの差別化や、それらを市場に普及させるための戦略について、経営学や経済学の理論を学んでいきます。そのうえで、抽象的な理論を具体的な製品に当てはめて議論したり、自ら仮説を立て、データを使ってそれを検証したりします。</p> <p>こうした活動を通じて、このゼミでは、イノベーションのプロセスを対象に、学問の理論を現実の社会現象と結び付けて理解する能力を身に付けること、また、この情報化社会で必要となる情報処理やデータ分析のスキルを習得することを目標としています。</p>		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション 第2回 企業におけるイノベーション活動の目的 第3回 グループワーク：プロセス・イノベーションと生産性 第4回 グループワーク：プロダクト・イノベーションと製品差別化 第5回 グループワーク：ニーズの把握 第6回 グループワーク：ターゲティング 第7回 グループワーク：事業機会の発見と選択 第8回 グループワーク：差別化の追求 第9回 グループワーク：業界研究 第10回 グループワーク：企業研究 第11回 グループワーク：データ分析の方法 第12回 グループワーク：マーケティング・リサーチ 第13回 グループワーク：プランディング 第14回 最終報告		
3. 履修上の注意		
発言のない学生は授業に貢献していないものとみなします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
予習：演習で扱うテーマについて、議論に必要となる情報を参考書等から収集しておくこと。また、担当者は報告資料を用意すること。 復習：演習での報告内容、議論・コメントを整理し、次の報告にいかすこと。		
5. 教科書		
指定しない（資料を配付する）。		
6. 参考書		
イノベーション&マーケティングの経済学』金間大介・山内勇・吉岡（小林）徹著、中央経済社 『マーケティング・サイエンス入門』古川一郎・守口剛・阿部誠著、有斐閣アルマ 『The Economics of Innovation: An Introduction』G. M. Peter Swann著、Edward Elgar Pub.		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業中にフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法		
報告内容（50%）、授業への貢献（50%）		
9. その他		
データ分析のためにノートパソコンを持参してもらうことがあります。		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 A		
2単位	2年次	山口 生史
1. 授業の概要・到達目標		
組織および組織メンバーの生産性の向上のためには、適切な情報の流れ（information flow）やメンバー間の良好な対人コミュニケーション（組織内のコミュニケーションの健全性）が不可欠です。この生産性には、業績、業務効率、エラーの減少、組織メンバーの肯定的な組織行動、組織メンバーの有能性、などが含まれます。この組織コミュニケーションの健康状態を診断する研究をコミュニケーション・オーディット（Communication Audit）研究といいます。コミュニケーション・オーディット研究は、見えないコミュニケーションを「見える化」したり、また組織コミュニケーションがメンバーの組織行動や態度にいかに影響を与えるかを探るために行われてきました。したがって、このゼミの目標は、コミュニケーション・オーディットによって何がわかるかとその方法を学ぶことです。コミュニケーション・オーディットの調査方法には様々あり、インタビューなどの質的調査と質問票により得たデータを統計解析する量的調査がありますが、このゼミでは、コミュニケーション・オーディットの質的調査について学びます。質的調査のうち、インタビュー調査をチームで行う予定です。それを経験することも、この授業の目的の一つです。14回の授業のうち、前半は参考資料を読み、このテーマについて理解を深めます。各回の担当者が指定配布資料を読んでプレゼンテーションを行います（サマリーペーパーの提出は全員です）。後半は、グループワークでインタビュー調査の準備と実施をします。具体的には、インタビューガイドの作成、身近な組織の複数のメンバーへの（スノーボールサンプリング）インタビュー調査の実施、インタビューで得たデータの分析（質的内容分析など）を行います。そして、分析結果に基づき、組織のコミュニケーション状態を診断して、チーム発表をしてもらう予定です。最後に、各自（チームでなく個別）が、それらをペーパー（論文）にまとめて提出する必要があります。		
2. 授業内容		
第1回 (a) クラスの概要説明；(b) 組織コミュニケーションとは 第2回 講義： 社会科学における質的調査と量的調査 発表 (1)：コミュニケーション・オーディットとは、そしてそれによってわかること 第3回 発表 (2)：コミュニケーション・オーディットにおけるインタビュー調査 第4回 発表 (3)：コミュニケーション・オーディットにおけるクリティカルインシデント法 第5回 発表 (4)：質的調査の方法1（インタビュー調査の方法と準備） 第6回 発表 (5)：質的調査の方法2（インタビューガイドの作成の解説） 第7回 インタビューガイドの作成 第8回 インタビューガイドの完成 第9回 データ分析1（分析方法の解説） 第10回 データ分析2（コーディング作業） 第11回 データ分析3（コーディングの修正） 第12回 データ分析4（概念間の関係を分析） 第13回 発表（質疑応答とコメント） 第14回 まとめ		
*諸般の事情により変更の可能性はあります。		
3. 履修上の注意		
課題などの提出は期限を厳守して下さい。調査はチームで行いますが、ファイナルペーパーは個人で書きます。調査に関しては積極的参加とチームワークが必須です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
調査前は配布資料のリーディングのサマリー提出（課題）が必要です。調査の実施においては、調査準備、データ収集、データの分析をしてきてください。		
5. 教科書		
『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ－研究計画から論文作成まで』太田裕子、東京図書、2019		
6. 参考書		
クラスにて適宜紹介		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
提出された課題に対しては、コメントあるいは解説を返すことによりフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法		
出席が十分であれば以下の通りに評価します。 ファイナルペーパー 45%； 課題提出 45%； プレゼンテーション 10%		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	脇本 竜太郎
1. 授業の概要・到達目標		
<p>【授業の概要】 この演習の目標は、社会心理学の研究法を学ぶことである。特に、調査と、データに基づいて対象を統計的に分類する方法に焦点を当てる。データに基づいた対象の分類は、学術研究だけでなくマーケティングにおいてもよく用いられる手法である。社会心理学の研究法の基礎を学んだうえで調査を企画・実施し、得られたデータをオープンソースの統計解析・開発環境であるRを用いて分析する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①社会心理学研究法の基礎を身に着ける。 ②基礎的な調査の手法を理解できる。 ③クラスター分析の手法を理解できる。 ④Rによって基礎的な分析を行うことができる。 		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション 第2回 実証研究の論理 第3回 問題の設定と仮説の構成 第4回 目的に応じた研究法の選択 第5回 測定の基礎 第6回 尺度構成 第7回 改訂する尺度の選択、ディスカッション 第8回 項目作成 第9回 質問紙作成 第10回 Rによる分析講習（データハンドリング） 第11回 Rによる分析講習（クラスター分析、検定） 第12回 データ分析実習 第13回 発表スライド作成 第14回 研究結果発表、春学期総括		
3. 履修上の注意		
<ul style="list-style-type: none"> ・脇本が担当する問題発見テーマ演習AとBは別々の授業ではあるが、大枠は共通している。問題発見テーマ演習は様々な学問分野に触れる機会なので、脇本のテーマ演習AとBを同時に履修することは勧めない。 ・グループ作業が中心となるため、途中で履修を辞めると他の履修者が多大な迷惑を被る。安易な履修は勧めない。 ・ワードやエクセルを普通に使うことができ、PCにトラブルが起きたら自分でネットで検索して解決できる程度のコンピューターリテラシーを前提として授業を進める。 		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
レクチャーの際には事前に教科書を読んでおくこと。授業時間外でもグループでの話し合いや作業の時間が必要になる。		
5. 教科書		
『社会心理学研究入門 補訂新版』安藤清志・村田光二・沼崎誠（編）東京大学出版会		
6. 参考書		
授業中に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
プレゼンやレジュメについては授業時にフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法		
演習への参加度（50%）、プレゼンテーション（50%）		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	和田 悟
1. 授業の概要・到達目標		
<p>本ゼミナールでは、学部の国際交流プログラムで関係が深いタイ・ラオスを中心として東南アジアの国々について文献講読を通して学んでいきます。この際、映像資料を使いながら東南アジアの国々様子を知ってもらうとともに、日本の関係について理解を深めてもらいたいと思います。学部の国際交流プログラムでの留学生受入を利用してはタイ・ラオスで日本語を学ぶ学生たちとの交流も取り入れ、東南アジアの事情を身近なこととして感じられるようになしたいと思います。留学生らとの交流を通じて、アジアの社会や文化を知り異文化経験を得ることができます。アセアンは、2015年末に経済共同体が発足し、加盟国間の連携強化など大きく社会状況が変わりつつあります。留学生らと一緒にアセアンの今後や日本との関係について考えてみましょう。また、他国の事情を考えることで、日本の社会についての見方が変わるかもしれません。</p> <p>到達目標は、東南アジアの社会状況について基本的な理解を深め、今後の日本との関係について具体的に考えられるようになります。異なる文化や社会を学ぶことで日本の社会について考える新たな視点を手に入れることです。</p> <p>是非、経済発展の著しい新興国に友達を作りましょう。あわせて、国際交流プログラムの方でも、できるだけ多くのみなさんが参加してくれることを希望します。</p>		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション 第2回 東南アジアと日本の経済発展 第3回 東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読（1） 第4回 東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読（2） 第5回 東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読（3） 第6回 東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読（4） 第7回 課題図書2の文献講読（1）または、短期留学生との学生交流準備 第8回 課題図書2の文献講読（2）または、短期留学生との学生交流（1） 第9回 課題図書2の文献講読（3）または、短期留学生との学生交流（2） 第10回 課題図書2の文献講読（4）または、短期留学生との交流のふり返り 第11回 課題図書3の文献講読（1） 第12回 課題図書3の文献講読（2） 第13回 課題図書3の文献講読（3） 第14回 課題図書3の文献講読（4）・まとめ		
3. 履修上の注意		
<p>「新興国事情」では関連するテーマについて、PCによる実習をしながら学習します。理解を深めるのに役立ちます。あわせて受講すると理解が深まるでしょう。</p> <p>オンラインでの学生交流を実施する場合には、変則的な日程で課外活動が行われることがあります。積極的参加を希望します。課題図書2,3は未定です。第6回までの授業での参加学生の関心や、適時の課題に応じて相談して決めます。</p> <p>オンラインでの学生交流が実施可能な場合には、第7回～9回にかけて、準備・実施・ふり返りを行います。交流を実施する際は、時差などの都合から、日時を変えて実施することができます。</p>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
テキストの分担を決めて発表をしながら上記の内容を進めてゆきます。予習として指示されたことを、きちんと取り組んできudadai。		
5. 教科書		
『新興貿易立国論』大泉啓一郎、中公新書ほか		
6. 参考書		
『老いてゆくアジア』大泉啓一郎、中公新書 『消費するアジア』大泉啓一郎、中公新書 『デジタル化する新興国』伊藤亞聖、中公新書など		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
リアクションペーパー、レポートなどの提出物へコメントは、提出期限後にOh-o! Meijiでフィードバックする。		
8. 成績評価の方法		
授業時間における発表・発言 50%、小レポートを含む提出課題25%、留学生との交流への取り組み 25%		
9. その他		
いま社会で求められている「コミュニケーション能力」は同質・同世代の友人の多さで決まるわけではありません。異なる背景や価値観をもつ人々と共に働くことが大切です。学部で用意している国際交流の機会を是非有効に活かしてください。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習A		
2単位	2年次	渡邊 容子
1. 授業の概要・到達目標		
<p>大学生活の目的・目標がしっかりと意識できていますか。大学生活は、学生生活から職業生活に移行するための重要な期間であり、社会の中で自分をどう位置付けるかを考える時間でもあります。現在、想定外の感染症の世界的拡大により、これまで顕在化されてこなかった社会・組織・人々の多様な課題が浮き彫りになり、まさにV U C A時代の到来と言えます。社会は、今後も常に変化していきます。</p> <p>特にこれから時代は、大きく、想像を超えた変化に遭遇する可能性は否定できません。そのような環境にあっては、自分自身のあるべき姿、目指すべき姿と今の状況とのギャップを「問題」と捉え「未来を見据え、率先して理解と現実のギャップを見つける力」が必要とされます。このような「変化の時代」に必要になるのは、「予測できない出来事を“キャリアを再考する機会”と捉えてプラスに変換させる」という行動特性です。そこで、これからの中学生が生き抜かなくてはならない時代環境に必要なキャリアの概念について学ぶことが重要と考えます。</p> <p>この演習Aにおいては、キャリアの理論を学ぶことから、自己概念を整理し、内的キャリア形成における問題を探索することを目的とします。自分の適性や興味・関心と結びつけて、社会の中で自分を活かし行動することについて、具体的な問題をイメージできる基礎的な知識の習得を目指します。</p> <p>大学生活におけるキャリア形成の意義を理解し、社会への関心を深めるとともに、自己理解を進めることを到達目標とします。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 キャリア形成の扉を開く：ゼミの目標</p> <p>第2回 問題発見のヒントと社会のつながり</p> <p>第3回 自分を知ること、自己理解の意義とその方法</p> <p>第4回 自分の興味と課題を見つける – 問題発見とキャリアデザイン</p> <p>第5回 ドナルド・E・スーパーの理論</p> <p>第6回 ジョン・L・ホランドの理論</p> <p>第7回 エドガー・H・シャインの理論</p> <p>第8回 ジョン・D・クルンボルツの理論</p> <p>第9回 その他の理論と理論学習の意義とまとめ</p> <p>第10回 キャリアアリテラシーへのアプローチ (GD・GW)</p> <p>第11回 レポートの書き方と文章表現の知識</p> <p>第12回 グループワークの意義と目的</p> <p>第13回 グループディスカッション情報の共有</p> <p>第14回 レポートの提出と今後の課題</p>		
3. 履修上の注意		
<p>可能であれば、「問題発見テーマ演習B」とセットの履修を推奨します。</p> <p>キャリア形成の観点から、学生間・学生と教員間のコミュニケーションを重視します。</p> <p>無断欠席をしないこと。授業の参加度として出席を重要視します。</p>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
<p>現状における自分自身のマイナス面、プラス面を認識し、将来に向けて「やりたいこと」「できること」「やるべきこと」を考えておくこと。</p>		
5. 教科書		
<p>特に指定はしません。毎回レジュメを配布します。</p>		
6. 参考書		
<p>『大学1・2年から始めるキャリアデザイン』、釘地邦秀、(日本経済新聞出版社)</p>		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
<p>授業内での提出物およびプレゼンテーションについて、その都度フィードバックを実施します。</p>		
8. 成績評価の方法		
<p>授業への参加度30%、授業内提出物30%、レポート40%</p>		
9. その他		
<p>演習を通して、将来に向けて自らの個性を活かした人生選択ができるよう、自己理解・進路に対する最適解を求めて、考えを深めてください。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	阿部 力也
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、比較的新しく、重要とされる最高裁判所の刑事判例および下級審の刑事判例のいくつか（3～5事例を予定）を取り上げたいと思います。そして、①事案の内容（いわゆる事件とよばれる部分）をしっかりと読み込み、具体的に何が問題とされているのかを探っていきます。②指摘された問題について、裁判所はどのような判断を下しているのか、これを実際の「判決」「決定」から読み解いていくことにしましょう。③裁判所の判断の妥当性をめぐるさまざまな見解（とくに学説とよばれる考え方です）を検討します。この部分は受講生のみなさんにリサーチしてもらい、受講生のみなさんで議論してほしいと考えていますので、④の段階がもっともゼミナール・演習らしい取組みとなります。		
次に、「死刑」、「安楽死」、「人はなぜ人を殺してはいけないのか」、「無敵の人（というターム）をめぐる問題点」、「貧困は犯罪の発生原因か」など個別的なテーマ（トピック）を取り上げ、履修者のなかで議論を深めてみたいと考えています。このテーマ設定型の回（4～6回を予定）でも、皆さんにある程度リサーチしてもらつたうえで（簡単で結構です）議論をはじめることになりますから、ゼミナールらしさを満喫できることになるでしょう。以上がこのゼミナール・演習の概要です。		
このような手順を繰り返すこと、「犯罪と法（刑法）」がどのようなことを対象とする学問なのかについて、受講生のみなさんに具体的なイメージをもつてもらい、さらには興味をもってもらえばと思っています。つまり「犯罪と法（刑法）」について学ぶということは、「法律」を勉強するということにほかなりませんから、法律学がどのようなことを問題・課題としているのか、その問題にどのように対応・答えを導くのか、法律学の思考方法の一端に触れるとの楽しみみたいなものを受講生のみなさんと共有することが、このゼミナール・演習の到達目標ということになります。		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション～ゼミナールの授業概要と目標の確認、今後のスケジュールの説明。		
第2回 犯罪と法（刑法）の基本的な考え方、「法律」を解釈するということの意味を確認しよう。		
第3回 犯罪と法を考え上で重要な指針～罪刑法定主義について学ぶ。		
第4回 犯罪に対して科される刑罰の役割～刑罰の歴史、種類、刑罰に対するさまざまな考え方について学ぶ。		
第5回 判例・裁判例を読み込むための準備作業①		
第6回 判例・裁判例を読み込むための準備作業②～具体的な事実からの考察。		
第7回 判例・裁判例の実体（現実の法運用）①～ある殺人事件および幼児虐待事例から考える。		
第8回 個別的なテーマで議論しよう①～安楽死について考える。		
第9回 個別的なテーマで議論しよう②～死刑と無期懲役、そして終身刑について考える。		
第10回 個別的なテーマで議論しよう③～「人を殺してなぜいけないのか」この問い合わせに回答を与えてみよう。		
第11回 判例・裁判例の実体（現実の法運用）②～正当防衛の事例から考える。		
第12回 個別的なテーマで議論しよう④～「自由の限界」～有害薬物の使用はなぜ違法なのか考える。		
第13回 個別的なテーマで議論しよう⑤～いわゆる「無敵の人」事件について考える。		
第14回 まとめ～法律学の魅力～これからの勉強の仕方、職業としての法律実務家（公務員を含む）のイメージをつかむ。		
*授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
3. 履修上の注意		
最近、問題となっている事件や（電車襲撃事件を始めとする通り魔的犯罪など）、有名な事件の判例・裁判例を取り上げます。報道されている事件につねに関心を持っていて欲しいと思います。また、設定された個別的なテーマについては、事前にリサーチしたうえでゼミナールに参加してください。活発な議論展開を期待しています！		
かならずという意味ではありませんが、できるだけ講義科目「犯罪と法」を履修していたほうがこの演習・ゼミナールの内容を理解しやすいと思います。		
この科目も大学全体の「活動制限指針」に従い対面授業を原則としますが、指針の「レベル」に変更があった場合にはシラバスの補足によって対応するので、履修者の皆さんは、適宜Oh-o!Meijiのクラスウェブを参照してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
指定された判例はこちらがコピー等で用意しますが、かならず事前に読んできてください。また毎回ではありませんが必要な文献・資料（こちらで事前に基本的なものを指示します）をリサーチ、それを読み込むことが重要となります。		
5. 教科書		
とくに指定はしません。		
6. 参考書		
阿部力也『刑法総論講義案』（成文堂）の他、授業の進行、内容に応じて随時指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
ゼミナールの利点として、みなさんの質問・疑問点に対しては、そのつど丁寧に回答したいと考えています。		
8. 成績評価の方法		
必要に応じて簡単なレポート（アクションペーパー的な）を何回か課します（予定）。レポート20%（課した場合）、平常点80%（授業回数の3分の2以上の出席者のみを評価の対象とし、授業態度、リサーチ能力、授業での発言などによって総合的に評価します）。		
9. その他		
授業内容は今日的な企業動向や政府方針と直接的に関係するため、履修者は常に、時事問題やニュースに注目し、その知識に基づき議論に参加することが求められる。		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	牛尾 奈緒美
1. 授業の概要・到達目標		
人権尊重や多様性を容認する社会を実現するためにマスメディアの責務は重大である。マスメディアの発信するコンテンツは人々の価値観に影響を与え、世論形成や社会意識の醸成、正しく機能すれば啓蒙的役割も果たしうる。		
そこで、本ゼミナールは「マスメディアとジェンダー」をテーマとして、前半は「メディア表現におけるジェンダー」、後半は「メディア企業における組織のジェンダー」を中心に研究発表を行っていく。前半では、現代日本のマスメディア企業の発する情報や制作作風を調査・分析し、それらがよりよい社会の形成を目指すうえで適切なものであるかどうか検討を行い、後半では、マスメディアの企業内部のジェンダー問題について分析の目を向けていく。当然のことながらジェンダーの視点には、女性問題のみならずLGBTに対する差別問題も含まれ、より広範には障がいの有無や国籍、人種、年齢等の属性による差別問題も視野に入る。ジェンダーを起点に、広くダイバーシティの問題にも焦点をあて、今後のマスメディアのあり方について考えていくことを目的とする。		
具体的にはグループ単位で特定のケースについて調査・分析を行い、その結果をパワーポイントにまとめ口頭発表を行う。発表は学期中に複数回担当するように設計し、各発表に対しゼミナール全体で質疑応答や議論を展開していく。		
授業の到達目標は、自分自身の問題意識を仲間と共有しながら議論し、最終的にはグループとしての研究発表にまとめ上げる能力を養うことにある。情報収集、分析、論理的思考、発表や議論でのコミュニケーション能力の向上を目指していく。		
2. 授業内容		
第一回 イントロダクション		
第二回 プレゼンテーション①		
第三回 プレゼンテーション②		
第四回 プレゼンテーション③		
自己紹介を兼ね各自の考える社会的課題についてのプレゼンテーション		
第五回 発表①		
第六回 発表②		
第七回 発表③		
第八回 発表④		
第九回 発表⑤		
「マスメディアとジェンダー」をテーマとして、各班による発表と質疑応答・議論の展開。		
マスメディアで発信されている各種コンテンツを批判的に分析する		
第十回 発表⑥		
第十一年 発表⑦		
第十二回 発表⑧		
第十三回 発表⑨		
「メディアにおける組織のジェンダー」をテーマとして、各班による発表と質疑応答・議論の展開。		
テレビ・新聞・雑誌・ラジオ 各業界を代表する企業調査		
第十四回 総括		
3. 履修上の注意		
毎回、積極的に発言すること。ゼミナールへの参加姿勢により評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、理由を添えて事前に届け出ること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
予習については、前週に指示するので各自準備をして授業に臨むこと。事前に授業に関わる資料を配布したり調べるべき課題を指定したりするので、それを読み自分なりの理解と考えを整理すること。		
5. 教科書		
適宜、提示する。		
6. 参考書		
適宜、提示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業内で指示する		
8. 成績評価の方法		
授業への出席率と議論への参加状況で50%、グループ発表や課題提出状況で50%として成績評価を行う。授業の出席は履修の必須条件のため、授業の欠席が多い者は失格となる。		
9. その他		
授業内容は今日的な企業動向や政府方針と直接的に関係するため、履修者は常に、時事問題やニュースに注目し、その知識に基づき議論に参加することが求められる。		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	牛尾 奈緒美
1. 授業の概要・到達目標		
人権尊重や多様性を容認する社会を実現するためにマスメディアの責務は重大である。マスメディアの発信するコンテンツは人々の価値観に影響を与え、世論形成や社会意識の醸成、正しく機能すれば啓蒙的役割も果たしうる。		
そこで、本ゼミナールは「マスメディアとジェンダー」をテーマとして、前半は「メディア表現におけるジェンダー」、後半は「メディア企業における組織のジェンダー」を中心に研究発表を行っていく。前半では、現代日本のマスメディア企業の発する情報や制作作風を調査・分析し、それらがよりよい社会の形成を目指すうえで適切なものであるかどうか検討を行い、後半では、マスメディアの企業内部のジェンダー問題について分析の目を向けていく。当然のことながらジェンダーの視点には、女性問題のみならずLGBTに対する差別問題も含まれ、より広範には障がいの有無や国籍、人種、年齢等の属性による差別問題も視野に入る。ジェンダーを起点に、広くダイバーシティの問題にも焦点をあて、今後のマスメディアのあり方について考えていくことを目的とする。		
具体的にはグループ単位で特定のケースについて調査・分析を行い、その結果をパワーポイントにまとめ口頭発表を行う。発表は学期中に複数回担当するように設計し、各発表に対しゼミナール全体で質疑応答や議論を展開していく。		
授業の到達目標は、自分自身の問題意識を仲間と共有しながら議論し、最終的にはグループとしての研究発表にまとめ上げる能力を養うことにある。情報収集、分析、論理的思考、発表や議論でのコミュニケーション能力の向上を目指していく。		
2. 授業内容		
第一回 イントロダクション		
第二回 プレゼンテーション①		
第三回 プレゼンテーション②		
第四回 プレゼンテーション③		
自己紹介を兼ね各自の考える社会的課題についてのプレゼンテーション		
第五回 発表①		
第六回 発表②		
第七回 発表③		
第八回 発表④		
第九回 発表⑤		
「マスメディアとジェンダー」をテーマとして、各班による発表と質疑応答・議論の展開。		
マスメディアで発信されている各種コンテンツを批判的に分析する		
第十回 発表⑥		
第十一年 発表⑦		
第十二回 発表⑧		
第十三回 発表⑨		
「メディアにおける組織のジェンダー」をテーマとして、各班による発表と質疑応答・議論の展開。		
テレビ・新聞・雑誌・ラジオ 各業界を代表する企業調査		
第十四回 総括		
3. 履修上の注意		
毎回、積極的に発言すること。ゼミナールへの参加姿勢により評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、理由を添えて事前に届け出ること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
予習については、前週に指示するので各自準備をして授業に臨むこと。事前に授業に関わる資料を配布したり調べるべき課題を指定したりするので、それを読み自分なりの理解と考えを整理すること。		
5. 教科書		
適宜、提示する。		
6. 参考書		
適宜、提示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業内で指示する		
8. 成績評価の方法		
授業への出席率と議論への参加状況で50%、グループ発表や課題提出状況で50%として成績評価を行う。授業の出席は履修の必須条件のため、授業の欠席が多い者は失格となる。		
9. その他		
授業内容は今日的な企業動向や政府方針と直接的に関係するため、履修者は常に、時事問題やニュースに注目し、その知識に基づき議論に参加することが求められる。		

科目ナンバー：(IC)IND212J																														
問題発見テーマ演習 B																														
2単位	2年次	小田 光康																												
1. 授業の概要・到達目標																														
<p>この演習ゼミは「SDGsとフェアトレードをめぐる問題のジャーナリズムから視点」をテーマにしています。SDGsやフェアトレードは国内で無批判に善行のように受け入れられていますが、そこで発生する利権や弱者への不利益などの問題も多くあります。この問題について明治大学セミナーハウスで合宿形式のワークショップを実施します。2~3人のグループに分け、それぞれが決めたテーマについて調査研究をして発表・議論することでジャーナリズムからの視点でこれらの諸問題を理解することを目的とします。</p> <p>このゼミでは和泉キャンパスで9月30日土曜日1限から3限まで1回、ジャーナリズム、特に調査報道に関する基礎知識を習得する講義を行います。その後、明治大学セミナーハウスで11月10日午後から11月12日午後までの2泊3日のワークショップ合宿を開きグループごとの調査研究をし、最終発表とまとめの授業を実施します。</p> <p>また、ゼミであるため合宿ゼミ中に履修・学生生活・進路に関する個人面談も実施します。</p>																														
2. 授業内容																														
<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>イントロダクション（和泉）</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>ジャーナリズム入門（和泉）</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>グループ分けとテーマ設定（和泉）</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>ワークショップ：課題調査（1）（セミナーハウス）</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>ワークショップ：課題調査（2）（セミナーハウス）</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>ワークショップ：課題調査（3）（セミナーハウス）</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>ワークショップ：課題調査（4）（セミナーハウス）</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>中間発表（セミナーハウス）</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（1）（セミナーハウス）</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（2）（セミナーハウス）</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（3）（セミナーハウス）</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（4）（セミナーハウス）</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>調査結果発表（セミナーハウス）</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>まとめと反省（セミナーハウス）</td></tr> </table>			第1回	イントロダクション（和泉）	第2回	ジャーナリズム入門（和泉）	第3回	グループ分けとテーマ設定（和泉）	第4回	ワークショップ：課題調査（1）（セミナーハウス）	第5回	ワークショップ：課題調査（2）（セミナーハウス）	第6回	ワークショップ：課題調査（3）（セミナーハウス）	第7回	ワークショップ：課題調査（4）（セミナーハウス）	第8回	中間発表（セミナーハウス）	第9回	ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（1）（セミナーハウス）	第10回	ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（2）（セミナーハウス）	第11回	ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（3）（セミナーハウス）	第12回	ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（4）（セミナーハウス）	第13回	調査結果発表（セミナーハウス）	第14回	まとめと反省（セミナーハウス）
第1回	イントロダクション（和泉）																													
第2回	ジャーナリズム入門（和泉）																													
第3回	グループ分けとテーマ設定（和泉）																													
第4回	ワークショップ：課題調査（1）（セミナーハウス）																													
第5回	ワークショップ：課題調査（2）（セミナーハウス）																													
第6回	ワークショップ：課題調査（3）（セミナーハウス）																													
第7回	ワークショップ：課題調査（4）（セミナーハウス）																													
第8回	中間発表（セミナーハウス）																													
第9回	ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（1）（セミナーハウス）																													
第10回	ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（2）（セミナーハウス）																													
第11回	ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（3）（セミナーハウス）																													
第12回	ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（4）（セミナーハウス）																													
第13回	調査結果発表（セミナーハウス）																													
第14回	まとめと反省（セミナーハウス）																													
3. 履修上の注意																														
<p>このゼミは9月30日土曜日1限から3限まで1回、ジャーナリズム、特に調査報道に関する基礎知識を習得する講義を行います。その後、明治大学セミナーハウスで11月10日午後から11月12日午後までの2泊3日のワークショップ合宿を実施します。ワークショップ合宿形式の協働学習なのですべての授業に出席することを履修要件とします。また、合宿参加費として約1万円が必要です。パソコンは各自用意すること。</p>																														
4. 準備学習（予習・復習等）の内容																														
<p>SDGsとフェアトレードをめぐる問題の新聞記事を最低10本収集し、初回のゼミ授業に持参してその内容を発表すること。</p>																														
5. 教科書																														
特に定めません																														
6. 参考書																														
<p>『SDGsの不都合な真実「脱炭素」が世界を救うの大嘘』川口マーン 惠美 掛谷英紀、有馬純、杉山大志、宝島社</p> <p>『フェアトレードのおかしな真実——僕は本当に良いビジネスを探す旅に出た』コナー・ウッドマン著、松本裕翻訳、英治出版</p> <p>『フェアトレードの人類学——ラオス南部ボーラヴェーン高原におけるコーヒー栽培農村の生活と協同組合』箕曲在弘著、めこん『コーヒーの科学「おいしさ」はどこで生まれるのか』旦部幸博著、ブルーバックス新書、講談社</p> <p>『アヘン王国潜入記』高野秀行著、集英社文庫</p>																														
7. 課題に対するフィードバックの方法																														
中間発表および最終発表でその内容についてフィードバックをします。																														
8. 成績評価の方法																														
ワークショップへの参加度（50%）とアウトプット内容（50%）で評価する。全授業の出席を最低条件とする。																														
9. その他																														
学生同士で、ある問題を見つけ、世間にそれを問い合わせ、社会的な傾向を見つけるアプローチを学んでください。																														
科目ナンバー：(IC)IND212J																														
問題発見テーマ演習 B																														
2単位	2年次	川島 高峰																												
1. 授業の概要・到達目標																														
<p>このゼミナルでは、今日、大転換期にある国際社会の中で、これから日本の政策や、その背景について次の観点から学ぶことにします。</p> <p>岸田総理はアベノミクスからの転換を図りつつあります。新しい資本主義、デジタル田園都市国家、経済安全保障が岸田政権の新しい3本の矢ということになるでしょう。いずれも安倍政治の主要政策とは異なる面があります。パンデミックにより国際社会の地理政治的（地理的かつ軍事・経済的な力学）関係も変容してきています。</p> <p>今日、大転換期にある国際社会の中で、これから日本の政策や、その背景について次の観点から学ぶことにします。</p>																														
<ul style="list-style-type: none"> ・保守とは何か、革新とは何だったのか ・岸田内閣の新しい資本主義とは何か、何故、「新しい」必要があるのか、何が古かったのか ・安全保障環境の激変と世界政治の新たなプレイヤー 																														
2. 授業内容																														
<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>保守とは何か？ 革新とは何か？</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>日本の原理主義 特攻の思想について</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>日本政治の保守4系、所謂、昭和モデルと自由主義</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>新自由主義とアベノミクス、「美しい国日本」</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>地方創生とネオ東京 ビーする地方消滅</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>グレート・リセットとコロナ後の世界</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>新しい資本主義って何？ ビーする日本経済、DXってそんなに効果ある？</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>世界の政治経済 新たなプレイヤーの歴史</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>ロシアの世界戦略とプーチン</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>中国の世界戦略と軍事力・経済力・技術力</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>新しい世界政治の地図</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>日本の安全保障戦略1</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>日本の安全保障戦略2</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>新しい日本ってどんな国？</td></tr> </table>			第1回	保守とは何か？ 革新とは何か？	第2回	日本の原理主義 特攻の思想について	第3回	日本政治の保守4系、所謂、昭和モデルと自由主義	第4回	新自由主義とアベノミクス、「美しい国日本」	第5回	地方創生とネオ東京 ビーする地方消滅	第6回	グレート・リセットとコロナ後の世界	第7回	新しい資本主義って何？ ビーする日本経済、DXってそんなに効果ある？	第8回	世界の政治経済 新たなプレイヤーの歴史	第9回	ロシアの世界戦略とプーチン	第10回	中国の世界戦略と軍事力・経済力・技術力	第11回	新しい世界政治の地図	第12回	日本の安全保障戦略1	第13回	日本の安全保障戦略2	第14回	新しい日本ってどんな国？
第1回	保守とは何か？ 革新とは何か？																													
第2回	日本の原理主義 特攻の思想について																													
第3回	日本政治の保守4系、所謂、昭和モデルと自由主義																													
第4回	新自由主義とアベノミクス、「美しい国日本」																													
第5回	地方創生とネオ東京 ビーする地方消滅																													
第6回	グレート・リセットとコロナ後の世界																													
第7回	新しい資本主義って何？ ビーする日本経済、DXってそんなに効果ある？																													
第8回	世界の政治経済 新たなプレイヤーの歴史																													
第9回	ロシアの世界戦略とプーチン																													
第10回	中国の世界戦略と軍事力・経済力・技術力																													
第11回	新しい世界政治の地図																													
第12回	日本の安全保障戦略1																													
第13回	日本の安全保障戦略2																													
第14回	新しい日本ってどんな国？																													
* 順番や内容に若干の変更があるときがあります。																														
3. 履修上の注意																														
必須ではありませんが、本ゼミの理解と学生間の親睦を深めるためにできるだけ講義科目「政治学」の履修をすることをおすすめします。																														
4. 準備学習（予習・復習等）の内容																														
内閣府の岸田内閣の重点政策、新しい資本主義、デジタル田園都市国家構想、経済安全保障についての文献を見ておくようにしましょう。																														
5. 教科書																														
特にありません。そもそも、教科書のない問題ばかりですからね。																														
6. 参考書																														
<p>「Society 5.0 実現に向けて Society 5.0 実現に向けて」- 内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/infra-fukkou/12kai/sanko2.pdf</p> <p>「不安な個人、立ちくらむ国家」- 経済産業省 https://www.meti.go.jp/committee/summary/eic0009/pdf/020_02_00.pdf</p>																														
7. 課題に対するフィードバックの方法																														
レポートとして実施する学生の講義に対するコメントは、原則としてクラスでシェアして、その都度、講評を行う。																														
8. 成績評価の方法																														
講義に対するコメントで成績評価を行う。10回、実施予定であり、提出回数と内容で評価する。																														
9. その他																														

科目ナンバー：(IC)IND212J																														
問題発見テーマ演習B																														
2単位	2年次	熊田 聖																												
1. 授業の概要・到達目標																														
<p>このゼミのねらいは、調査、発表、レポート作成を行うことが出来るようになります。つまり、ある分野について学習したことをうまく伝えていくことをトレーニングしていきます。対人的well-beingともいえます。そのため、選んだテーマに対し、調査・準備をし、授業は自由に皆さんと考えをのべてもらう場となります。その上で、仲間の意見も知つてもらうよう、ディベートも行う予定です。また「思索トレーニング」では、学生の提案したテーマについて自分の考えをとめて提出します。</p> <p>思索トレーニングの内容：AかBの選択肢があるものを議論し、どちらが自分は良いと思うかをレポートにまとめる</p> <p>過去のテーマ例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・USJかディズニーランドか ・仕事はやりがいか給料か ・自転車は乗れるようになっておくべきか ・ファンデーションはカバーリーかテクスチャーリーか <p>【授業の概要】</p> <p>SHOW (A)：起業家を演じましょう。</p> <p>SHOW (B)：本について発表しよう。</p> <p>SHOW (C)：自由に発表しよう。</p> <p>どうしたら理科実験をしないで伝えられるのかを、半期を通して考えてみましょう。エンターテイメントを意識した小学生レベルの理科の実験や絵本などを題材として表現の仕方を自分で考え発表します。発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれるよう心がけてください。その週の担当者が自分の考えた発表をします。</p> <p>その後、各自で関心のある問題を選択し、ディベートを行います。すなわち1回1回のゼミは皆さんが作りあげていく、比較的自由度の高いゼミです。</p> <p>SHOWはパワーポイント、口頭、その他やりやすい方法で自由に発表可能です。</p> <p>【到達目標】</p> <p>自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることになること。</p>																														
2. 授業内容																														
<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>発表テーマ、グループ決定</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>社会企業家を演じる（1）、思索トレーニング発表、思索トレーニング</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>社会企業家を演じる（2）、思索トレーニング発表、思索トレーニング</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>社会企業家を演じる（3）、思索トレーニング発表、思索トレーニング</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>ディベート</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>本について発表しよう（1）、思索トレーニング発表、思索トレーニング</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>本について発表しよう（2）、思索トレーニング発表、思索トレーニング</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>本について発表しよう（3）、思索トレーニング発表、思索トレーニング</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>ディベート</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>自由に発表しよう（1）、思索トレーニング発表、思索トレーニング</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>自由に発表しよう（2）、思索トレーニング発表、思索トレーニング</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>自由に発表しよう（3）、思索トレーニング発表、思索トレーニング</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>絵本を用いた質疑応答形式発表（1）</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>絵本を用いた質疑応答形式発表（2）</td></tr> </table>			第1回	発表テーマ、グループ決定	第2回	社会企業家を演じる（1）、思索トレーニング発表、思索トレーニング	第3回	社会企業家を演じる（2）、思索トレーニング発表、思索トレーニング	第4回	社会企業家を演じる（3）、思索トレーニング発表、思索トレーニング	第5回	ディベート	第6回	本について発表しよう（1）、思索トレーニング発表、思索トレーニング	第7回	本について発表しよう（2）、思索トレーニング発表、思索トレーニング	第8回	本について発表しよう（3）、思索トレーニング発表、思索トレーニング	第9回	ディベート	第10回	自由に発表しよう（1）、思索トレーニング発表、思索トレーニング	第11回	自由に発表しよう（2）、思索トレーニング発表、思索トレーニング	第12回	自由に発表しよう（3）、思索トレーニング発表、思索トレーニング	第13回	絵本を用いた質疑応答形式発表（1）	第14回	絵本を用いた質疑応答形式発表（2）
第1回	発表テーマ、グループ決定																													
第2回	社会企業家を演じる（1）、思索トレーニング発表、思索トレーニング																													
第3回	社会企業家を演じる（2）、思索トレーニング発表、思索トレーニング																													
第4回	社会企業家を演じる（3）、思索トレーニング発表、思索トレーニング																													
第5回	ディベート																													
第6回	本について発表しよう（1）、思索トレーニング発表、思索トレーニング																													
第7回	本について発表しよう（2）、思索トレーニング発表、思索トレーニング																													
第8回	本について発表しよう（3）、思索トレーニング発表、思索トレーニング																													
第9回	ディベート																													
第10回	自由に発表しよう（1）、思索トレーニング発表、思索トレーニング																													
第11回	自由に発表しよう（2）、思索トレーニング発表、思索トレーニング																													
第12回	自由に発表しよう（3）、思索トレーニング発表、思索トレーニング																													
第13回	絵本を用いた質疑応答形式発表（1）																													
第14回	絵本を用いた質疑応答形式発表（2）																													
3. 履修上の注意																														
<p>このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。</p> <p>使用する教科書の実践編がゼミです。</p>																														
4. 準備学習（予習・復習等）の内容																														
<p>あえて理想的なShowを紹介することはしません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じたが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかつた情報は何か。あるいは反対に、自分は必要と感じなかつたが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。</p> <p>このような一連のプロセスを分析・改善し、次回のShowの準備のために新たな試行錯誤を経験する、という流れの全てを学びの機会と捉えてください。</p>																														
5. 教科書																														
熊田聖「意思決定論理」泉文堂等、詳しくは授業内で連絡します。																														
6. 参考書																														
授業内で連絡します。また、必要な書籍はゼミ費で購入し配布します。																														
7. 課題に対するフィードバックの方法																														
<p>前回までの学生からのコメントに関し、授業の中で適宜解説していきます。</p> <p>課題に関しては、締め切り当日あるいは次週の対面授業、あるいは個人あてにコメントします。</p>																														
8. 成績評価の方法																														
<p>評価は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) レジュメと発表内容 30% 2) 発表者へのアドバイス 30% 3) ディベートへの参加 20% 4) 思索トレーニングへの参加 20% <p>以上4点で行います。</p>																														
9. その他																														
<p>男女比約1：1で楽しく仲良く活動しています。</p> <p>教科書はゼミ費より支給します。</p>																														
科目ナンバー：(IC)IND212J																														
問題発見テーマ演習B																														
2単位	2年次	後藤 晶																												
1. 授業の概要・到達目標																														
<p>テーマ：</p> <p>「社会科学・行動科学のためのプログラミング入門」</p> <p>授業の概要：</p> <p>昨今では、心理学や脳神経科学のみならず、従来は実験という手法が用いられてこなかった経済学、会計学、政治学や社会学といった分野でも「実験」という手法が用いられている。ここでいう実験とは、実験室で実験参加者を対象に実施する実験室実験に限らず、広義な意味で現実の生活場面に実験を持ち込んだフィールド実験やコンピュータシミュレーションも含まれている。「実験」を用いて社会における人間の行動の解明、さらに人間行動を踏まえた制度・政策設計を試みる「実験社会科学」という領域も確立しつつある。</p> <p>本演習においては、様々な社会科学領域における「実験」について検討する新たな実験・調査手法としてのインターネットに着目し、インターネットを使った実験手法について概要を学ぶ。</p> <p>具体的には、Pythonの1ライブラリであるoTreeを用いて、「アンケート」とゲーム理論にもとづいた「実験」をインターネット上で実施するためのプログラミングを学ぶ。同時に、ゲーム理論的な思考法についても涵養していくこととする。</p> <p>なお、本演習ではプログラミング経験は問わない。過去にプログラミングを学んだことがない学生も臆せず参加してほしい。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科学・行動科学領域における実験の意義について説明することができる。 2. Pythonによるプログラミングの基礎を理解できる。 3. ゲーム理論の基本的な考え方を理解できる。 																														
2. 授業内容																														
<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>イントロダクション</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>プログラミングの基礎（1）：アンケートの作成</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>プログラミングの基礎（2）：公共財ゲーム実験の作成1</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>プログラミングの基礎（3）：公共財ゲーム実験の作成2</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>プログラミングの基礎（4）：さまざまな入力方式の検証</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>プログラミングの応用（1）：最終提案ゲームの作成1</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>プログラミングの応用（2）：最終提案ゲームの作成2</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>実験のための倫理</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>実験計画（1）</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>実験計画（2）</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>実験設計（1）</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>実験設計（2）</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>実験設計（3）</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>発表・総括</td></tr> </table>			第1回	イントロダクション	第2回	プログラミングの基礎（1）：アンケートの作成	第3回	プログラミングの基礎（2）：公共財ゲーム実験の作成1	第4回	プログラミングの基礎（3）：公共財ゲーム実験の作成2	第5回	プログラミングの基礎（4）：さまざまな入力方式の検証	第6回	プログラミングの応用（1）：最終提案ゲームの作成1	第7回	プログラミングの応用（2）：最終提案ゲームの作成2	第8回	実験のための倫理	第9回	実験計画（1）	第10回	実験計画（2）	第11回	実験設計（1）	第12回	実験設計（2）	第13回	実験設計（3）	第14回	発表・総括
第1回	イントロダクション																													
第2回	プログラミングの基礎（1）：アンケートの作成																													
第3回	プログラミングの基礎（2）：公共財ゲーム実験の作成1																													
第4回	プログラミングの基礎（3）：公共財ゲーム実験の作成2																													
第5回	プログラミングの基礎（4）：さまざまな入力方式の検証																													
第6回	プログラミングの応用（1）：最終提案ゲームの作成1																													
第7回	プログラミングの応用（2）：最終提案ゲームの作成2																													
第8回	実験のための倫理																													
第9回	実験計画（1）																													
第10回	実験計画（2）																													
第11回	実験設計（1）																													
第12回	実験設計（2）																													
第13回	実験設計（3）																													
第14回	発表・総括																													
3. 履修上の注意																														
<p>・演習形式の授業であるために出席を重視する。また、発表担当者になった場合は必ず発表資料（講義資料）を用意して出席すること。</p> <p>・この授業ではPythonを用いたプログラミングを行う。授業でも紹介するが、自宅のPCにもPythonおよび適切なIDEをインストールすること。</p> <p>・可能であればPCを持参して演習に参加すること。</p>																														
4. 準備学習（予習・復習等）の内容																														
小課題の提出・発表の準備等が必要となる。																														
5. 教科書																														
教員が資料を用意するが、必要に応じてweb資料等を紹介する。																														
6. 参考書																														
適宜授業内で紹介する。																														
7. 課題に対するフィードバックの方法																														
毎回の授業でリアクションペーパーに対するコメントをする。																														
8. 成績評価の方法																														
<p>毎回の授業への参加状況30%、課題の評価40%、レポート30%</p> <p>・毎回の授業への参加状況：リアクションペーパー等を含めた授業への参加状況を評価する。</p> <p>・課題の評価：発表資料を評価する。</p> <p>・レポート：学期末にレポートを課す。</p>																														
9. その他																														
<p>演習形式としているが、授業内ではグループワークを重視する。担当教員が開講する「問題発見テーマ演習A」で得られた知識が「問題発見テーマ演習B」の理解に有用であるために連続して受講することを勧める。しかし、必ずしも連続した受講を前提としない。</p>																														

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	小林 秀行
1. 授業の概要・到達目標		
<p>この講義の趣旨は、学習を通して、課題の発見・情報の入手・情報の整理・プレゼンテーション・レポート作成など、大学における学びの技法についての習得と実践を図ることにあります。講義の到達目標は、「正解のない問い合わせ方を獲得すること」「自ら問題設定ができる能力を獲得すること」「自然災害に関する基礎的知識を獲得すること」の3点とします。気候変動の影響を受けて世界的に増加傾向にある自然災害だけでなく、戦争や迫害、感染症、公害など、人類の歴史は「災禍(catastrophe)」と向き合い続けてきた歴史だともいってできます。このような災禍はわれわれの生活を脅かし、時にはそのあり方を大きく変化させるため、様々な形のつながりを通じ、その変化に対応しようとしてきたことは、現代社会の姿をみても理解できるところだと思います。この際、われわれは言語や絵画、音楽、映像、舞踊やモニュメントなど、多様な形のコミュニケーションを通して、災禍と向き合い、そして災禍の経験を継承しようと試みてきました。現代社会でコミュニケーションといえば、マスメディアやSNSがすぐに思い浮かんでくるかもしれません、このように社会の中で行われるコミュニケーションはきわめて多様であり、とりわけ命がかわる災禍をめぐっては、その1つが試行錯誤のなかで紡がれてきました。本講義では、このような事実を背景として「災害の捉え方を発見する」をテーマに設定し、社会が災禍、とくに自然災害をどのように捉えてきたのかについて、「演習形式」で講義を展開します。つまり、受講生は上記のテーマに則して、自ら問い合わせを見出し、それに応えるという経験を段階的に進めていくことになります。担当教員は基礎的知識の講義や映像資料の提供のほか、その進捗に応じて指導を行います。講義内ではグループ・ディスカッションや質疑応答の時間も設け、受講生間での意見交換を図ることができる「ゼミナール形式」の機会を確保しています。作業自体は基本的に各自の個別作業となります。講義内容の詳細については、「授業内容」を確認してください。なお、述べたように本講義では災禍、とくに自然災害を対象としています。災禍の議論は、常に、それによって苦しむ人々の存在と向き合うことになり、決して明るい話題とは言えません。しかし、誰かがそうした問題を議論し、解決のための道筋を考えなければ、社会には苦しむ人々が残されたままとなります。本講義は、大学における学びの技法についての習得と実践を図ることを主たる目的としており、どのような学生の受講も妨げるものではありませんが、上記の趣旨に賛同し、こうした問題について学んでみたいという学生を特に歓迎します。</p>		
2. 授業内容		
<p>第01回 イントロダクション：災害の捉え方を“発見”する 第02回 講義①：災害の捉え方のこれまで 第03回 講義②：災害への関心と消費 第04回 映像視聴① 第05回 映像視聴② 第06回 グループディスカッション① 第07回 映像視聴③ 第08回 映像視聴④ 第09回 グループディスカッション② 第10回 演習①：社会は災害をどのように捉えているのか 第11回 演習②：社会は災害をどのように捉えているのか 第12回 演習③：社会は災害をどのように捉えているのか 第13回 演習④：社会は災害をどのように捉えているのか 第14回 演習⑤：社会は災害をどのように捉えているのか</p> <p>(担当教員の判断により、適宜変更することがあります。)</p>		
3. 履修上の注意		
<p>○本講義は主として演習形式となり、講義外の時間での作業など、受講生の主体的な関わりなしには成立しません。こうした関わりが不十分な場合、履修の意志がないものとみなし、単位認定を行わないことがありますので注意してください。</p> <p>○環境への配慮、感染症に対する感染防御の観点から、配布物やリアクション・ペーパー等はすべてoh-meijiを通して行います。そのため、講義中にPC等で資料を閲覧することを認めます。紙媒体で資料を用意するよう指示があった場合や、必要を感じた場合は各自で印刷をお願いします。</p>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
<p>予習：自身の問い合わせ方について、計画的に作業を進めておくこと。 復習：各回における資料や議論を整理し、発見した点や疑問点を明確にしておくこと。</p>		
5. 教科書		
特になし。適宜資料を配布します。		
6. 参考書		
特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
フィードバックについては、主としてoh-meijiを通じて全体向けに行う。		
8. 成績評価の方法		
講義への主体的な参加（30%）、期末レポート（4,000字以上）（70%） なお、4回以上欠席した場合、単位認定を行わないで注意すること。		
9. その他		
自然災害は社会の実像を映し出す鏡ともいわれます。決して明るいテーマとは言えませんが、自然災害を正面から見据えることで、当たり前と思っていた現代社会にも、多くの疑問が浮かんできます。3年次以降、自分なりの問い合わせ方について、専門分野をもちたいと考えつつも、未だ見つかっていないという学生には、それを発見する一助になるかと思います。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	坂本 祐太
1. 授業の概要・到達目標		
<p>＜授業の概要＞</p> <p>「勝手に部屋の掃除をしてくれるロボットがあればいいのに」 「勝手に料理を作ってくれるロボットがあればいいのに」 「勝手に荷物を運んでくれるロボットがあればいいのに」 といった我々人間の多くの願い（欲望）は、これまで人工知能によつて叶えられてきました。近年の人工知能の発達は目覚ましく、将棋・囲碁・チェスの世界では一流的のプロをも打ち負かし、我々人間の知能を分野によつては遙かに凌駕しているのが現実です。皆さんも「人工知能の発達によって、我々人間の仕事が将来無くなるのではないか...」という議論を一度は耳にしたことがあるかもしれません。</p> <p>本ゼミナールでは、人工知能に関する物語を読み進めの中で、「人工知能と我々人間は何が違うのか」という問いに「ことば」の観点から迫ることを目標とします。秋学期の問題発見テーマ演習Bで教科書として扱う物語は、勉強嫌いでわがままな11歳の王子の浅はかな言動がきっかけで、邪悪な魔術師により城中の人に「人間の言葉の意味を理解し、人間の命令を実行する人形」に置き換えられてしまうところから始まります。王子は素晴らしい人形を手に入れたと最初は思うわけですが、すぐに「意図理解」に関する人間とそのようなロボットの違いから、数多くの問題に直面し、奮闘していくことになります。「料理を作って」「その本が見たいんだけど」など、我々が普段人に何かお願い・命令するときに使う表現がロボットによってどのように理解され、その結果どのような問題が生じるのかを、物語を通して垣間見の中で、人工知能と我々人間の違いについて考えます。</p> <p>また、ゼミナール後半では、まとめとして教科書で学んだことをベースに人工知能に関するトピックをグループ単位で自由に設定し、調査を行い、その結果を発表していただきます。</p>		
＜授業の到達目標＞		
<ul style="list-style-type: none"> ・文献の要点を簡潔にまとめ、他者に分かりやすく伝える力を身につける ・人工知能と人間の違いについて自分のことばで他者に伝える力を身につける 		
2. 授業内容		
<p>第1回 イントロダクション 第2回 「絶望と呪い」 第3回 「人形と猫」 第4回 「炎と涙」 第5回 「戦闘と料理」 第6回 「作戦と作法」 第7回 「逡巡と決断」 第8回 「敵と客人」 第9回 「献身と意思」 第10回 「意図理解」の課題・グループワーク① 第11回 調査計画の発表 第12回 グループワーク② 第13回 グループワーク③ 第14回 調査報告及び秋学期のまとめ</p>		
3. 履修上の注意		
プレゼンテーションやディスカッションを多く取り入れるため、積極的な姿勢を持って参加することが望ましい。また、プレゼンテーションの担当になった場合は、責任をもって準備を行うこと。履修上、人工知能に関する知識は一切必要ありません。		
受講者の興味関心に合わせて教科書や内容を変更する可能性があるので、教科書の購入はゼミが始まってから行ってください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
＜予習＞物語の精読・発表の準備 ＜復習＞授業内で学んだこと及び疑問に思ったことの整理		
5. 教科書		
『自動人形の城』川添愛（東京大学出版会）		
6. 参考書		
特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
ゼミナール科目なので、メール等で個別に行う。		
8. 成績評価の方法		
授業への貢献度60%、プレゼンテーション40%		
9. その他		
教員が担当している「言語学」の授業及び文学部開講の「英語学概論」「統語論」「音声学」の授業などを併せて履修すると、問題発見テーマ演習Bでの活動に有益かと思います。春学期・秋学期共に人工知能(AI)をテーマに扱いますが、物語はそれぞれ独立したものを用いるため、問題発見テーマ演習Bのみの履修も歓迎します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	島田 剛
1. 授業の概要・到達目標		
<p>コーヒーやチョコレートはどんな人が生産し、どのようにして私たちの元へ届くのでしょうか？そして生産者の人たちはどんな暮らしをして、何を考え、感じているのでしょうか？</p> <p>グローバリゼーションが進み世界が一体化するとともに、国内でも世界でも経済格差が拡大しています。このゼミでは国内の貧困と途上国の貧困を同時に考えます。</p> <p>このゼミではコーヒーを題材として取り上げ、そこから国内外の貧困問題を考えて皆で議論をします（数週間に1度は発表）。</p> <p>街づくりでは主に神保町を対象にします。それは、この地域がアマゾンや電子書籍の台頭といった経済のデジタル化によって大きな影響を受ける可能性のある地域だからです。神保町は古書街として有名であるだけでなく、古くからある喫茶店と新しいタイプのカフェのどちらも地域にあり、多様なコーヒーの楽しみ方を提供できる場所もあります。</p> <p>こうしたことからゼミ生はコーヒーと書店の相乗効果を考慮しながら、新たな街づくりに取り組み提案を作成します。同時に、より途上国のコーヒーランド生産者に寄り添ったコーヒー取引のあり方について調査し、こちらについても提案を作成します。特にこのBでは生産国調査に比重を多くする予定です。</p>		
(到達目標) ゼミ生はコーヒーという財を通じて、世界経済と都市のあり方について理解を深め国際経済を見る視点を身につける		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション 第2回 研究のノウハウの復習 第3回 コーヒーからみるグローバリゼーション 第4回 生産国現状分析① 第5回 生産国現状分析② 第6回 生産国現状分析③ 第7回 各班による中間発表 第8回 生産国に共通する課題は何か、違いは何か 第9回 経済成長を考える 第10回 「利潤」はどこから来るか 第11回 グループ発表準備① データー収集・分析 第12回 グループ発表準備② 論点の確認 第13回 グループ発表① 第14回 グループ発表② 第15回 まとめ		
3. 履修上の注意		
<p>3~4年の島田ゼミのHPを見るとゼミの内容がイメージしやすくなるので履修前に見ることをおすすめします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神保町コーヒープロジェクト (https://jimbocho-coffee.com/) ・3分の1のパン屋さん (https://meijinow.jp/meidainews/news/65614) ・スティグリツ教授（ノーベル経済学賞）との対話 (https://youtu.be/VjmxTheLvv8) <p>講師が別に開講しているミクロ経済学、マクロ経済学の授業を受講することが望ましい。</p>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
プレゼンテーションの準備が必要		
5. 教科書		
なし		
6. 参考書		
島田剛（2023）「ミクロ経済学への招待」（新世社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
ゼミにおける発表に対してコメントをすることによりフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法		
発表（60%）、ディスカッションへの貢献度（40%） 欠席・遅刻が多い場合は不可とします。無断欠席5回で以後の参加を認めません。		
9. その他		
「演習の主役」は学生であり、この演習を楽しくするのも、つまらなくなるのも、みなさん次第です。「よく学び、よく議論し、よく遊ぶ」みなさんの履修を歓迎します。		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	清水 晶紀
1. 授業の概要・到達目標		
<p>【授業概要】お酒の法律学（法政策編） 20歳になる（なった）みなさんにとって一番劇的かつ身近な変化は、お酒が「解禁」になることでしょう。これは、法律が20歳未満の飲酒を禁止しているからです。実は、お酒をめぐっては、製造・流通・販売・消費・廃棄の各段階で、様々な法律が関係しています。そこで、本演習では、私たちに身近な「お酒」を素材に、法律学の基礎的な思考方法を身につけてもらいたいと考えています。</p> <p>法律学は、大きく分けて法解釈学と法政策学に分かれますが、Bでは、将来的な紛争予防にむけ、法律の適切な制定改正を探る法政策学を取り上げます。</p> <p>具体的には、「お酒」に関わる法律や行政実務の中からみなさんの関心のあるテーマを取り上げて、現行制度・実務の問題点や関連法分野の基礎的知識を踏まえ、法政策の提言を行います。たとえば、飲酒可能年齢をめぐる問題、お酒のラベル表示をめぐる問題、コロナ禍での居酒屋営業をめぐる問題などが考えられますが、いずれにせよ、「お酒」の世界を通じて、法政策学が私たちの社会生活の基礎を形成する身近な学問だということを実感してもらいたいと思っています。</p> <p>これから的人生において、お酒を嗜む（予定の）みなさんは勿論、そうでないみなさんも、社会生活上の色々な場面でお酒の問題と接点を持つことになるでしょう。お酒の世界を通じて、法政策学の世界と一緒に覗いてみませんか。</p>		
【到達目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・法律学の全体像をおおまかに把握できていること ・法的な発想に基づいて演習中の議論を行えていること ・基本的な法律用語を独力で使いこなせていること 		
2. 授業内容		
1. イントロダクション（自己紹介・演習の進め方） 2. 報告・資料収集の作法 3. 研究テーマの選定 4. 基礎知識の調査①：研究テーマに関する現行法制度の概要 5. 基礎知識の調査②：研究テーマに関する現行法制度の問題点 6. 基礎知識の調査③：問題点に関する法学の基礎的知識 7. 基礎知識の調査④：基礎的知識を踏まえた論点の抽出 8. 施設見学 9. 法政策提言コンペの準備 10. 法政策提言コンペ 11. プrezentation作成① 12. プrezentation作成② 13. 研究成果報告会 14. 報告会の振り返りと全体のまとめ		
※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。		
3. 履修上の注意		
参加者のみなさんの希望によっては、ゲスト講師の招聘や施設見学（ビール工場、ウイスキー工場、酒蔵、ワイナリー等）の実施を検討します。その際には、演習時間外に実施する可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
報告・議論等の準備は、演習時間外に行うことになります。 また、担当教員としては、演習で企画する各種イベントへの参加も、広い意味で「学習」の一環と考えています。		
5. 教科書		
特に指定しません。		
6. 参考書		
適宜指示しますが、お酒をめぐる法政策学に関わる書籍として、鰐原健介『ワイン法』（講談社・2019）を挙げておきます。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
ゼミナール形式のため、学生による報告や議論については、そのタイミングで適宜フィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法		
演習は学生主体のクラスのため、出席は当然の前提です。その上で、演習での報告内容（50%）、議論への参加状況（30%）、最終立論の内容（20%）を総合的に評価します。		
9. その他		
「演習の主役」は学生であり、この演習を楽しくするのも、つまらなくなるのも、みなさん次第です。「よく学び、よく議論し、よく遊ぶ」みなさんの履修を歓迎します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習B		
2単位	2年次	鈴木 健人
1. 授業の概要・到達目標		
<p>【授業の概要】冷戦とその後の歴史を学ぶことで、現在の国際社会が直面している様々な問題の背景を知り、国際関係論を学ぶ。このゼミでは理論的な枠組みを生かしながらも、具体的な個々の問題を分析することを重視する。それによって「問題分析ゼミナール」で自らの研究課題を設定し学習するための準備をする。米露の核戦略、第三世界の民族問題、日本と東南アジアの関係、EUの発展など、国際政治における重要な争点について研究する。「9月11日」によって国際社会がどのように変化し、そこにはどのような問題があるのかを探る。また国際社会における情報やコミュニケーションのあり方が、現実の政治にどのような影響を与えるかを考える。</p> <p>ゼミでは毎回、一人が設定されたテーマや教科書の割り当て部分について研究報告をし、それに基づいて問題点を全員で議論する。ある程度専門的な知識を活用して議論できるようになら、グループ分けをしてディベートをしたり、グループごとの研究発表を行う。自分の研究報告についてレポートを提出してもらい文章の表現力を養う。</p> <p>【到達目標】問題分析ゼミに入って自分で研究を進めるための能力を身に付ける。国際社会の問題を自分で理解し、初步的ながらも自分で解決策を構想できるようにする。</p>		
2. 授業内容		
第1回 導入と研究報告の割り当て 第2回 冷戦期の国際政治構造 第3回 冷戦後の変動 第4回 「9・11」の意味と国際社会の変化 第5回 アメリカ一極支配と対テロ戦争 第6回 中国の台頭（1）経済の発展 第7回 中国の台頭（2）軍事的意味 第8回 多極的世界への移行か？ 第9回 EUの発展と問題 第10回 第三世界の変容 第11回 リバーラルな国際秩序の終わりか？ 第12回 日本と世界（1）経済の停滞とその意味 第13回 日本と世界（2）外交と防衛政策の変容 第14回 総括：国際秩序変容の方向		
3. 履修上の注意		
専門的な著作や論文をかなり大量に読む予定なので、しっかりと読書し内容を批判的に考察し、自分の意見をまとめられるようにすること。専門用語についても臆せず学ぶ意欲を持つこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
平素から国際問題に関心を持ち、新聞、テレビ、インターネットなどで広く知識を求ること		
5. 教科書		
ロバート・マクマン『冷戦史』（青野利彦監訳）（勁草書房、2018年）その他に適宜資料を配布する。		
6. 参考書		
鈴木健人『「封じ込め」構想と米国世界戦略』 溪水社、平成14年。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業中に行ったり、授業終了後にOh-oMeijilで講評を連絡する。		
8. 成績評価の方法		
プレゼンテーション30%、ゼミへの参加度40%、レポート30%として全体的な評価をする。		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J
問題発見テーマ演習B
2単位
2年次
鈴木 雅博
1. 授業の概要・到達目標
これまで幾度となく、「いじめ」の定義づけが試みられてきたが、ある行為を「いじめ」と見なすか否かは、当事者間に見解の相違があることが少なくない。これは、「いじめ」の定義において、被害者が苦痛を感じたか否かという主觀を判断基準としているためである。この時、ある行為は周囲の者に知られることなく「いじめ」として認識されたり、事後に「いじめであった」と名指され得るものとなる。他方で、今日において「いじめ」が自殺の動機・原因とされることに違和感を持つことはないが、これは社会的な言説実践の帰結と見ることができる。
このように、「いじめ」を客観的実在と見るのはなく、また、「いじめ自殺」への理解を不变的なものとして捉えないものの見方を構築主義（社会的構成主義）と言う。構築主義は研究対象となる事象を人びとの社会的な営みによって作られたものとして捉える見方であり、エスノメソドロジーから示唆を受けている。エスノメソドロジーは人びとが実践をそれとして成り立たせている方法の論理を明らかにする研究アプローチである。本演習では、構築主義およびエスノメソドロジーについて学び、こうしたアプローチから「いじめ自殺」を分析したテキストを批判的に読み解いていく。
【到達目標】
構築主義・エスノメソドロジーの研究アプローチを理解し、これらの視点から「いじめ自殺」を捉えることができる。
2. 授業内容
第1回 イントロダクション 第2回 いじめ問題の歴史と現状1 第3回 いじめ問題の歴史と現状2 第4回 構築主義のアプローチ 第5回 エスノメソドロジーのアプローチ1 第6回 エスノメソドロジーのアプローチ2 第7回 「いじめ自殺」の社会学1：「いじめ自殺」問題とは何か 第8回 「いじめ自殺」の社会学2：社会問題とは何か 第9回 「いじめ自殺」の社会学3：いじめ定義論 第10回 「いじめ自殺」の社会学4：誰が「いじめ」を認定するのか 第11回 「いじめ自殺」の社会学5：「いじめ問題」と教師 第12回 「いじめ自殺」の社会学6：いじめられ経験の構造 第13回 「いじめ自殺」の社会学7：「いじめ問題」の解決とは 第14回 まとめ
3. 履修上の注意
問題発見テーマ演習A（エスノメソドロジー入門）と連続して受講することをお勧めします。 欠席5回で評価対象外とします。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容
発表担当でない時も、必ず文献を精読し、自分なりの論点をもってゼミに臨んでください。
5. 教科書
『「いじめ自殺」の社会学』 北澤毅（世界思想社）2015年。
6. 参考書
授業中に適宜指示します。
7. 課題に対するフィードバックの方法
授業中に行います。
8. 成績評価の方法
議論への参加態度（20%）、レポーターとしての発表（80%）。
9. その他
ゼミで聞いたこと／言ったこと／言えなかったことを反芻することが思考を深化させます。心がけましょう。

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習B		
2単位	2年次	関口 裕昭
1. 授業の概要・到達目標		
「映画と文学の比較研究」 「読んでから見るか、見てから読むか」とは、かつてある映画の宣伝に使われた文句ですが、みなさんも実際に迷ったことがあるのではないかでしょうか。文学と映画はメディアが異なるので、同じ原作をもとにしても、内容にも微妙なずれが見られ、表現の方法や理解の仕方も異なってきます。同じ原作を文字と映像という二つの異なるジャンルから「読む」ことを通して、作品の持つ豊かさとまたの解釈の難しさを学びます。		
この授業では、前半は前期に扱ったメルヘンがどのように映像化されているのかを考えます。また後半では、有名な文学作品がいかに映像化され、どのような変容が生じているのかを詳しく考察します。テーマの性質上、映画を見る時間が多くなることをあらかじめ承知しておいてください。		
2. 授業内容		
第1回 イントロダクション—映画分析の手法・映画の文法を学ぶ 第2回 映画の中のグリム童話—『手なし娘』の鑑賞と分析② 第3回 映画の中のグリム童話—『白雪姫』の様々な映画を比較する 第4回 グリム童話のオペラ化—フンパーディングのオペラ『ヘンゼルとグレーテル』 第5回 「田舎医者」をカ夫カの原作とアニメーションで比較する 第6回 映画『第三の男』の鑑賞と分析① 第7回 映画『第三の男』の鑑賞と分析② 第8回 シェイクスピア『ヴェニスの商人』原作と映画化の比較研究① 第9回 シェイクスピア『ヴェニスの商人』鑑賞と原作との比較研究② 第10回 シュリンク『朗読者』とその映画化『愛を読むひと』の比較研究① 第11回 シュリンク『朗読者』とその映画化『愛を読むひと』の比較研究② 第12回 映画『グッバイ・レーニン』からドイツ統一の歴史を学ぶ① 第13回 映画『グッバイ・レーニン』からドイツ統一の歴史を学ぶ② 第14回 まとめ (以上は大体のスケジュールです。受講者の希望も聞きながら、扱うテクストや映画を変更することもあります)		
3. 履修上の注意		
「問題発見テーマ演習A」「問題発見テーマ演習B」は一応それぞれ独立していますが、Bの前半はAで学んだ前半の応用でもあるので、セットで受講すると理解が一層深まります。前期と同様、授業中の飲食、スマホの利用を禁止します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
前期を履修していない人は、グリム童話を10以上読み（「しらゆきひめ」と「ヘンゼルとグレーテル」は必須）、加えてメルヘンに関する基本的な文献に目を通しておいてください。		
5. 教科書		
特にありません。プリントを配布するか、またはパワーポイントを用います。		
6. 参考書		
たくさんありますので授業中に紹介します。しかし後半見る映画の原作はどれも長編ですので、あらかじめ読んでおくことをお勧めします。訳は複数出ているものがほとんどですので、特に指定しません。 ・カ夫カ「田舎医者」 ・グレアム・グリーン『第三の男』（早川文庫） ・シェイクスピア『ヴェニスの商人』 ・ベルンハルト・シュリンク『朗読者』		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業で適宜指示します。		
8. 成績評価の方法		
出席+平常点（50%）+学期末レポート（50%）		
9. その他		
何かあれば連絡します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	竹中 克久
1. 授業の概要・到達目標		
<p>現代社会においては、組織とかかわらずに社会生活を営むことは難しい。学校という組織以外の場所で学ぶことは難しいし、病院という組織以外の場所で病気を治療することも難しい。また、多くの労働者は、企業や行政機関といった組織で給与を得るだろうし、多くの消費者は、企業や行政機関といった組織から製品やサービスを享受しているだろう。このように私たちは組織と深く関わりを持っており、そのために組織と社会について学ぶ必要がある。</p> <p>組織とは個人ではなしえないことを可能にするために、人間が産み出した発明品である。この発明品は非常に優れており、大きな成果を生み出すことであれば、そこに所属することによって愛着などの感情を得ることを可能にし、居場所ともなり得る。これは組織の「正」の側面といつていいだろう。</p> <p>ところが、組織は成果を生み出すために犠牲となる存在、すなわち、「過労死」「過労自殺」を産み出すこともある。また、組織内である種の価値観の押しつけ=洗脳が行われることによって、愛着に見せかけた絶対的な忠誠心をメンバーに持たせることがある。その意味では、居場所だと信じていたところは監獄かもしれない。これは組織の「負」の側面といえるだろう。</p> <p>本ゼミナールでは、論文や記事を輪読することによって、組織という対象について深く学び、組織の「正負」の側面を分析できる能力を身につけることを目標とする。また組織にかかる問題として、家族や運動といった現象についても取り上げる。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 イントロダクション——組織社会学とは何か</p> <p>第2回 論文読解1：組織とコミュニケーション</p> <p>第3回 記事読解1：社内恋愛</p> <p>第4回 論文読解2：現代社会における家族の変容</p> <p>第5回 記事読解2：GAFAと愛社精神</p> <p>第6回 論文読解3：ハイストリーチ</p> <p>第7回 記事読解3：人前で泣くリーダー</p> <p>第8回 論文読解4：テレワークでの社員監視がもたらす5つの恐怖</p> <p>第9回 記事読解4：カスハラ</p> <p>第10回 論文読解5：監視社会と組織</p> <p>第11回 記事読解5：理不尽な校則</p> <p>第12回 論文読解6：なぜ「貧困」という問題が表面化しないのか</p> <p>第13回 記事読解6：AI婚活</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>※内容は必要に応じて変更することがある。</p>		
3. 履修上の注意		
事前準備ならびにディスカッションへ積極的な取り組みが必要となる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
必ず事前に論文・記事を熟読し、与えられた課題について自らの考えを用意して臨むこと。		
5. 教科書		
教科書は使用しない予定である。論文・記事はOh-o!Meijiにupする。		
6. 参考書		
必要に応じて指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
毎回のディスカッションにおいて、フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法		
平常点50%、ディスカッション25%、レポート25%		
9. その他		
物事について深く考えるのが好きな学生、物事を疑ってかかる学生を歓迎する。また、教科書を精読する文章読解能力を有していることが必要である。		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	塚原 康博
1. 授業の概要・到達目標		
<p>この授業では、人間の行動を進化の観点から考える。人間行動や人間社会を理解するためには経済学や社会学などが有効であるが、人間も生物であり、進化の過程を経て、現在の人間が形成されたといえる。人間行動や人間社会を正しくかつ深く理解するには、進化的視点が重要である。この授業では、進化の概念や進化の観点からみた配偶者や他者との関係などについて学んでいく。授業の進め方は、各回の授業のテーマに沿った発表をゼミ生がパワーポイントを使って行い、その後、質疑応答に入る。さらに、その後、教員が補足説明をして、質疑応答に入る。授業の最後の回においては、この授業で扱った内容の関係したテーマもしくはゼミ生自身が関心を持ったテーマについて、順番に発表してもらう。</p> <p>この授業を通じて、ゼミ生に物事を論理的かつ有機的に考える思考を身につけてもらうこと、進化という大きな観点から人間や人間社会について理解してもらうこと、人の話を聞き、自分の話を正確かつわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション能力を身につけてもらうことを目標とする。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 人間の本性</p> <p>第3回 古典的な進化学と現代の進化学</p> <p>第4回 「種の保存」の誤り</p> <p>第5回 靈長類の進化</p> <p>第6回 人類の進化</p> <p>第7回 ヒトの生活史戦略</p> <p>第8回 血縁淘汰と家族</p> <p>第9回 血縁によらない協力行動</p> <p>第10回 性淘汰の理論</p> <p>第11回 ヒトにおける性淘汰</p> <p>第12回 ヒトの心の進化</p> <p>第13回 ヒトと文化</p> <p>第14回 プレゼンテーション</p>		
3. 履修上の注意		
この授業はややレベルの高い内容を含んでいるので、履修に当たっては、相応の覚悟と準備が必要である。人間社会や進化について関心を持ち、授業では、質疑応答に積極的に参加し、発表の際には十分な準備をしておくことが求められる。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
次回の授業で取り上げる教科書の部分をあらかじめ熟読しておき、わからない点については、教員に質問をすることが必要である。		
5. 教科書		
『進化と人間行動（第2版）』長谷川寿一・長谷川真理子（東京大学出版会）2022年		
6. 参考書		
使用しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
各回の授業のテーマを各ゼミ生に割り当て、それについてのパワーポイントを作成し、授業内で発表することがゼミ生にとっての課題となる。それについてのフィードバックは、発表時の授業内で行う。		
8. 成績評価の方法		
発表70%、質疑応答30%で評価する。		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	ドウ, ティモシー J
1. 授業の概要・到達目標		
<p>過去25年間、ハリウッドのSF映画は映画業界で非常に人気になり、興業収入が多いジャンルの1つになっています。SF映画は多くの視聴者に人気があり、それだけでなく、SF映画は、検討し議論するのに面白い多くのテーマがとりあげられています。SF映画を見て、科学が私たちの現代の社会と将来の社会に及ぼす影響を考えることができます。</p> <p>到達目標は次のとおりです。(1) SF映画に関する活動を通じたアカデミック英語力（話すこと、聞くこと、読むこと、書くこと）を養います。(2) 授業で観る短編映画の話題に加えて、学生は個人的に興味のあるテーマに関連する短いレポートやプレゼンテーションを作成します。(3) 映画やその他の芸術作品に対する自分の意見を述べるのに役立つ有用な英語の語彙やフレーズを学びます。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 Introduction to film studies 第2回 The genre of science fiction 第3回 Analyzing film scenes 第4回 Early science fiction films 第5回 Analyzing film plot and story 第6回 Exploration in science fiction film 第7回 Analyzing film style 第8回 Alien invasion in science fiction film 第9回 Analyzing sound in film 第10回 Robots in science fiction film 第11回 Analyzing character development 第12回 Dystopia in science fiction film 第13回 Comic book superheroes and SF films 第14回 The future of science fiction film</p>		
3. 履修上の注意		
<p>このゼミナールは CLILアプローチ（内容言語統合型学習）を使います。SF映画を学びながら、スピーキングスキルやアカデミック英語力を養います。</p>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
<p>テーマに基づいた課題を完成させること。グループワークの準備が必要なこともあります。</p>		
5. 教科書		
<p>英語の雑誌の記事などを読みやすくし、コピーを配布します。</p>		
6. 参考書		
<p>特にありません</p>		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
<p>授業のとき、宿題の正答とレポートの解説と講評を行う。最後のレポートはのフィードバックはOh-ol Meiji を通じて配信する。</p>		
8. 成績評価の方法		
<p>グループワーク（20%）、宿題（30%）、レポート（50%）</p>		
9. その他		
<p>このゼミナールは英語で行います。英語の能力だけでなく、学生のアカデミック英語を学びたい気持ちを大切にします。</p>		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	内藤 まりこ
1. 授業の概要・到達目標		
<p>世界から捉える日本古典文学</p>		
【授業の概要】		
<p>小説や映画、演劇、漫画やアニメ、絵画等、私達の周囲にはさまざまな表現作品が生み出され、流通しています。そうした作品の中には、日本の古典文学作品を基にしたものが多く存在します。</p> <p>そこで、本ゼミナールでは、そうした日本古典文学の作品を読み解き、学術的に研究する手法を学習します。具体的には、受講生が日本古典文学を研究するための以下の四つの手法を学習します。</p>		
<p>第一の手法：書誌学的アプローチ 第二の手法：批評理論からのアプローチ 第三の手法：歴史的アプローチ 第四の手法：比較によるアプローチ</p>		
<p>また、ゼミナールの特性として、受講生達は自らが関心を抱く作品を紹介し、ゼミ内で議論を通じて日本古典文学の広く・深い世界を共有していきます。</p>		
<p>さらに、受講生は、自らが選んだ作品をそれらの手法を駆使して分析し、独自の解釈を導き出し、考察を行います。</p>		
<p>また、本ゼミナールでは、論述文の書き方も合わせて学習します。大学生活において論述文を書く機会としてすぐには思いつくのは、レポートや卒業論文の執筆でしょう。しかし、論述文を書くのは大学時代だけではありません。社会に出てからも、私たちは論述文を書き続けることになるのです。なぜなら、私たちは日々自分とは異なる考え方や経験、背景を持つさまざまな人々に出会っており、論述文とは、そうした人々に自分の考えを正確に、わかりやすく伝えるための文章の形だからです。そこで、本ゼミナールでは、レポートを実践例として、どのように自分の思考を組み立て、文章にすればよいのかを学びます。</p>		
<p>なお、論述文の書き方の学習は、1年次に開講される「日本語表現」の授業内容と重なるところがありますが、「日本語表現」を受講した場合でも、本ゼミナールはそこで学習したことを確実に身につけるよい機会となるはずです。</p>		
【到達目標】		
<p>授業を通して体得した日本古典文学を研究する手法を用いて、自ら作品を選んで分析を行い、分析結果に基づく考察を学期末レポートにまとめます。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 オリエンテーション 〈詩歌編〉 第2回 詩歌への書誌学的アプローチ 第3回 詩歌への批評理論からのアプローチ 第4回 詩歌への歴史的アプローチ 第5回 詩歌への比較によるアプローチ 〈散文編〉 第6回 散文への書誌学的アプローチ 第7回 散文への批評理論からのアプローチ 第8回 散文への歴史的アプローチ 第9回 散文への比較によるアプローチ 〈芸能編〉 第10回 芸能への書誌学的アプローチ 第11回 芸能への批評理論からのアプローチ 第12回 芸能への歴史的アプローチ 第13回 芸能への比較によるアプローチ 第14回 ゼミの振り返り</p>		
3. 履修上の注意		
<ul style="list-style-type: none"> 日本古典文学に関する事前の知識は必要としない。 ほぼ毎回課題の提出を求める。課題は成績評価の対象となる。 グループに分かれて課題に取り組む場合がある。 欠席をした場合は、次週までにクラウドウェブの「授業内容・資料」から授業内容を確認し、授業プリントをダウンロードしておくこと。 		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
<ul style="list-style-type: none"> ほぼ毎週、宿題が課される。宿題の内容は、作品の読了もしくは視聴、参考資料の読解等である。 		
5. 教科書		
<ul style="list-style-type: none"> 指定しない。 毎週、授業プリントを配布する。 		
6. 参考書		
<ul style="list-style-type: none"> 適宜、指示する。 		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
<ul style="list-style-type: none"> リアクション・ペーパー、メール、個別面談 		
8. 成績評価の方法		
<ul style="list-style-type: none"> 授業内課題 20% 授業内発表 30% 学期末レポート 50% 		
<p>学期末レポートを未提出の場合には、成績評価の対象としない。</p>		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習B		
2単位	2年次	中里 裕美
1. 授業の概要・到達目標		
<p>本ゼミナールでは、社会学をはじめ経営学、政治学、人類学、社会疫学といった幅広い分野で近年発展を遂げてきている「社会ネットワーク分析」をテーマとします。社会ネットワーク分析は構造主義的なモノに対する考え方が背後にあり、行為者の属性ではなく、その「関係性」に着目して現象を捉えようとする方法論になります。そして、社会ネットワーク分析の対象は、人間関係から企業・組織間関係、国家間の関係など様々なものが含まれます。</p> <p>本ゼミナールでは、このような社会ネットワーク分析にかんする基礎知識を習得するとともに、実際の関係データを分析することを通して、自己と他者、そして社会現象に対する多角的な視点を身につけてもらうことをねらいとします。</p> <p>本ゼミナールは、以下のスケジュールで進める予定です。</p> <p>まず、テキストを輪読して、ネットワーク分析の背後にある理論やこれまでのネットワーク分析を用いた研究事例など、基礎的な事柄について学びます。またその過程で、様々なネットワークの事例を紹介するので、人間関係のネットワークを中心に、各自が関心のある／研究してみたい分野・領域のネットワークを決めてもらいます。そして、そのネットワークを分析するためのデータの作成とその解析用のソフトウェア（UCINET）に関する知識を深めもらうとともに、受講生は関心領域別のグループに分かれて、それぞれのネットワークを分析してもらいます。また、その結果を授業内にて報告・議論し、その成果を「最終レポート」としてまとめてもらいます。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 イントロダクション（文献担当決め等）</p> <p>第2回 ネットワーク分析とは（テキスト第1章）</p> <p>第3回 ネットワークのデータとモデル①（テキスト第2章前半）</p> <p>第4回 ネットワークのデータとモデル②（テキスト第2章後半）</p> <p>第5回 ネットワーク分析の応用研究①（テキスト第3章前半）</p> <p>第6回 ネットワーク分析の応用研究②（テキスト第3章後半）</p> <p>第7回 ネットワークを支えるもの（テキスト第4章）</p> <p>第8回 ネットワーク分析（UCINET）の実習（1）</p> <p>第9回 ネットワーク分析（UCINET）の実習（2）</p> <p>第10回 中間報告会</p> <p>第11回 データ分析とまとめ(1)</p> <p>第12回 データ分析とまとめ(2)</p> <p>第13回 成果報告会（1）</p> <p>第14回 成果報告会（2）</p> <p>履修者数などにより、授業内容の配分を変更することがあります。</p>		
3. 履修上の注意		
<p>ゼミ形式のため、出席や平常点を重視します。また、社会ネットワーク分析を行うためのWindowsが使用できるノートPCを各自で用意してください。</p>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
予習として、テキストの該当部分を事前に読んでおくこと。		
5. 教科書		
<p>『ネットワーク分析—何が行為を決定するか』 安田雪著（新曜社）1997年</p> <p>※初回の授業にて教科書を配布する予定のため、個人で事前に購入しないようにして下さい。</p>		
6. 参考書		
授業時に随時紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
各報告に対するフィードバックは、授業内等にて行います。		
8. 成績評価の方法		
平常点50%、最終レポート50%		
9. その他		
グループ単位で行ってもらう課題が多いため、他の受講生と協働しつつ、積極的かつ主体的に取り組む意欲のある学生の参加を期待します。		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習B		
2単位	2年次	中臺 希実
1. 授業の概要・到達目標		
<p>【授業の概要】</p> <p>受験勉強における「歴史」と大学で学ぶ「歴史」に何の違いがあるのか、さらに現代において「歴史」を学ぶことにどんな意味があるのかを念頭におきながら、江戸時代のメディアを中心に、家族、生殖、ジェンダーに関する意識の形成と変遷を知り、権力による民衆の生活への介入とその意図を理解し、「伝統的家族」や性別役割分業などの危うさと現代社会が抱える諸問題も考える。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確に文献を読み、必要な参考文献を収集する力の習得 ・自分の意見を論理的に他者に伝えることが出来る ・他者の報告に対し、建設的な意見を述べることが可能となる。 		
2. 授業内容		
<p>第1回：イントロダクション<秋学期></p> <p>第2回：レジュメ・レポートの作成方法について①</p> <p>第3回：歴史的事実と歴史叙述</p> <p>第4回：史料を読む<江戸時代における「弱者」①></p> <p>第5回：史料を読む<江戸時代における「弱者」②></p> <p>第6回：報告・ディスカッション①</p> <p>第7回：報告・ディスカッション②</p> <p>第8回：史料を読む<「こども」の位置付け①></p> <p>第9回：史料を読む<「こども」の位置付け②></p> <p>第10回：報告・ディスカッション③</p> <p>第11回：報告・ディスカッション④</p> <p>第12回：史料を読む<江戸時代の「幸せ」-身上りと格差></p> <p>第13回：報告・ディスカッション⑤</p> <p>第14回：報告・ディスカッション⑥</p>		
*授業内容に関しては、変更する可能性があります		
3. 履修上の注意		
<p>予備知識などは必要ありませんが、考えること、議論することに対し、真摯な態度で講義に望んでください。</p> <p>無断欠席はしないこと。自身の報告回に、無断欠席した場合は不可となります。</p>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
当番制でレジュメを作成し、報告してもらいます。担当となった人は、報告テーマに関して、事前に十分な準備をしてください。また、自分以外の人が担当する報告についても、提示された参考文献などに目を通すようにしてください。		
5. 教科書		
特に定めない		
6. 参考書		
<p>『法の力』 ジャック・デリダ、訳堅田研一（法政大学出版）</p> <p>『性差の日本史』 編国立歴史民俗博物館（岩波書店）</p> <p>『性からよむ江戸時代』 沢山美果子（岩波書店）</p>		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
ゼミのなかで、毎回解説を行う。		
8. 成績評価の方法		
出席、ゼミ報告での発表50%、報告レジュメ50%		
9. その他		
歴史学を通じ、現代社会における諸問題を考えることを望む学生を歓迎します。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	南後　由和
1. 授業の概要・到達目標		
<p>近年、渋谷スクランブル交差点のハロウィン、音楽フェス、コミケなどの〈群衆空間〉が注目を浴びていたが、コロナ禍では、物理的な空間に大勢の人びとが集まることが制限された。その一方で、メタバースをはじめ、オンライン上に新たな〈群衆空間〉が台頭するようになった。</p> <p>〈群衆空間〉には、どのような空間的特徴、人びとの振舞い、コミュニケーションが見られるだろうか。〈群衆空間〉が、ソーシャルメディア隆盛の現代都市において注目を浴びるようになったのはなぜだろうか。コロナ禍において、〈群衆空間〉のあり方は、情報空間と連動しながらどのように変化しつつあるだろうか。</p> <p>本演習では、第一に、都市論やメディア論の先行研究である文献や関連資料を読み、〈群衆空間〉についての理解を深める。第二に、〈群衆空間〉を実際にフィールドワークし、現代都市における〈群衆空間〉の実態を明らかにする。第三に、ソーシャルメディアに媒介された〈群衆空間〉の空間的特徴、人びとの振舞い、コミュニケーションのあり方について考察する。</p> <p>到達目標は、(1) 新聞、雑誌、テレビ、ウェブサイト、ソーシャルメディア、VR・ARなどにおける〈群衆空間〉の表象の分析を通じて、データベース検索や資料収集などのアカデミック・スキルを身につけること。(2) 物理空間と情報空間が交差する事象を題材として、都市論とメディア論を横断しながら考察するモノの見方を養うこと。(3) 調査の計画、先行研究・関連資料の検討、フィールドワークの実施、調査内容の分析、調査報告書の作成という社会調査の技法を体得することである。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 講義（1）：〈群衆空間〉とは何か</p> <p>第3回 講義（2）：質的調査の技法、資料の収集方法、調査計画書の書き方</p> <p>第4回 班分け、調査テーマの検討</p> <p>第5回 グループワーク（1）</p> <p>第6回 調査計画書、先行研究・関連資料（1）</p> <p>第7回 調査計画書、先行研究・関連資料（2）</p> <p>第8回 グループワーク（2）</p> <p>第9回 メディアにおける〈群衆空間〉の表象（1）</p> <p>第10回 メディアにおける〈群衆空間〉の表象（2）</p> <p>第11回 フィールドワークの報告（1）</p> <p>第12回 フィールドワークの報告（2）</p> <p>第13回 調査報告書のプレゼンテーション（1）</p> <p>第14回 調査報告書のプレゼンテーション（2）</p> <p>授業内容の配分・順番は、多少変更の可能性があります。</p>		
3. 履修上の注意		
グループワークによるプレゼンテーションやフィールドワークなどをています。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
グループワークによる先行研究・関連資料の考察、メディアにおける表象分析、フィールドワークの実施、プレゼンテーションの準備など。		
5. 教科書		
なし。		
6. 参考書		
『批判的工学主義の建築——ソーシャル・アキテクチャをめざして』、藤村龍至、NTT出版 『現代メディア・イベント論——パブリックビューイングからゲーム実況まで』、飯田豊・立石祥子編著、勁草書房		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業中にコメントやアドバイスをする。		
8. 成績評価の方法		
平常点50%、調査報告書50%		
9. その他		
グループ課題やプレゼンテーションの回数が多い授業のため、モチベーションの高い学生の履修を歓迎します。		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	日置　貴之
1. 授業の概要・到達目標		
<p>【授業概要】</p> <p>歌川広重が安政3年（1856）から5年（1858）にかけて描いた連作の錦絵『江戸名所百景』全119枚には、江戸時代末期、現在から約160年前の江戸の風景が描かれている。この連作の一枚一枚について、描きこまれた場所が、製作当時にはどのように人々に認識されており、なぜ描くべき名所として選ばれたのかを、各種同時代資料の調査を通して考察する。また、画中の風景がその後、現代に至るまでにどのように変容したか（あるいはしなかったか）を、フィールドワーク等も交えつつ調査し、それらの「名所」が現代の私たちにとってはどのような意味を持つ場所であるのかを考える。</p>		
【到達目標】		
過去の芸術作品および芸術・文化と社会との関係について、文献等の資料に基づいて調査をおこない、自身の考えを持つことができる。また、その考えを適切な方法で他者に伝えることができる。		
2. 授業内容		
<p>第1回：イントロダクション～錦絵と名所</p> <p>第2回：名所絵の読み方</p> <p>第3回：グループディスカッション（1）～『江戸名所百景』1枚目</p> <p>第4回：グループディスカッション（2）～『江戸名所百景』2枚目</p> <p>第5回：グループディスカッション（3）～『江戸名所百景』3枚目</p> <p>第6回：受講者による発表（1）～『江戸名所百景』4枚目</p> <p>第7回：受講者による発表（2）～『江戸名所百景』5枚目</p> <p>第8回：受講者による発表（3）～『江戸名所百景』6枚目</p> <p>第9回：受講者による発表（4）～『江戸名所百景』7枚目</p> <p>第10回：受講者による発表（5）～『江戸名所百景』8枚目</p> <p>第11回：受講者による発表（6）～『江戸名所百景』9枚目</p> <p>第12回：受講者による発表（7）～『江戸名所百景』10枚目</p> <p>第13回：受講者による発表（8）～『江戸名所百景』11枚目</p> <p>第14回：まとめ</p>		
3. 履修上の注意		
受講者が主体的に調査・報告をしてもらうので、積極的に授業参加することを望む。授業時間外でも、各自でのフィールドワークなど、かなりの時間の作業をおこなってもらうことになるので、その旨を理解した上で受講すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
初回の授業時に、より詳細な授業計画および参考文献一覧を配布するので、それを参考にして各回の授業前に予習を行った上で授業に参加すること。		
受講者は事前に『江戸名所百景』の任意の一枚を選び、画中の「名所」について、各種資料の調査をおこなうとともに、構図等についての考察をおこなう。また、描かれた「名所」がその後現在に至るまでどのような変遷をとどめたかについても調査をおこない、調査・考察内容について授業で報告をおこなう。		
5. 教科書		
使用しない。		
6. 参考書		
太田記念美術館監修『広重名所江戸百景』美術出版社、2017年 そのほか個別の論文等については、授業中に適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
各回授業についての質問・コメントをクラスウェブから提出してもらおう。次の回以降の授業内およびクラスウェブ上でフィードバックをおこなう。		
8. 成績評価の方法		
発表内容50%、ディスカッションにおける発言・参加度50%。 発表は適切に資料を用いて、作品について調査し、考察できているか、またその内容をわかりやすく発表できているかによって判断する。		
9. その他		
心身の条件等により、受講に際して特別の配慮が必要となる場合は、履修を検討している際にでも、また履修登録後にでも、hioki@meiji.ac.jpへ相談してください。授業資料や板書等について、文字の大きさや字体、色などに配慮したりすることは可能ですし、その他にも可能な範囲で対応を考えます。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習B		
2単位	2年次	蛭川 立
1. 授業の概要・到達目標		
<p>脳神経科学と意識科学の基礎を学ぶ。イギリスで出版されている人文科学系の超小型入門シリーズ「A Very Short Introduction」は、日本語では「〈一冊でわかる〉」シリーズとして翻訳されている。このうち「脳」と「意識」の二冊をテキストにして輪読する。全体として、脳神経系の生化学から、知覚や認知、意識と自我、そして夢や変性意識状態へと議論を進めるが、具体的な内容については、「授業内容」を参照のこと。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回：脳を考える 第2回：体液から細胞へ 第3回：脳の中の情報伝達 第4回：ビッグバンからビッグブレインまで 第5回：感覚・知覚・行為 第6回：記憶はこうしてできる 第7回：なぜ意識は謎なのか 第8回：人間の脳 第9回：時間と空間 第10回：壮大な錯覚 第11回：自我 第12回：意識的な意志 第13回：変性意識状態 第14回：意識の進化</p>		
3. 履修上の注意		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
<p>予備知識は必要ないが、高校生ていどの生物学の知識があれば、なおよい。</p>		
5. 教科書		
<p>オーケイ、M., 山下博志（訳）(2009).『一冊でわかる脳』岩波書店。 (原書は、O'Shea, M. (2005). <i>The Brain: A Very Short Introduction</i>. Oxford University Press.)</p>		
<p>ブラックモア, S., 篠原幸弘・筒井春香・西堤優（訳）(2010).『一冊でわかる意識』岩波書店。 (原書は：Blackmore, S. (2005). <i>Consciousness: A Very Short Introduction</i>. Oxford University Press.)</p>		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
<p>演習形式の授業なので、授業中のディスカッションの中でフィードバックを行う。また、授業に連動したWEBサイトでも授業内容についてのコメントを随時更新していく。</p>		
8. 成績評価の方法		
<p>演習に出席して発表しディスカッションを行う（100%）</p>		
9. その他		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習B		
2単位	2年次	堀口 悅子
1. 授業の概要・到達目標		
<p>【授業の概要】 本ゼミナールでは、アメリカのフェミニズムの歴史を、教科書を用いて概観してみよう。「フェミニスト」とは誰か、という問題について、テキストを読みながら、「ミソジニー」など関連の問題を含めて学んでいく。「フェミニスト」は怖い、などのイメージがあるだろうが、それはなぜ、そう思うのだろうか。深く考えてみよう。</p>		
<p>大阪なおみ、ローザ・パークス、アンジェラ・Y・デービス、ハウニニケイ・トラクス、、ルース・ペイダー・ギンズバーグなどの名前を知っていたか。教科書を通して、10名の女性を知ろう。</p>		
<p>【到達目標】 到達目標は、テキストを読むことで、ジェンダーを含めた、多様な考え方を知ることである。また、実践として、外部に向けてのワークショップなどをを行い、積極的にプレゼンテーションができるようになることである。随時、思想文など、書く力をつける課題も用意しているので、提出物は忘れないこと。</p>		
<p>【外部活動】 1(1)月の週末には、東京ウイメンズプラザ（都内表参道駅下車）のフォーラムまつりで、ゼミ生参加のワークショップを行う。参加費は無料。交通費は必要である。</p>		
<p>12月の第2土曜日の本学部の「学の情コミ 研究交流祭」にも、ゼミとして報告・参加する。</p>		
<p>そのほか、大学生として参加する意義のあるワークショップには、積極的に参加したい。</p>		
<p>以上のようなワークショップにより、ゼミ活動を外部に発信する。東京ウイメンズプラザは、都内にあり、行政関係の資料などがそろっているので、こちらもぜひ、活用してほしい。</p>		
<p>【要望】 学ぶことは、効率の悪いことである。学問に王道なし。ショートカットでよいのだろうか。無駄だと思っても、いろいろなことに挑戦してほしい。積極的で、やる気がある学生を求める。積極的でなくとも、やる気がなくても、本ゼミに入れれば、心持ちに変化が生じることを願う。</p>		
<p>各イベントの参加したのち、その「参加の記録」をレポートとして書いてもらう。自分及び自分のチームが報告するだけでなく、他の人や団体の報告にも関心を持ってほしい。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 イントロダクション： フェミニズムとは—第1波フェミニズムと第2波フェミニズム－女性参政権の歴史など</p>		
<p>第2回 教科書の報告と検討(1)・チームごとの研究</p>		
<p>第3回 教科書の報告と検討(2)・チームごとの研究</p>		
<p>第4回 教科書の報告と検討(3)・チームごとの研究</p>		
<p>第5回 教科書の報告と討論(4)・チームごとの研究</p>		
<p>第6回 教科書の報告と討論(5)・チームごとの研究</p>		
<p>第7回 教科書の報告と討論(6)・チームごとの研究</p>		
<p>第8回 教科書の報告と討論(7)・チームごとの研究</p>		
<p>第9回 教科書の報告と討論(8)・チームごとの研究</p>		
<p>第10回 教科書の報告と討論(9)・チームごとの研究</p>		
<p>第11回 教科書の報告と討論(10)・チームごとの研究</p>		
<p>第12回 チームごとの研究</p>		
<p>第13回 チームごとの研究</p>		
<p>第14回 チームごとの研究・まとめ</p>		
3. 履修上の注意		
<p>毎日の生活を、好奇心を持って生活してほしい。ニュースに関心を持つとう。</p>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
<p>太宰治『人間失格』を読んでください。</p>		
5. 教科書		
<p>『私たちが声を上げるとき アメリカを変えた10の問い』 和泉真澄・坂下史子・土屋和代・三牧聖子・吉原真里著 集英社新書 2022年</p>		
6. 参考書		
<p>『私たちには言葉が必要だ フェミニストは黙らない』 イ・ミンギヨン著 すんみ、小山内園子訳 タバブックス 『差別はたいてい悪意のない人がする』 キム・ジヘ著、尹治景証、大樹書店 『女嫌い』 上野千鶴子、朝日文庫 『早く絶版になってほしい#駄言辞典』 日経BP</p>		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
<p>随時、課題へのフィードバックを行う。最終のゼミで、全体の課題へのフィードバックを行う。</p>		
8. 成績評価の方法		
<p>毎回のゼミへの参加姿勢40%、課外活動等への参加40%、提出物20%</p>		
9. その他		
<p>映画やドラマを観たり、小説や漫画を読んだり、学割の使える映画や美術展などを、貪欲に観に行ったり、してほしい。</p>		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	宮本 真也
1. 授業の概要・到達目標		
<p>問題発見テーマ演習Bでは問題発見テーマ演習Aに引き続き、「権威主義」について考えてみたい。Aを取っておくことは必ずしも必要ではない。以下、重複するが、Aと共通する内容について記しておきたい。</p> <p>私たちの社会においてはさまざまな社会問題が残されている。それは家族の中にも、バイト先でも、友人関係でも、就職先でも、大学でも、世間という曖昧な空間においても、トラブルがあり、それらは例えば、差別や排除、いろんなことについてマウントを取りがちな傾向（学歴、収入、家柄、性別）や肥大化した承認欲求、ジェンダー的な見下しや軽視というようなかたちをとて、私たちを悲しませたり、怒らせる。では、その根っこになにがあるのかということを考えるときの一つの観点として、ここで私は「権威主義」という社会における態度を挙げ、考えてみたい。「権威」はそもそもある人の能力や属性について正しく評価して現れる。しかし、「権威主義」は必ずしもそうではない。最近では、SNSの評判や口コミ、あるいは自己申告の自己アピールにしたがって、誰かに盲目的にしたがったり、信じて疑わない、ある意味で面倒くさい態度である。例えば大学名や、会社名だけで、人の評価が決まり、場合によってはその関係者（「A大学に通う人の恋人」とか、「大物政治家の息子」とか、「上場企業の関係者」）だからといって、尊重することを要求されたり、ついつい大事にしてしまおうとする態度の不毛さを思い起こしてこらえはよい。社会学や政治学や心理学の議論のなかでは、こうした「権威主義」は評判が悪く、民主主義や社会の風通しの良さを阻害してしまう原因として議論されてきた伝統がある。独裁国家の代表とも言えるナチスドイツを可能としてしまった理由として、この「権威主義」が論じられてきたことも重要である。この古いが、現代でも無視できない私たちの社会的態度について、ここでは光を当ててみたい。</p> <p>この授業では、以下で挙げた書籍リストからいくつかを参加者と選び、それぞれ部分的に報告を分担し、自由に議論することで、テキストについてのお互いの理解を確かめ合いたい。ここでは、扱ったテキストの内容を歴史的現象、具体的な社会問題、身の周りの出来事を例として検討することをおこなう。このようにして、まずは社会学や哲学における「権威主義」についての説明のあり方を、応用して考えることができるように訓練したい。学生が今まで漠然と見ていた日常的な事柄を、社会学的に、個々の出来事における個人、社会、文化の絡まり合いに注意して観察するための知識や考え方を身につけることがこの演習の目的である。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 導入 第2回 文献講読1-1 第3回 文献講読1-2 第4回 文献講読1-3 第5回 文献講読1-4 第6回 まとめと議論 第7回 文献講読 第8回 文献講読2-1 第9回 文献講読2-2 第10回 文献講読2-3 第11回 文献講読2-4 第12回 まとめと議論 第13回 文献紹介と議論 第14回 映像作品から現代社会を考える</p>		
3. 履修上の注意		
自分の報告の日でなくとも、テキストは読んでくること。積極的な発言は高く評価するので、話す機会を利用すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
報告者は、前日までに、他の報告者と打ち合わせし、理解を確認しておくこと。また、当日報告者以外の参加者も、テキストは読んで望むこと。復習としては、ゼミでの不明点をまとめておき、次回に質問できるようにしておくことが重要である。		
5. 教科書		
授業の冒頭でどの文献を扱うのかを学生と相談する。 以下のものはそのリストの一部である。		
啓蒙の弁証法を読む、上野、高畠、細見、岩波書店 権威主義の国家、M. ホルクハイマー、紀伊國屋書店 権威主義のパーソナリティ、Th. W. アドルフ、青木書店 アフター・リベラル 怒りと憎悪の政治、吉田徹、講談社新書 (すべて扱うわけではなく、相談する)		
6. 参考書		
随时紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
メールや事後的に授業内でコメントを返すこととする。		
8. 成績評価の方法		
発表50%、レポート50%。ただし出席状況が悪い場合は評価しない。		
9. その他		
データ分析のためにノートパソコンを持参してもらうことがあります。		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	山内 勇
1. 授業の概要・到達目標		
<p>このゼミでは、イノベーション・プロセスに関する経営学的・経済学的な考え方を学習します。どのように付加価値を高め、消費者のニーズを満たしていくかという観点から検討を行っていきます。特に、企業のイノベーション活動を定量的に把握し分析することで、イノベーションの収益性を高めていくためのマネジメントについて学んでいきます。</p> <p>こうした活動を通じて、イノベーション・プロセスを客観的に理解できるようになることを目標としています。また、データのクリーニングから接続、分析まで、実証分析を行うために必要となる一連のスキルを身に付けることも、このゼミの大きな目的です。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 イントロダクション 第2回 グループワーク：差別化と市場創造へのアプローチ 第3回 グループワーク：知識創出のマネジメント 第4回 グループワーク：イノベーションの源泉を生む消費者 第5回 グループワーク：ユーザーイノベーション 第6回 グループワーク：知的財産制度 第7回 グループワーク：データクリーニング 第8回 グループワーク：データ接続 第9回 グループワーク：マーケティング・コンセプト 第10回 グループワーク：プロダクト・ライフサイクル 第11回 グループワーク：市場分析 第12回 グループワーク：回帰分析の方法 第13回 グループワーク：分析結果の解釈 第14回 最終報告</p>		
3. 履修上の注意		
発言のない学生は授業に貢献していないものとみなします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
予習:演習で扱うテーマについて、議論に必要となる情報を参考書等から収集しておくこと。また、担当者は報告資料を用意すること。 復習:演習での報告内容、議論・コメントを整理し、次の報告にいかすこと。		
5. 教科書		
指定しない（資料を配付する）。		
6. 参考書		
『効果検証入門～正しい比較のための因果推論/計量経済学の基礎』安井翔太著、株式会社ホクソエム 『マーケティング・サイエンス入門』古川一郎・守口剛・阿部誠著、有斐閣アルマ 『The Economics of Innovation: An Introduction』G. M. Peter Swann著、Edward Elgar Pub.		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
授業中にフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法		
報告内容（50%）、授業への貢献（50%）		
9. その他		
データ分析のためにノートパソコンを持参してもらうことがあります。		

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習B		
2単位	2年次	山口 生史
1. 授業の概要・到達目標		
<p>組織の事故や不祥事は、枚挙にいとまがないほど、次から次と報道されています。これらの問題には様々な原因がありますが、組織コミュニケーションと組織文化がその原因・遠因の一つであることが少なくありません。新聞報道を読むだけでも、多くの場合、情報が隠ぺいされる（コミュニケーション問題）体質や風土（組織文化の問題）で、情報がうまく伝達、共有、交換されていなかったなどの記述を目にします。したがって、このゼミでは、組織文化に注目し、情報隠ぺいなどのコミュニケーション問題を起こすような組織文化がどのように構築されているのか、また、完全な組織文化を醸成するにはどうすればよいかなどを調査し、探索するすることが目標です。14回の授業のうち、前半は配布資料を読み、事例を分析することで、基盤となる理論を学び、このテーマについて理解を深めようと思います。皆さんの発表に関して、ディカッションとQ&Aを行い、コメントをしながら組織文化の形成と安全文化の構築プロセス及びメカニズムについて説明します。事例調査に関しては、新聞やウェブサイトから（出處提示必須）、事例を探してもらいます。後半は、グループワークで授業を進めます。初步的な質的調査を経験してもらい、研究の方法を理解してもらうこともこのクラスの目標の一つです。調査に関しては、質的調査であるインタビュー調査をチームで行ってもらいます。身近な組織の複数のメンバーにインタビューをしてもらい（スノーボールサンプリング）、得たデータを分析して、「構築されている組織文化とコミュニケーション風土（隠ぺい体質など）」と「組織の事故や不祥事という現象」がどのように相互作用しているのかを探っていきたいと思います。それらをまとめてチームで発表するとともに、各自個別にそれらをペーパー（論文）としてまとめてもらう予定です。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 (1)組織不祥事、組織事故とは (2)組織文化と組織コミュニケーション</p> <p>第2回 組織不祥事、組織事故の分析枠組みと理論</p> <p>第3回 指定配布資料発表 (1)</p> <p>第4回 指定配布資料発表 (2)</p> <p>第5回 指定配布資料発表 (3)</p> <p>第6回 事例調査発表 (1)</p> <p>第7回 事例調査発表 (2)</p> <p>第8回 インタビューの方法とインタビューガイド作成の解説</p> <p>第9回 インタビューガイド作成</p> <p>第10回 データ分析 1 (分析方法の解説)</p> <p>第11回 データ分析 2 (分析モデルを適用して、語りのデータを分析)</p> <p>第12回 データ分析 3 (分析モデルを適用して、語りのデータを分析継続)</p> <p>第13回 データ分析 4 (分析モデルを適用して、語りのデータを分析継続)</p> <p>第14回 調査結果発表</p>		
*諸般の事情により変更の可能性はあります。		
3. 履修上の注意		
課題などの提出は期限を厳守して下さい。調査はチームで行いますが、ファイナルペーパーは個人で書きます。調査に関しては積極的参加とチームワークが必須です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
調査前は配布資料のリーディングと事例を探すこと、及びそれらのサマリー（課題）の提出が必要です。調査の実施において、調査準備、データ収集、データの分析をしてきてください。		
5. 教科書		
特に指定しません。		
6. 参考書		
<p>『組織不祥事』、間嶋崇、文眞堂、2007</p> <p>『企業はなぜ危機対応に失敗するのか：相次ぐ「巨大不祥事」の核心』、郷原信郎、毎日新聞社、2013</p> <p>『組織不祥事研究』、樋口晴彦、白桃書房、2012</p> <p>『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ－研究計画から論文作成まで』太田裕子、東京図書、2019</p> <p>その他クラスにて適宜紹介</p>		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
提出された課題に対しては、コメントあるいは解説を返すことによりフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法		
出席が十分であれば以下の通りに評価します。 ファイナルペーパー 45%； 課題提出 45%； プレゼンテーション 10%		
9. その他		

科目ナンバー：(IC)IND212J
問題発見テーマ演習B
2単位
2年次
脇本 龍太郎
1. 授業の概要・到達目標
【授業の概要】
この演習の目標は、社会心理学の研究法を学ぶことである。特に、構成概念の相関関係を検討する手法について学ぶ。変数間の関連を検討するにはまず、変数そのものを正確に測定することが必要であり、そのためには良い測定尺度が求められる。実際に心理尺度を作成しながら、尺度公正の手法や信頼性と妥当性を検討する方法についても学ぶ。さらに、調査を企画・実施し、得られたデータをオープンソースの統計解析・開発環境であるRを用いて分析する。
【到達目標】
①社会心理学研究法の基礎を身に着ける。 ②基礎的な調査の手法を理解できる。 ③尺度構成の方法を理解できる ④Rによって基礎的な分析を行うことができる。
2. 授業内容
第1回 イントロダクション 第2回 実証研究の論理 第3回 問題の設定と仮説の構成 第4回 目的に応じた研究法の選択 第5回 測定の基礎 第6回 尺度構成 第7回 尺度の作成①：項目作成のためのプレーンストーミング 第8回 尺度の作成②：項目の吟味 第9回 質問紙作成 第10回 Rによる分析講習（データハンドリング） 第11回 Rによる分析講習（記述統計、検定） 第12回 データ分析実習 第13回 発表スライド作成 第14回 研究結果発表、春学期総括
3. 履修上の注意
・脇本が担当する問題発見テーマ演習AとBは別々の授業ではあるが、大枠は共通している。問題発見テーマ演習は様々な学問分野に触れる機会なので、脇本のテーマ演習AとBを同時に履修することは勧めない。 ・グループ作業が中心となるため、途中でゼミを辞めると他の履修者が多大な迷惑を被る。安易な履修は勧めない。 ・ワードやエクセルを普通に使うことができ、PCにトラブルが起きたら自分でネットで検索して解決できる程度のコンピューターリテラシーを前提として授業を進める。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容
レクチャーの際には事前に教科書を読んでおくこと。授業時間外でもグループでの話し合いや作業の時間が必要になる。
5. 教科書
『社会心理学研究入門 補訂新版』安藤清志・村田光二・沼崎誠（編）東京大学出版会
6. 参考書
授業中に適宜紹介する。
7. 課題に対するフィードバックの方法
プレゼンやレジュメについては授業時にフィードバックを行う。
8. 成績評価の方法
演習への参加度 50% 提出物 50%
9. その他

科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	和田 悟
1. 授業の概要・到達目標		
<p>本ゼミナールは、<u>近年注目されている、IoTなど今後の社会に大きな影響をあたえる技術動向について実際に手を動かしながら、その一端を知るための授業</u>です。特に、このうちIoTを念頭に個人でも容易に入手可能な機器を実際に使いながら、どのような技術かについて学びます。実習では、人気のあるマイコンボード（2022年度はArduino互換機を予定）を使います。ハンドごて無しで、簡単な電子回路を組み、必要なプログラミングを行い、実際に動かしてみます。みなさんのやりたいことを実現する選択肢を広げるためにも楽しんで取り組んでもらいたいと思います。</p> <p>実習を通じて、話題になっている技術の仕組みについての基本的な洞察を得ること、自分自身でも簡単な回路が組めるようになることを到達目標とします。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 イントロダクション、使用する開発環境の準備、教材配布</p> <p>第2回 LED制御で学ぶ回路とプログラム・・・基礎</p> <p>第3回 LED制御手学ぶ回路とプログラム・・・応用(1)</p> <p>第4回 ボタンを使った制御 /シリアル通信の利用</p> <p>第5回 プログラミングの基礎 (1) 制御構造 (条件分岐、繰り返し)</p> <p>第6回 ブザーを使って音を出すなど他の出力の利用</p> <p>第7回 プログラミングの基礎 (2) 関数の定義など</p> <p>第8回 アナログ入力の利用(1)・・・可変抵抗、光センサーなど</p> <p>第9回 アナログ入力の利用(2)・・・センサーの値を利用するプログラムを考える</p> <p>第10回 I2C通信と液晶表示器・・・回路の作成と動作確認</p> <p>第10回 I2Cデバイスの追加 温湿度センサーの追加</p> <p>第11回 ここまでまとめと調整</p> <p>第12回 他のデバイスとの通信 (シリアル通信, WiFi接続)</p> <p>第13回 他のデバイスとの通信 (PCとの連携など)</p> <p>第14回 まとめ</p>		
3. 履修上の注意		
<p>授業中にプログラムや電子回路を組んだりすることになります。サンプルプログラムを動かしたり、改良しながら学習を進めます。事前にプログラミングに関する知識がなくても取り組めますが、授業中はプログラミング言語の文法などについてあまり時間を割くことはできないので、必要に応じて、プログラミングに関する知識を自分自身で補う努力をしてもらいたいと思います。</p> <p>授業では学生同士で互いに助け合いながら課題に取り組んでもらいます。興味とやる気さえあれば未経験でも大丈夫でしょう。実際に集まつた受講者と相談しながら、じっくり進めるようにします。逆にこの授業は入門レベルなので、この分野について経験や経験がある人にはもの足りないかもしれません。敢えて履修する場合には、他の学生へのサポートなどで力を發揮してください。</p> <p>実習で使うPCは各自で持参してください。この他、実習で使うマイコンボードや部品等の購入に2,000～5,000円程かかります（2022年度は1,700円）。授業を円滑に進めるため、初回授業の1ヶ月前頃、教材費（実費）の徴収を予定しています。春学期終わり頃からのOh-o!Meijiのお知らせに注意してください。</p> <p>教材は、授業の進度に合わせて教材を順次配布します。特に初回は欠席しないようにしてください。</p>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
<p>夏休みに、初回授業までに準備すべきこと（開発のインストールなど）を指示します。必ず事前にやっておいてください。</p>		
5. 教科書		
<p>必要な資料は配付しますが、初心者は参考書に挙げた『Arduinoをはじめよう』の入手をおすすめします。</p>		
6. 参考書		
<p>『Arduinoをはじめよう』第3版,Massimo Banzi著 オライリージャパン 『エレクトロニクスをはじめよう』Forrest M. Mims III著, オライリージャパン 『ArduinoとProcessingで始めるプロトタイピング入門』、青木直史,講談社 (『Processingをはじめよう』、Casey Reasほか,オライリージャパン)</p>		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
<p>課題は、授業中に指示するプログラミングや回路の組み立てであるが、これらは原則として授業中にその場でフィードバックし、授業時間内に講評・まとめを行う。</p>		
8. 成績評価の方法		
<p>宿題への取組（30%）、授業内での課題への取組（50%）、応用的課題への取組（20%）</p>		
9. その他		
<p>マイコンボードの開発環境などを使うので、USBポートを備えた自分のノートパソコンを持参することを原則とします（貸出もできますが古くて使いにくい）。実習で使うセンサーなどの機材は、秋葉原で安価に手に入るものです。皆さん自身の発想で新しいものを実現できるように頑張りましょう。</p>		
科目ナンバー：(IC)IND212J		
問題発見テーマ演習 B		
2単位	2年次	渡邊 容子
1. 授業の概要・到達目標		
<p>大学生活後半に向けて、今後の目標がしっかりと意識できていますか。大学生活は、学生生活から職業生活に移行するための重要な期間であり、社会の中で自分をどう位置付けるかを考える時間もあります。現在、想定外の感染症の世界的拡大により、これまで顕在化されてこなかった社会・組織・人々の多様な課題が浮き彫りになり、まさにV U C A時代の到来と言えます。社会は、今後も常に変化していきます。</p> <p>このゼミナールでは、職業世界の構造について知ることを通じて、働くことの意義やキャリアの実現に向け、自分と社会との関わりについて「仕事の世界」を捉える視点を構築し、理解と現実のギャップを「問題」と考える力を養います。加えて、適正な情報収集力とその活用能力の向上を目指します。自身の職業世界観を広げ、産業・企業・職業・組織等について理解を深めることにより、外的キャリアの形成と「業界・職業研究」の足掛かりとすることを目標とします。</p> <p>他者が発する情報をどの様に受けとめ、理解するか、それをどのように伝えていくかを意識しながら授業を進めます。キャリアアリテラシー・ビジネスリテラシーについても議論を進めていきます。</p>		
2. 授業内容		
<p>第1回 キャリア形成の階段をもう一段上がる：外的キャリアの意義</p> <p>第2回 働くことの意味と働き方：多様な働き方と労働市場の課題</p> <p>第3回 キャリアアリテラシーへのアプローチ (GD・GW)</p> <p>第4回 職業世界を知ろう（1）種類と仕組み</p> <p>第5回 職業世界を知ろう（2）情報の捉え方</p> <p>第6回 社会との関わりとリテラシー</p> <p>第7回 自己理解と職業選択における自己実現</p> <p>第8回 業界研究・企業研究（1）方法と目的</p> <p>第9回 業界研究・企業研究（2）実践</p> <p>第10回 プレゼンテーションの方法とレポートの書き方</p> <p>第11回 プレゼンテーションの実践（1）</p> <p>第12回 プレゼンテーションの実践（2）</p> <p>第13回 プレゼンテーションの実践（3）</p> <p>第14回 レポートの提出と3年生に向けてやるべきこと</p>		
3. 履修上の注意		
<p>可能であれば、「問題発見テーマ演習A」とセットの履修を推奨します。キャリア形成の観点から、学生間・学生と教員間のコミュニケーションを重視します。</p> <p>無断欠席をしないこと。授業の参加度として出席を重要視します。</p>		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容		
<p>社会の仕組みや社会情勢に关心をもって、日常を過ごすこと。新聞の購読は必須です。</p>		
5. 教科書		
<p>特に指定しません。毎回レジュメを配布します。</p>		
6. 参考書		
<p>『働き方の哲学』、村山昇、(Discover21)</p>		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
<p>各自の研究成果とそれに伴うプレゼンテーションについて、授業ないでフィードバックを行います。</p>		
8. 成績評価の方法		
<p>授業への参加度30%、授業内提出物10%、プレゼンテーション20%、レポート40%</p>		
9. その他		
<p>演習を通して、将来の仕事についての理解を深めてほしいと考えます。就職活動の参考になる情報も適宜提供します。</p>		